

ICOM

取扱説明書

COMMUNICATIONS RECEIVER  
**IC-PCR1500**  
**IC-R1500**



Icom Inc.

# はじめに

このたびは、IC-PCR1500/IC-R1500をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

IC-PCR1500はパソコン操作型のコミュニケーションレシーバー、IC-R1500はコントローラー操作型のコミュニケーションレシーバーです。

IC-PCR1500はUSBポートをインターフェイスとして使用し、Windows 98 SE/Me/2000/XP環境のパソコンに対応しています。

ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いいただきますようお願い申し上げます。

本書をお読みになったあとも、いつでも読めるように大切に保管してください。

## マウスのボタン操作について

マウス操作について、本書のマウス操作でクリック、ダブルクリックと記載している説明は、左(主)ボタンの操作となっています。

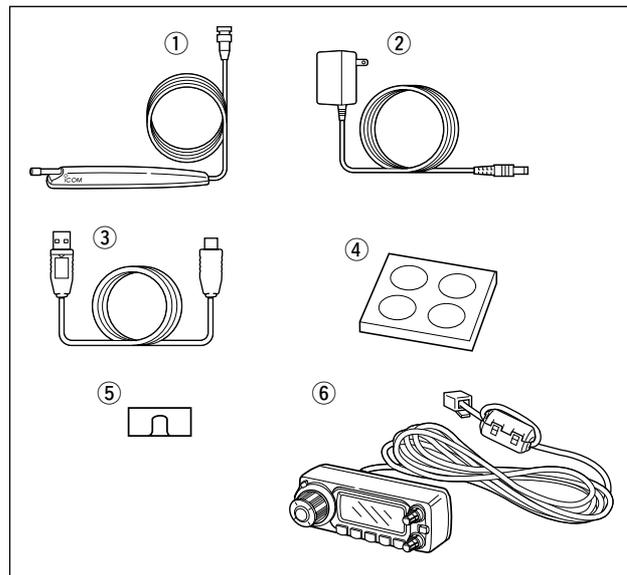
なお、マウスのプロパティの設定で、左ボタンを“補助”、右ボタンを“主”に設定しているときは逆の操作となります。

## ユーザー登録について

付属の愛用者カードに必要事項をご記入いただき、必ず投函してください。

ユーザー登録はバージョンアップ・サービスなどをご提供するときに必要なとなります。

## 付属品



- |                      |         |               |         |
|----------------------|---------|---------------|---------|
| ① アンテナ               | ..... 1 | ⑥ コントローラー*    | ..... 1 |
| ② ACアダプター            | ..... 1 | *IC-R1500のみ付属 |         |
| ③ USBケーブル(約1m)       | ..... 1 |               |         |
| ④ クッションシート<br>(4個付き) | ..... 1 |               |         |
| ⑤ ワイヤーステッカー          | ..... 1 |               |         |

- CD
- 取扱説明書
- 保証書
- 愛用者カード

はじめに	i	■ USBポートの接続確認	24
もくじ	ii	<b>4. 各部の名称と機能</b>	<b>25</b>
<b>動作環境/登録商標について</b>	<b>vii</b>	■ 多機能レシーバーについて(IC-PCR1500)	25
■ 動作環境について	vii	■ コンポ型レシーバーについて(IC-PCR1500)	29
■ 登録商標について	vii	■ シンプル型レシーバーについて(IC-PCR1500)	29
■ ご使用上の注意	viii	■ 各レシーバーの特徴(IC-PCR1500)	29
<b>安全上のご注意(必ずお読みください)</b>	<b>ix</b>	■ ツールバーについて(IC-PCR1500)	30
■ 受信機本体について	ix	■ 表示部について(IC-PCR1500多機能型レシーバー)	31
■ ACアダプターについて	x	■ 表示部について(IC-PCR1500コンポ型レシーバー)	33
■ その他取り扱いのご注意	xi	■ 表示部について(IC-PCR1500シンプル型レシーバー)	33
■ バンドスコープ画面表示中のご注意	xi	■ フロントパネルについて(IC-R1500コントローラー)	34
■ CDの清掃と保管について	xi	■ 表示部について(IC-R1500コントローラー)	36
■ モービル運用時のご注意	xii	■ 本体前面部について	38
<b>1. 接続について</b>	<b>1</b>	■ 本体後面部について	38
■ 本機とパソコン、コントローラーとの接続について	1	<b>5. 基本操作のしかた</b>	<b>39</b>
■ TNCとの接続のしかた	2	■ IC-PCR1500の起動/レシーバーの切替について	39
<b>2. USBドライバーのインストール(IC-PCR1500使用時)</b>	<b>3</b>	◇IC-PCR1500を起動する	39
◇Windows® XPの場合	3	◇レシーバータイプを切り替えるには	39
◇Windows® Meの場合	5	◇コンポ型レシーバーの表示について	40
◇Windows® 98 SEの場合	9	■ IC-PCR1500を終了するには	40
◇Windows® 2000の場合	13	◇コントローラーによる電源の“ON/OFF”(IC-R1500)	40
■ USBドライバーの再インストールについて	18	■ 音量の調整する	41
◇Windows® 2000の場合	18	■ スケルチレベルを調整する	41
◇Windows® XPの場合	18	◇コントローラーによる音量、スケルチレベルの調整 (IC-PCR1500)	41
<b>3. セットアップのしかた(IC-PCR1500使用時)</b>	<b>21</b>	◇ノイズスケルチを設定するには	42
■ IC-PCR1500コントロールソフトウェアのインストール について	21	◇Sメータースケルチを設定するには	42
■ IC-PCR1500の起動	23	■ 受信モード(電波型式)を設定する	43
◇Windows® XPの場合	23	◇受信モード(電波型式)を設定する	43
◇Windows® 98 SE/Me/2000の場合	23	◇コントローラーによる受信モード(電波型式)の設定 (IC-PCR1500)	44
■ アンインストールについて	24		

# もくじ

◇オートマッチックモード機能を使用するには	44	■ メモリーモードについて	57
◇コントローラーによるオートマッチックモードの設定 (IC-R1500)	44	■ メモリーチャンネル(M-CH)の呼び出しかた	58
◇オートマッチックモードを編集するには	44	◇[▲]/[▼]ボタンで呼び出すには	58
■ 受信周波数を設定するには	45	◇テンキーから呼び出すには(多機能型/コンボ型のみ)	59
◇コントローラーによる受信周波数の設定(IC-R1500)	47	■ メモリーチャンネルエディターから呼び出すには	59
■ 周波数ステップ(TS)を変更するには	48	■ メモリー(M-CH)への書き込みかた	59
◇設定できる周波数ステップ	48	■ メモリークリア(消去)のしかた	60
◇コントローラーによる周波数ステップ(TS)の設定 (IC-R1500)	49	■ メモリーチャンネルエディターで編集するには	61
◇コントローラーで設定できる周波数ステップ (IC-R1500)	49	◇メモリーチャンネルエディター上で名前、受信周波数 などの追加/訂正のしかた	61
■ モニターのしかた	49	◇バンクネームの設定を変更する	62
◇コントローラーによるモニターのしかた(IC-R1500)	50	◇バンクネームでメモリーバンクを呼び出す	62
■ ミュート(消音機能)について	50	◇メモリーチャンネル(M-CH)の挿入と削除	63
■ IFフィルターの切り替えかた	51	◇列幅の変更	63
◇コントローラーによるIFフィルターの切り替えかた (IC-R1500)	52	■ メモリーチャンネルエディターをバックアップするには	64
■ アッテネーター(ATT)機能について	52	■ メモリーチャンネルを印刷する	64
◇コントローラーによるアッテネーター(ATT)機能の 切り替えかた(IC-R1500)	53	■ 新規ファイルの作成と保存のしかた	65
■ AGC(自動利得制御)について	53	■ ファイルを開くには	65
◇コントローラーによるAGC(自動利得制御)機能の切り 替えかた(IC-R1500)	54	■ CSVフォーマットファイルを取り込むには	66
■ AFC(自動周波数制御)機能の使いかた	54	■ CSVフォーマットファイルに出力するには	66
◇コントローラーによるAFC(自動周波数制御)機能の使い かた(IC-R1500)	55	■ テレビ放送(音声)周波数のプリセットについて	67
■ NB(ノイズブランカー)機能の使いかた	55	■ IC-R1500のM-CHの初期設定値について	68
◇コントローラーによるNB(ノイズブランカー)機能の使い かた(IC-R1500)	56	■ M-CHの呼び出しかた	68
6. メモリーの使いかた	57	◇すべてのM-CHを呼び出す	69
		■ メモリー(M-CH/PROGRAM-CH)への書き込みかた	69
		◇M-CHの書き込みかた	69
		◇書き込み後のオートイングリメントについて	71
		◇M-CHの内容をVFOに転送して使うには	71
		◇M-CHの内容を他のチャンネルへ複写するには	71
		■ M-CHをバンクで編集する	72
		◇M-CHとバンクの使用例	72

◇バンクのM-CH表記について	72	■ VFOスキャンのしかた	90
◇編集のしかた	72	◇VFOスキャン/プログラムスキャンの操作	90
◇メモリーバンクに編集した内容を確認するには	73	■ メモリスキャンのしかた	91
■ メモリーネームの使いかた	74	◇メモリスキャンの操作	91
◇メモリーネームを入力する	74	■ メモリーバンクスキャンのしかた	91
◇メモリーネームを表示するには	75	◇メモリーバンクスキャンの操作	91
■ メモリークリア(消去)のしかた	76		
◇メモリーの内容を消去する	76	<b>8. プライオリティスキャンの操作</b>	<b>92</b>
<b>7. スキャンのしかた(多機能型/コンボ型のみ)(IC-R1500)</b>	<b>77</b>	<b>(多機能型/コンボ型のみ)(IC-R1500)</b>	<b>92</b>
■ IC-PCR1500のスクリーンについて	77	■ IC-PCR1500のプライオリティスキャンについて	92
◇スクリーン機能を使用する前に	77	◇M-CHを受信中にもう一方のM-CHをプライオリティ	
◇スケルチの設定	77	スキャンで受信する	92
◇スクリーン再スタートの条件設定	77	■ IC-R1500のプライオリティスキャンについて	94
■ スキャン再スタートの遅延時間	78	◇VFO周波数を受信中にM-CHを受信する	94
■ スキャンスピードの設定	79	◇VFO周波数を受信中にM-CHを順次受信する	95
■ プログラムスキャンについて	79	◇VFO周波数を受信中にメモリーバンクに編集したM-CH	
◇プログラムスキャン機能を使用する前に	79	(周波数表示のみ)を受信する	95
◇プログラムスキャンの操作	81	<b>9. トーン機能/DTCS機能について</b>	<b>96</b>
■ オートメモリーライトスキャンについて	82	■ トーンスケルチ機能の使いかた	96
■ メモリスキャンについて	84	◇トーンスケルチ機能とは	96
■ オプション機能によるメモリスキャン時の各種自動選		◇ポケットビープ機能とは	96
局について	85	◇トーンスケルチ周波数、トーンスケルチ機能を設定する	96
■ IC-R1500のスクリーンについて	88	◇コントローラーによるCTCSSトーン/CTCSSトーン	
◇スケルチの調整	88	周波数の設定(IC-R1500)	97
◇スクリーン中の[DIAL]ツマミについて	88	◇DTCS機能とは	98
◇スクリーン中のステップについて	88	◇DTCSコード、DTCS機能を設定する	98
◇スキップ機能について	88	◇コントローラーによるDTCS/DTCSコードの設定	
◇受信モード(電波形式)について	88	(IC-R1500)	99
◇信号を受信すると	89	■ DTCS極性反転機能について	100
◇再スタートの条件設定	89	◇コントローラーによるDTCS位相反転機能について	
◇スキップチャンネルの指定と解除のしかた	89	(IC-R1500)	101
		■ トーン/コードスキャンのしかた	102

# もくじ

■ コントローラーによるトーン/コードスキャンのしかた (IC-R1500) .....	103
◇スタート操作 .....	103
<b>10. その他の機能 .....</b>	<b>104</b>
■ バンドスコープ機能の使いかた(IC-PCR1500多機能型 /コンポ型のみ) .....	104
◇バンドスコープの操作(周波数モードでの解析) .....	104
◇バンドスコープの操作(時間モードでの解析) .....	105
◇周波数スパンを切り替えるには .....	106
◇時間スパンを切り替えるには .....	106
◇LIMIT(リミット)表示について .....	107
◇自動スイープステップ制限を切り替えるには .....	107
◇ピックアップシグナルについて .....	108
◇バンドスコープデータを保存する .....	108
◇ワイドバンド・バンドスコープ機能について .....	110
■ デュプレクス通信を受信する .....	111
◇デュプレクスとは .....	111
◇オフセット周波数とは .....	111
◇レピータの送信周波数を設定する .....	112
◇デュプレクスモードとオフセット周波数を設定する ..	112
◇デュプレクス通信の両周波数を受信する .....	113
◇コントローラーによるレピータ送信周波数の設定 (IC-R1500) .....	114
◇コントローラーによるデュプレクスモードとオフセット 周波数の設定(IC-R1500) .....	114
◇コントローラーによるデュプレクス通信の両周波数の 受信(IC-R1500) .....	114
■ デュプレクスモードを解除するとき .....	115
◇コントローラーによるデュプレクスモードの解除 (IC-R1500) .....	115
■ VSC(ボイススケルチコントロール)機能について .....	115
◇コントローラーによるVSC(ボイススケルチコント ロール)機能の設定(IC-R1500).....	115
■ IFシフト機能について .....	115
◇コントローラーによるIFシフト機能の設定 (IC-R1500) .....	116
■ 空線キャンセラー機能について .....	116
◇コントローラーによる空線キャンセラー機能の設定 (IC-R1500) .....	117
◇コントローラーによる空線キャンセラー周波数の設定 (IC-R1500) .....	117
■ MSK機能について .....	118
◇コントローラーによるMSK機能の設定(IC-R1500) ..	118
■ DTMF機能について(IC-PCR1500のみ) .....	119
■ オーディオコントローラーについて (IC-PCR1500のみ) .....	120
◇パソコンに接続、内蔵されているスピーカーから音を 出すとき .....	121
■ ショートカットキーについて(IC-PCR1500のみ) .....	123
■ マルチチャンネルモニターについて (IC-PCR1500のみ) .....	124
■ 内部スイッチの切り替えについて .....	126
■ 録音機能の使いかた(IC-PCR1500のみ) .....	127
◇受信した信号を録音する .....	127
◇録音したデータを再生する .....	127
◇サンプリングレートを指定する .....	128
◇リモート録音機能を使用する .....	128
■ 接続しているUSBポートの確認(IC-PCR1500のみ).....	129
◇コントロールソフトが起動していないとき .....	129
◇コントロールソフトが起動しているとき .....	129
■ USBオーディオの機能設定について (IC-PCR1500のみ) .....	130

◇USBオーディオ出力を“OFF”にするには	130	◇VSC(ボイススケルチコントロール)機能の設定	139
■ スケルチディレイを設定する	131	◇スキャンストップタイマーの設定	139
◇コントローラーによるスケルチディレイの設定のしかた(IC-R1500のみ)	131	◇メモリーネーム表示の設定	139
■ ビープ音について(IC-R1500のみ)	131	◇メモリーバンクのリンク設定	140
■ キーロック機能の使いかた(IC-R1500のみ)	132	◇プログラムスキップの設定	140
■ オートパワーオフ機能の使いかた(IC-R1500のみ)	132	◇AFC(自動周波数制御)機能の設定	141
■ クローニングについて	132	◇IFフィルター通過帯域幅の設定	141
■ CP-12L(別売品)のヒューズ交換のしかた	132	◇IFシフト機能の設定	141
■ リセット操作について(IC-R1500のみ)	133	◇スケルチディレイの設定	141
◇オールリセットの操作	133	◇ANF(Automatic Notch Filter)機能の設定	142
◇パーシャルリセットの操作	133	◇NR(Noise Reduction)機能の設定	142
<b>11. SETモードの設定(IC-R1500のみ)</b>	<b>134</b>	<b>12. UT-106(別売品DSPユニット)について</b>	<b>143</b>
■ SETモードの設定のしかた	134	■ UT-106の取り付け	143
◇SETモードの操作	134	■ ANF(Automatic Notch Filter)機能について	144
◇メモリーバンクのリンク設定モードについて	134	■ コントローラーによるANF機能の設定(IC-R1500)	144
◇SETモードの設定項目一覧	135	■ NR(Noise Reduction)機能について	145
■ SETモードの項目について	136	■ コントローラーによるNR機能の設定(IC-R1500)	145
◇ビープ音(操作音)の設定	136	<b>13. ご参考に</b>	<b>146</b>
◇ビープ音(操作音)の音量設定	136	■ テレビ放送(音声)周波数一覧	146
◇オートパワーオフ機能の設定	136	■ 付属品の取り付けかた	146
◇ディママーの設定	136	◇クッションの取り付けかた	146
◇バックカラーの設定	137	◇ワイヤーステッカーの取り付けかた	146
◇コントラストの設定	137	■ 故障かな?と思ったら	147
◇シンプレックス/デュプレックスの設定	137	■ アフターサービスについて	148
◇オフセット周波数の設定	137	<b>14. 定格と別売品について</b>	<b>149</b>
◇トーンスケルチ用トーン周波数の設定	138	■ 定格	149
◇DTCSコードの設定	138	◇一般仕様	149
◇DTCS極性反転機能の設定	138	◇受信部	149
◇TRAIN/MSK機能の設定	138	■ 別売品一覧	150
◇TRAIN周波数の設定	139		

# 動作環境/登録商標について

## ■ 動作環境について

IC-PCR1500のコントロールソフトウェアをご使用になるには、下記OS(オペレーティングシステム)をインストールしたパソコンが必要です。

- Windows XP Professional
- Windows XP Home Edition
- Windows 2000 Professional
- Windows Millennium Edition
- Windows 98 Second Edition

※本書では、各対応OSに対する記載について下記のように総称し、表記しています。

Windows XP、Windows 2000、Windows Me、  
Windows 98 SE

◎本製品をご使用になるときは、他のアプリケーションを起動させずにご使用になることをおすすめします。  
◎本製品の使用または使用不能から生じる付随的な損害(パソコンのハングアップなどによるデータの消去など)に関して、弊社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

## ■ 登録商標について

アイコム株式会社、アイコム、Icom.Inc.、icom は、アイコム株式会社の登録商標です。

IC-PCR1500のソフトウェアおよびドキュメントは、アイコム株式会社が著作権を保有します。

アイコム株式会社の著作物の全部または一部を無断記載、複製およびいかなる方法による複製を禁止します。

D-STARは、社団法人日本アマチュア無線連盟の登録商標です。

Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

本文中の画面の使用に際して、米国Microsoft Corporationの許諾を得ています。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

※IC-R1500とパソコンを付属のUSBケーブルで接続すると、IC-PCR1500のコントロールソフトウェアで操作できます。コントロールソフトウェアで操作中、IC-R1500のコントローラーは使用できませんので、ご注意ください。

## ■ ご使用上の注意

次のような取り扱いをされますと、ご使用のパソコンがハングアップすることがありますので、ご注意願います。

- IC-PCR1500のコントロールソフトウェアの電源を“ON”にしたまま、本体スイッチを“OFF”(パイロットランプが消灯)にしたり、ACアダプターを抜いたとき。
  - 別売品のCP-12L(シガレットライターケーブル)使用時に、IC-PCR1500コントロールソフトウェアの電源を“ON”にしたまま、エンジンを起動したとき(エンジン起動時にシガレットライターの電源が瞬断するため)。
  - IC-PCR1500コントロールソフトウェアの電源を“ON”、本体スイッチを“ON”(パイロットランプが点灯)にしたまま、USBケーブルを抜き差ししたとき。
- ◎ USBオーディオはOSを含めたパソコンのパフォーマンスに影響を受けます。そのため、音が途切れたり、コントロールソフトからの制御が遅れたりすることがあります。
- ◎ パソコンに負荷がかかったとき、USBオーディオの音切れがしやすくなりますので、OSはWindows XPのパソコンをご使用になることをおすすめします。
- ◎ WindowsXPをお使いの場合、IC-PCR1500をパソコンに接続したとき、Windowsの録音/再生デバイスの設定が変化しますので、ご注意ください。
- ◎ パソコンからの受信音は、ミキサーのWAVEレベルの設定が影響することがあります。
- ◎ 2413MHz帯でTV放送波などを受信することがあります。これは本機の内部発振(スプリアス)によるもので、故障ではありません。
- ◎ ご使用にならないときは、本体の電源スイッチを“OFF”にしてください。パソコンでコントロールソフトウェアを終了しても、本体電源が“ON”になっていると電流が消費されます。  
車のバッテリーに直接接続している場合、本体の電源を“ON”にしたままにしておくと、バッテリーが上がる場合があります。

【ご参考(パソコンでIC-PCR1500コントロールソフトウェアのみが動作しているとき)】

◎ IC-PCR1500制御用パソコンの動作環境について(お使いのOSによって異なることがあります)

- |  |                             |
|--|-----------------------------|
| ※C P U : Pentium III 450MHz以上<br>(推奨: Pentium 4) | ※メモリー: 128MB以上(推奨: 256MB以上) |
| ※HDD空き容量: 50MB以上                                 | ※USB: 2.0/1.1               |
|  | ※ディスプレイ: 1024×768ハイカラー以上    |

◎ 録音やデータ保存に必要なHDD容量

- |                                |                                  |
|--------------------------------|----------------------------------|
| ※メモリーチャンネルデータ: 最大約500kB        | ※スコープデータ保存(周波数モード): 最大約5MB/時間    |
| ※スコープデータ保存(時間モード): 最大約1.5MB/時間 | ※受信信号録音: 最大約300MB/時間<br>(高音質録音時) |

# 安全上のご注意(必ずお読みください)

安全にお使いいただくために、必ずお読みください。

- ここに示した記載事項は、使用者および周囲の人への危害や財産を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
- お読みになったあとは、大切に保管してください。

## ■受信機本体について



### 警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- 万一、煙が出ている、変なにおいがするなど異常状態のまま使用しないでください。  
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。  
すぐに電源を切り、DC INコネクタに接続している電源コードを抜いてください。  
煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、サポートセンターまたは弊社各営業所カスタマーサービス担当に連絡してください。
- 指定以外のACアダプターは使用しないでください。  
火災、感電、故障の原因になります。
- ガス管や配電盤に接地しないでください。  
感電や漏電、火災の原因になります。
- この製品は完全調整していますので、分解、改造しないでください。  
火災、感電、故障の原因になります。
- 製品の中に線材のような金属物や水を入れないでください。  
火災、感電、故障の原因になります。
- 雷が鳴り出したら、安全のため電源スイッチを切り、本機に接続している電源コード、アンテナを抜いてください。  
アンテナには絶対にさわらないでください。  
落雷によって、火災、感電、故障の原因になります。

## ■ 受信機本体について(つづき)

 **危険**

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- 直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など温度変化の激しい場所に放置しないでください。変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
- テレビやラジオのすぐ近くで使用しないでください。電波障害を受けたり、雑音が発生することがあります。
- 製品を落としたり、強い衝撃を与えないでください。けが、故障の原因になることがあります。
- 製品の上に乗ったり、物を置いて保管しないでください。落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になることがあります。
- 付属のアンテナの端を持って振り回したり、アンテナケーブルを持って振り回したりしないでください。本人や他人に当たって、けがや故障、および破損の原因になります。
- ぐらついた台や傾いたところ、振動の多い場所には設置しないでください。落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になることがあります。

## ■ ACアダプターについて

 **警告**

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または負傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- 電源コードを無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱や加工しないでください。傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。
- 電源コードの上に重い物を載せたり、挟んだりしないでください。傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。
- 電源コードや接続ケーブルを抜き差しするときは、必ずプラグの部分を持って行ってください。火災、感電、故障の原因になります。
- 電源コードや接続ケーブルが傷ついたり、ACコンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。火災、感電、故障の原因になりますので、お買い上げの販売店、または弊社営業所カスタマーサービス担当に連絡してください。
- ぬれた手で電源プラグや機器に絶対触れないでください。感電の原因になります。

## 安全上のご注意

### ■その他取り扱いのご注意

- 電波法第59条で「特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない。」と通信の秘密に関して定められています。
- IC-PCR1500/R1500は広帯域受信機ですから、受信機の内部発信(スプリアス)により、受信できなったり、雑音を発生する周波数もありますのが、故障ではありません。
- アンテナは、パソコンやテレビの近くに設置すると、ノイズなどの影響を受けますので、できるだけ離して設置してください。
- パーソナル無線やアマチュア無線を使って、本機の至近距離で送信すると、本機が誤動作する場合があります。アンテナを1m以上離し、必要時は本機のアッテネーターを動作させながら受信してください。
- 使用する地域によって、外部アンテナを使用したり、近くに強い電波があるときなど、妨害を受けることがあります。アンテナは受信周波数に合った専用のものが市販されていますが地域差や電波の状況により受信できない場合があります。
- FM/TV送信局が近くにある場合(特に東京/大阪など)、強い電波により妨害を受けやすくなりますので、このような地域においては、本機のアッテネーターを動作させながら受信してください。
- 清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。ケースが変色したり、塗料がはげる原因になることがあります。普段は柔らかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

### ■バンドスコープ画面表示中のご注意

- SSB/CWモード選択時の音声出力について  
バンドスコープ画面を表示中に[START]ボタンを押すと、スイープを開始します。  
スイープ中は、SSB/CWモードのみ音声出力を停止します。

### ■CDの清掃と保管について

- 表面に付着した指紋やホコリによるCDの汚れは、起動時のデータ読み取り不良の原因になりますので、いつもきれいに清掃してお使いください。
- 普段は、やわらかい布を使って、CDの中心から外の方向へ軽くふいてください。
- 汚れのひどいときは、水をやわらかい布に少し含ませてふいてください。
- ベンジンやシンナー、レコードクリーナー、静電気防止剤などは、CDの表面を傷める原因になりますので、使用しないでください。
- 直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には置かないでください。また、長時間使用しないときは、ケースに入れて保管してください。
- CDのそりが原因で、起動時のデータ読み取り不良になることがあります。

## ■モバイル運用時のご注意

- 安全運転のため、走行中に本機を操作しないでください。操作するときは、必ず安全な場所に車を停車させてください。
- 安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で車両を運転しないでください。  
一部の都道府県では、走行中にイヤホンやヘッドホンなどを使用することが条例で規制されています。
- 本機、コントローラーを取り付ける場合、安全運転に支障がないように取り付けてください。  
また、エアバック装備車に本機を取り付ける場合、このシステムの動作に影響を及ぼす取り付けかたはしないでください。
- 本機をハイブリッドカー(ガソリンエンジンと電気モーターを交互に使用することで、エネルギー消費を大幅に減らした自動車)でご使用になる場合は、ハイブリッドカーに搭載されているインバーターからのノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

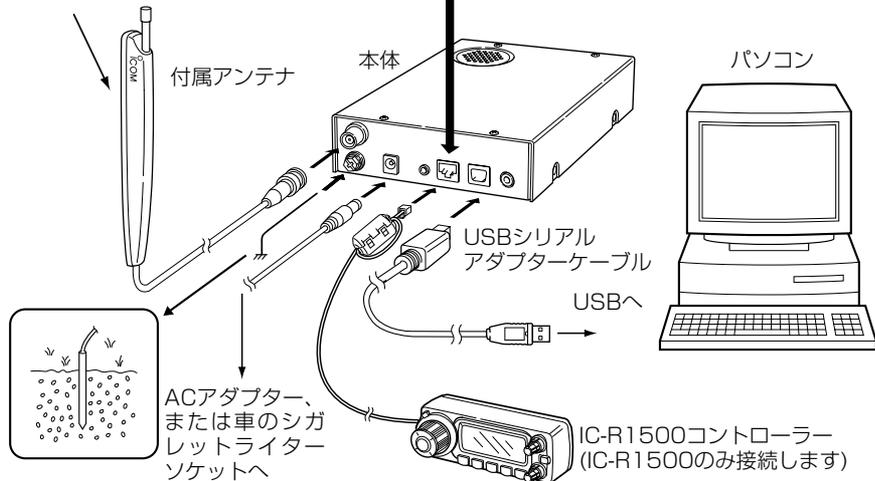
# 1 接続について

## ■ 本機とパソコン、コントローラーとの接続について

本機、パソコンの電源が切れていることを確認してから、下図のように接続してください。

■ アンテナホルダーに両面テープがセットされています。薄紙をはがして、アンテナを固定することができます。

IC-PCR1500でここに導通性の物を挿入すると、ショートなどにより本機が壊れることがありますので、ご注意ください。



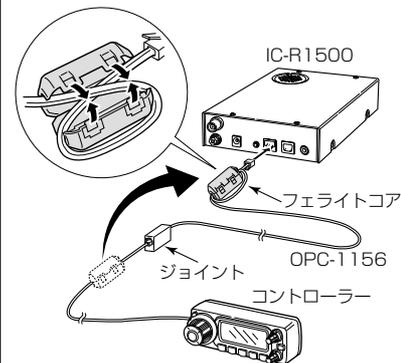
付属のUSBケーブルをご使用にならなかったり、ケーブルを延長してご使用になる場合、動作については保証いたしません。あらかじめご了承ください。

### △ ご注意

ガス管、配電管や水道管などは爆発や感電の原因となり大変危険ですから、絶対にアースとして使用しないでください。

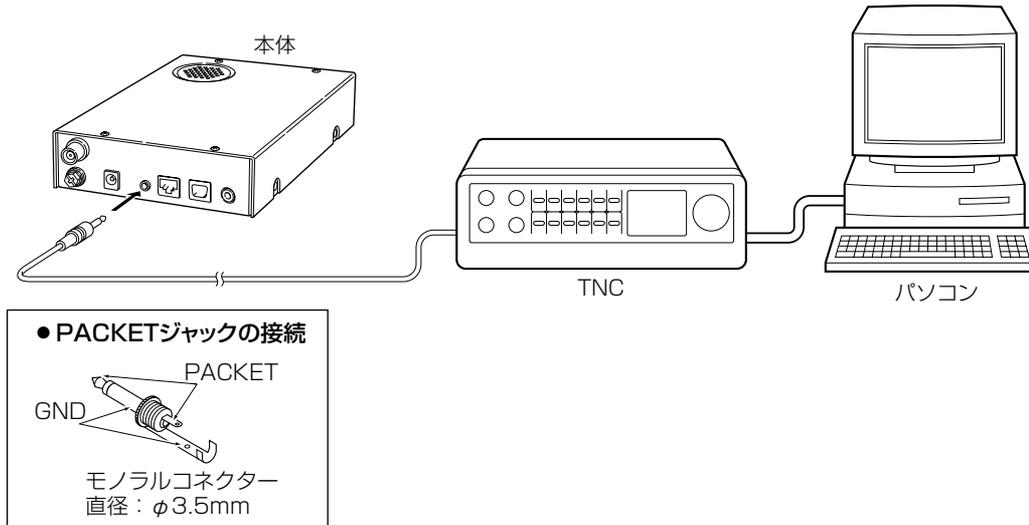
■ OPC-1156(別売品)をご使用のとき (IC-R1500のみ)

- ① コントローラーのコネクターをOPC-1156に付属のジョイントに接続します。
- ② フェライトコアを取りはずし、OPC-1156の片方に取り付けます。取り付けるときは、フェライトコアにケーブルを1回巻き付け、できるだけコネクター部に近いところに取り付けてください(下図を参照ください)。
- ③ OPC-1156のフェライトコアが付いている側をIC-R1500に、付いていない側をジョイントに接続します。



## ■ TNCとの接続のしかた

- ◎パケット(AFSK)通信の受信に必要なTNC(Terminal Node Controller)は、下図のように接続してください。
- ◎TNCの接続は、後面パネルのPACKET(9600bps)端子に接続します。  
(通信速度：9600bpsに対応します。)
- ◎なお、接続する際は使用するTNCに添付の取扱説明書をよくお読みください。



IC-PCR1500とパソコンはUSBで接続しています。  
このため、パソコンにUSBドライバーをインストールする必要があります。

IC-PCR1500コントロールソフトを使って、IC-R1500をパソコンで操作する場合も、USBドライバーをインストールしてください。

### ◇ Windows® XPの場合

- ①パソコンの電源を入れます。
- ②起動しているアプリケーションをすべて終了します。
- ③IC-PCR1500に付属しているCD(アプリケーションCD)をパソコンのCDドライブに挿入します。
- ④パソコンのUSBポートとIC-PCR1500を付属のUSBケーブルで接続します。  
USBケーブルが短いときは、別売品の延長ケーブル(OPC-1127)を使用してください。
- ⑤IC-PCR1500の[POWER]を押して電源を入れます。  
“パイロットランプ”が点灯するのを確認してください。

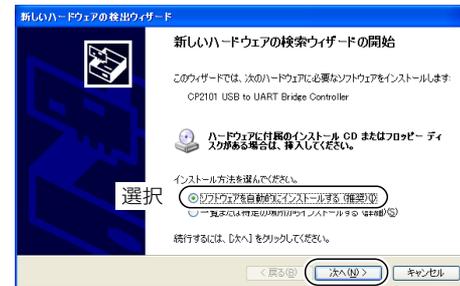
#### △ご注意

付属のUSBケーブルをご使用にならなかったり、ケーブルを延長してご使用になる場合、動作については保証いたしません。あらかじめご了承ください。  
また、お使いのパソコンによっては、表示画面が異なる場合がありますので、ご注意ください。

- ⑥「新しいハードウェアが見つかりました」画面が表示されます。  
USB Serial Port Driverのインストールを行います。



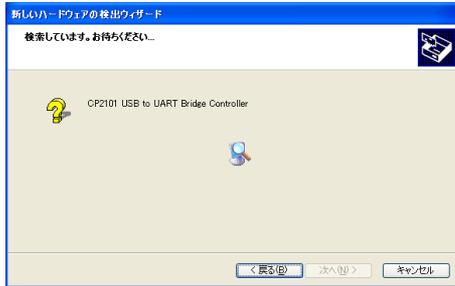
- ⑦CP2101 USBデバイスを自動認識し、下記の「新しいハードウェアの検出ウィザード」画面が表示されます。  
ソフトウェアを自動的にインストールする(推奨)(I)を選択し、[次へ(N) >]をクリックします。



クリック

## USBドライバーのインストール(IC-PCR1500使用時) 2

⑧「検索しています。お待ちください...」画面が表示されます。



⑨「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」画面が表示されます。  
[完了]をクリックします。

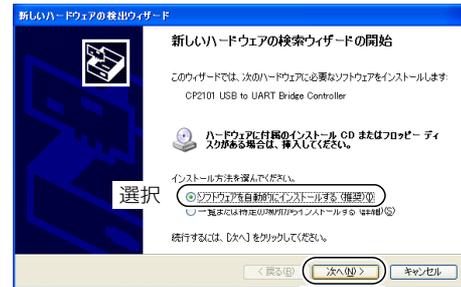


クリック

⑩「新しいハードウェアが見つかりました」画面が表示されます。  
USB Serial Port Driverのインストールを行います。



⑪CP2101 USBを自動認識し、下記の「新しいハードウェアの検出ウィザード」画面が表示されます。  
ソフトウェアを自動的にインストールする(推奨)(I)を選択し、[次へ(N) >]をクリックします。



クリック

## 2 USBドライバーのインストール(IC-PCR1500使用時)

⑫「検索しています。お待ちください...」画面が表示されます。

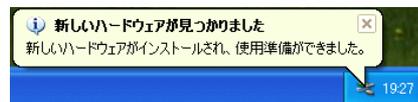


⑬「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」画面が表示されます。  
[完了]をクリックします。



クリック

⑭「新しいハードウェアがインストールされ、使用準備ができました。」画面が表示されます。



⑮アプリケーションCDをCDドライブから取り出します。

### ◇ Windows® Meの場合

- ① パソコンの電源を入れます。
- ② 起動しているアプリケーションをすべて終了します。
- ③ IC-PCR1500に付属しているCD(アプリケーションCD)をパソコンのCDドライブに挿入します。
- ④ パソコンのUSBポートとIC-PCR1500を付属のUSBケーブルで接続します。  
USBケーブルが短いときは、別売品の延長ケーブル(OPC-1127)を使用してください。
- ⑤ IC-PCR1500の[POWER]を押して電源を入れます。  
“パイロットランプ”が点灯するのを確認してください。

#### △ご注意

付属のUSBケーブルをご使用にならなかったり、ケーブルを延長してご使用になる場合、動作については保証いたしません。あらかじめご了承ください。

## USBドライバーのインストール(IC-PCR1500使用時) 2

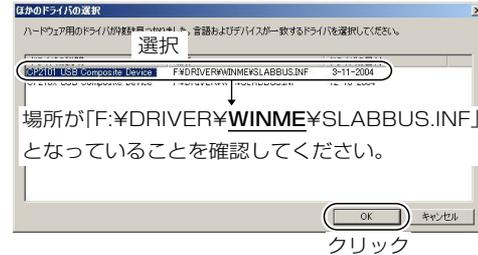
- ⑥ USBドライバーのインストールが始まります。  
⑦ CP2101 USBデバイスを自動認識し、下記の「新しいハードウェアが見つかりました」画面が表示されます。



- ⑧ 「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面が表示されます。  
適切なドライバを自動的に検索する(推奨)(A)を選択し、[次へ(N) >]をクリックします。



- ⑨ 「ほかのドライバの選択」画面が表示されます。「ドライバの説明」が「CP2101 USB Composite Device」と表示されているドライバを選択して(「場所が“F:¥DRIVER¥MINME¥SLABBUS.INF”となっていることを確認してください)、[OK]をクリックします。  
(CDドライブ名“F:”はご使用のパソコンにより異なります。)

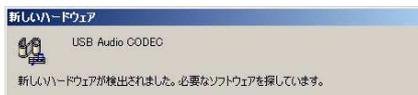


- ⑩ 「新しいハードウェアデバイスに必要な選択したソフトウェアがインストールされました」画面が表示されます。  
[完了]をクリックします。



## 2 USBドライバーのインストール(IC-PCR1500使用時)

- ⑪ USB Audio CODECデバイスを自動認識し、下記の「新しいハードウェアが見つかりました」画面が表示されます。



- ⑫ 「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面が表示されます。  
適切なドライバを自動的に検索する(推奨)(A)を選択し、  
[次へ(N) > ]をクリックします。



- ⑬ 「新しいハードウェアのインストールが完了しました」画面が表示されます。  
[完了]をクリックします。



- ⑭ CP2101 USBデバイスを自動認識し、下記の「新しいハードウェアが見つかりました」画面が表示されます。



## USBドライバーのインストール(IC-PCR1500使用時) 2

- ⑮ 「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面が表示されます。  
適切なドライバを自動的に検索する(推奨)(A)を選択し、  
[次へ(N) > ]をクリックします。



クリック

- ⑯ 「ほかのドライバの選択」画面が表示されます。  
「ドライバの説明」が[CP2101 USB to Bridge Controller]と表示されているドライバを選択して(「場所が“F:¥DRIVER¥MINME¥SLABWDM.INF”となっていることを確認してください)、[OK]をクリックします。  
(CDドライブ名“F:”はご使用のパソコンにより異なります。)



クリック

- ⑰ 次のような「バージョンの競合」に関するメッセージが出てきたときは、[はい(Y) > ]をクリックしてください。



クリック

- ⑰ 「新しいハードウェアデバイスに必要な選択したソフトウェアがインストールされました」画面が表示されます。  
[完了]をクリックします。



クリック

## 2 USBドライバーのインストール(IC-PCR1500使用時)

### ◇ Windows® 98 SEの場合

- ① パソコンの電源を入れます。
- ② 起動しているアプリケーションをすべて終了します。
- ③ IC-PCR1500に付属しているCD(アプリケーションCD)をパソコンのCDドライブに挿入します。
- ④ パソコンのUSBポートとIC-PCR1500を付属のUSBケーブルで接続します。  
USBケーブルが短いときは、別売品の延長ケーブル(OPC-1127)を使用してください。
- ⑤ IC-PCR1500の[POWER]を押して電源を入れます。  
“パイロットランプ”が点灯するのを確認してください。

#### △ ご注意

付属のUSBケーブルをご使用にならなかったり、ケーブルを延長してご使用になる場合、動作については保証いたしません。あらかじめご了承ください。

- ⑥ USBドライバーのインストールが始まります。
- ⑦ ICOM IC-PCR1500 USB Deviceを自動認識し、下記の新しい「ハードウェアの追加ウィザード」画面が表示されます。
- ⑧ [次へ>]をクリックします。



クリック

- ⑨ 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する (推奨)」が選択されていることを確認し、[次へ>]をクリックします。



クリック

## USBドライバーのインストール(IC-PCR1500使用時) 2

- ⑩ 「検索場所の指定(L)」が選択(“✓”チェックマーク点灯)されていることを確認し、[ 参照(R)... ]をクリックします。  
残りの選択項目は、すべて“✓”チェックマークをはずします。



- ⑪ 「フォルダの参照」画面が表示されます。  
CD-ROMフォルダの田をクリックします。



- ⑫ アプリケーションCDの内容が表示されます。  
“Driver”-“Win”を選択し、[ OK ]をクリックします。



- ⑬ 「検索場所の指定(L)」のテキストボックスが“F:¥DRIVER¥Win”であることを確認し、[次へ>]をクリックします。  
(CDドライブ名“F:”はご使用のパソコンにより異なります。)



## 2 USBドライバーのインストール(IC-PCR1500使用時)

- ⑭「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」が表示されます。  
[次へ>]をクリックします。



- ⑮「新しいハードウェアデバイスに必要なソフトウェアがインストールされました。」が表示されます。  
[完了]をクリックします。



- ⑯ USBドライバーのインストールが始まります。  
⑰ ICOM IC-PCR1500 USB Deviceを自動認識し、下記の新しい「ハードウェアの追加ウィザード」画面が表示されます。  
⑱ [次へ>]をクリックします。



- ⑲「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する (推奨)」が選択されていることを確認し、[次へ>]をクリックします。



## USBドライバーのインストール(IC-PCR1500使用時) 2

- ⑩ 「検索場所の指定(L)」が選択(“✓”チェックマーク点灯)されていることを確認し、[ 参照(R)... ]をクリックします。  
残りの選択項目は、すべて“✓”チェックマークをはずします。



- ⑪ 「フォルダの参照」画面が表示されます。  
CD-ROMフォルダの田をクリックします。



- ⑫ アプリケーションCDの内容が表示されます。  
“Driver”-“Win”を選択し、[ OK ]をクリックします。



- ⑬ 「検索場所の指定(L)」のテキストボックスが“F:¥DRIVER¥Win”であることを確認し、[ 次へ > ]をクリックします。  
(CDドライブ名“F:”はご使用のパソコンにより異なります。)



## 2 USBドライバーのインストール(IC-PCR1500使用時)

②4 「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」が表示されます。

[次へ>]をクリックします。



②5 「新しいハードウェアデバイスに必要なソフトウェアがインストールされました。」が表示されます。

[完了]をクリックします。



②6 アプリケーションCDをCDドライブから取り出します。

### ◇ Windows® 2000の場合

- ① パソコンの電源を入れます。
- ② 現在、起動しているアプリケーションをすべて終了します。
- ③ IC-PCR1500に付属しているCD(アプリケーションCD)をパソコンのCDドライブに挿入します。
- ④ パソコンのUSBポートに、IC-PCR1500からのUSBケーブルを接続します。  
USBケーブルが短いときは、付属の延長ケーブル(OPC-1127)を使用してください。
- ⑤ IC-PCR1500の[POWER]を押し、電源を入れます。  
“パイロットランプ”が点灯するのを確認してください。

### △ご注意

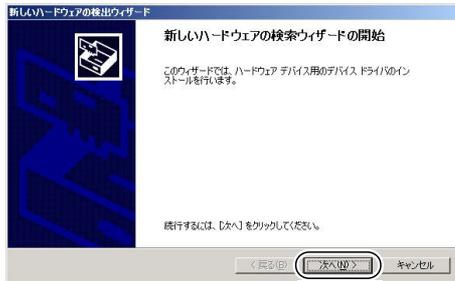
付属のUSBケーブルをご使用にならなかったり、ケーブルを延長してご使用になる場合、動作については保証いたしません。あらかじめご了承ください。

- ②7 USBドライバーのインストールが始まります。
- ②8 USB Deviceを自動認識し、下記の「新しいハードウェアが見つかりました」画面が表示されます。



## USBドライバーのインストール(IC-PCR1500使用時) 2

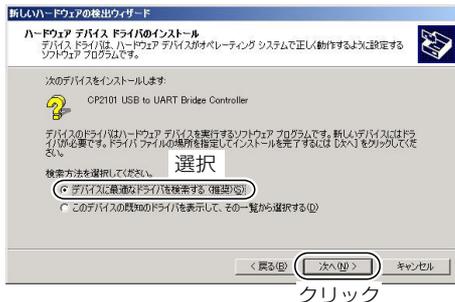
- ⑧「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」画面が表示されます。  
[次へ(N) > ]をクリックします。



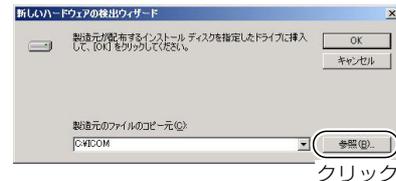
- ⑩「ドライバ ファイルの特定」画面が表示されます。  
場所を指定(S)を選択し、[次へ(N) > ]をクリックします。



- ⑨「ハードウェア デバイス ドライバのインストール」画面が表示されます。  
デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)(S)を選択し、[次へ(N) > ]をクリックします。

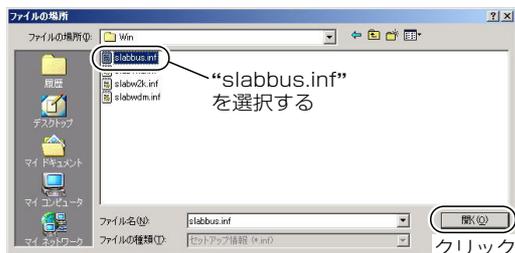


- ⑪「新しいハードウェアの検出ウィザード」画面が表示されます。  
[参照(B) > ]をクリックします。

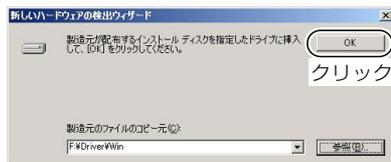


## 2 USBドライバーのインストール(IC-PCR1500使用時)

- ⑫「ファイルの場所」画面が表示されます。  
“CD-ROMドライブ”-“Winフォルダー”を指定、“slabbus.inf”ファイルを選択し、[開く(O)]をクリックします。



- ⑬「新しいハードウェアの検出ウィザード」画面が表示されます。  
[OK]をクリックします。



- ⑭「ドライバファイルの検索」画面が表示されます。  
[次へ(N)]をクリックします。

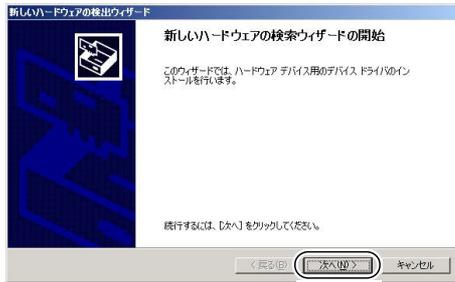


- ⑮「新しいハードウェアの検出ウィザードの完了」画面が表示されます。  
[完了]をクリックします。



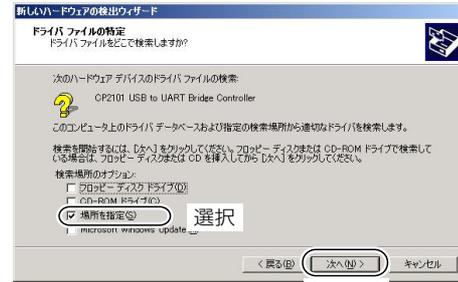
## USBドライバーのインストール(IC-PCR1500使用時) 2

- ⑩「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」画面が表示されます。  
[次へ(N) > ]をクリックします。



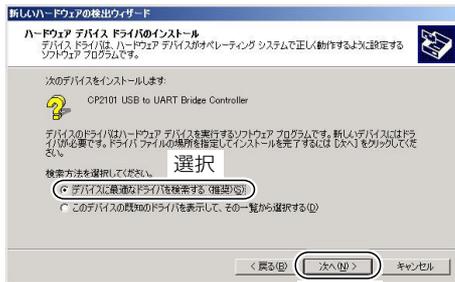
クリック

- ⑪「ドライバ ファイルの特定」画面が表示されます。  
CD-ROM ドライブ(C)を選択し、[次へ(N) > ]をクリックします。



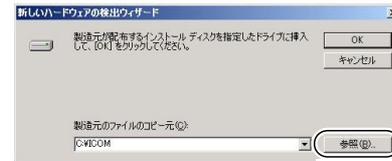
クリック

- ⑫「ハードウェア デバイス ドライバのインストール」画面が表示されます。  
デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)(S)を選択し、  
[次へ(N) > ]をクリックします。



クリック

- ⑬「新しいハードウェアの検出ウィザード」画面が表示されます。  
[参照(B) > ]をクリックします。



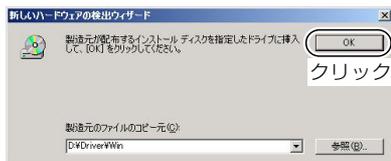
クリック

## 2 USBドライバーのインストール(IC-PCR1500使用時)

- ⑳ 「ファイルの場所」画面が表示されます。  
“CD-ROMドライブ”-“Winフォルダー”を指定、  
“slabw2k.inf”ファイルを選択し、[開く(O)]をクリックします。



- ㉑ 「新しいハードウェアの検出ウィザード」画面が表示されま  
す。  
[OK]をクリックします。



- ㉒ 「ドライバ ファイルの検索」画面が表示されます。  
[次へ(N)]をクリックします。



- ㉓ 「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」が表示され  
ます。  
[完了]をクリックします。



- ㉔ アプリケーションCDをCDドライブから取り出します。

### ■ USBドライバーの再インストールについて

USBドライバーインストール時に接続していたIC-PCR1500とシリアル番号が異なるIC-PCR1500を接続したとき、お使いのOSによってUSBドライバーの再インストールが必要になります(シリアル番号が登録されているため)。

お使いのOSにより、下記のように再インストールしてください。

- Windows 98 SE/Windows Meをご使用の場合  
USBドライバーインストール時に接続していたIC-PCR1500とシリアル番号の違うIC-PCR1500を接続したとき、USBドライバーを自動的に再インストールします。このとき、付属のCDは必要ありません。
- Windows 2000/Windows XPをご使用の場合  
USBドライバーインストール時に接続していたIC-PCR1500とシリアル番号の違うIC-PCR1500を接続したとき、USBドライバーを再インストールします。USBドライバーインストールのメッセージが出てきたら、付属のCDをCDドライブに入れて次のようにインストールしてください。

#### ◇ Windows® 2000の場合

- ① CDをCDドライブに挿入しないでシリアル番号の異なるIC-PCR1500を接続すると、「ディスクの挿入」ダイアログボックスが表示されます。
- ② CDをCDドライブに挿入して、[OK]ボタンをクリックするとUSBドライバーを自動的にインストールします。



CDをCDドライブに挿入して[OK]ボタンをクリック。

2

#### ◇ Windows® XPの場合

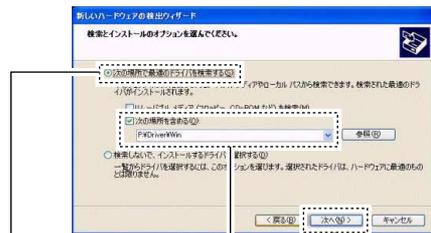
- ① CDをCDドライブに挿入しないでシリアル番号の異なるIC-PCR1500を接続すると、「新しいハードウェアの検出ウィザード」ダイアログボックスが表示されます。



「一覧または特定の場所からインストールする(詳細)(S)」を選択して、「次へ(N)>」をクリックしてください。

## 2 USBドライバーのインストール(IC-PCR1500使用時)

- ②「検索とインストールのオプション」ダイアログボックスが表示されます。



「次の場所で最適なドライバを検索する(S)」を選択、「次の場所を含める(C)」を選択して、「P:¥Driver¥Win」を入力します(入力例はCDドライバがPドライブのとき)。  
[次へ(N)>]をクリックしてください。

- ③「ハードウェアのインストール」ダイアログボックスが表示されます。



[続行(C)]をクリックしてください。

- ④「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」ダイアログボックスが表示されます。



[完了]をクリックしてください。

- ⑤「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」ダイアログボックスが表示されます。



「一覧または特定の場所からインストールする(詳細)(S)」を選択して、「次へ(N)>」をクリックしてください。

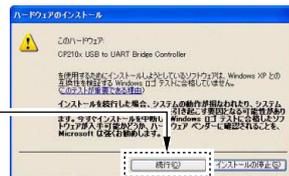
## USBドライバーのインストール(IC-PCR1500使用時) 2

- ⑥「検索とインストールのオプション」ダイアログボックスが表示されます。



「次の場所で最適なドライバを検索する(S)」を選択、「次の場所を含める(C)」を選択して、「P:¥Driver¥Win」を入力します(入力例はCDドライブがPドライブのとき)。  
「次へ(N)>」をクリックしてください。

- ⑦「ハードウェアのインストール」ダイアログボックスが表示されます。



「続行(C)」をクリックしてください。

- ⑧「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」ダイアログボックスが表示されます。



「完了」をクリックしてください。

- ⑨ アプリケーションCDをCDドライブから取り出します。

# 3

## セットアップのしかた(IC-PCR1500使用時)

### ■ IC-PCR1500コントロールソフトウェアのインストール

IC-PCR1500コントロールソフトウェアをインストールします  
(※画面はWindows 98 SEで表記しています)。

**IC-R1500をパソコンで操作する場合も、IC-PCR1500コントロールソフトウェアをインストールしてください。**

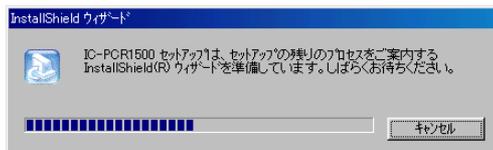
- ① パソコンで起動しているすべてのアプリケーションを終了させます。
- ② IC-PCR1500に付属しているCD(アプリケーションCD)をパソコンのCDドライブに挿入します。
- ③ マイコンピユータをダブルクリックし、ウインドウを開きます。  
または、マイコンピユータを右クリックし、エクスプローラ(E)を開きます。
- ④ CDドライブ[Icom (E)]をダブルクリックします。  
(CDドライブ名“F:”はご使用のパソコンにより異なります。)  
※ アプリケーションCDの内容が表示されます。
- ⑤ IC-PCR1500をダブルクリックし、フォルダを開きます。  
[Setup.exe]をダブルクリックします。



- ⑥ 「設定言語の選択」画面が表示されます。



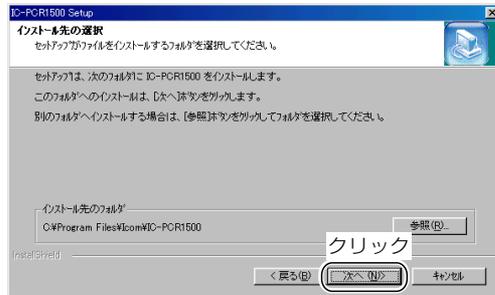
- ⑦ “日本語”を選択して、[OK] ボタンをクリックします。
- ⑧ 「InstallShield ウィザード」画面が表示されます。



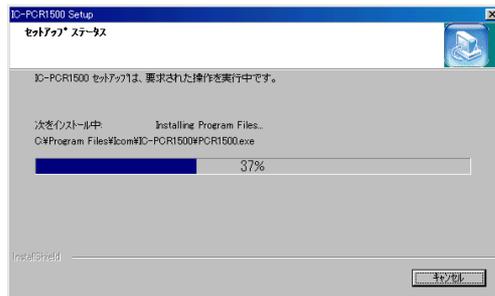
- ⑨ 「InstallShield(R)ウィザードは、IC-PCR1500をコンピュータにインストールをします。」画面が表示されます。  
[次へ(N)] をクリックします。



- ⑩「セットアップは次のディレクトリにIC-PCR1500をインストールします。」画面が表示されます。  
[次へ(N) > ]をクリックします。



- ⑪ インストールが始まります。



- ⑫「コンピュータへのアプリケーションのインストールを完了しました。」が表示されます。  
[完了]をクリックします。

※IC-PCR1500のショートカットがデスクトップとスタートメニューに追加されます。



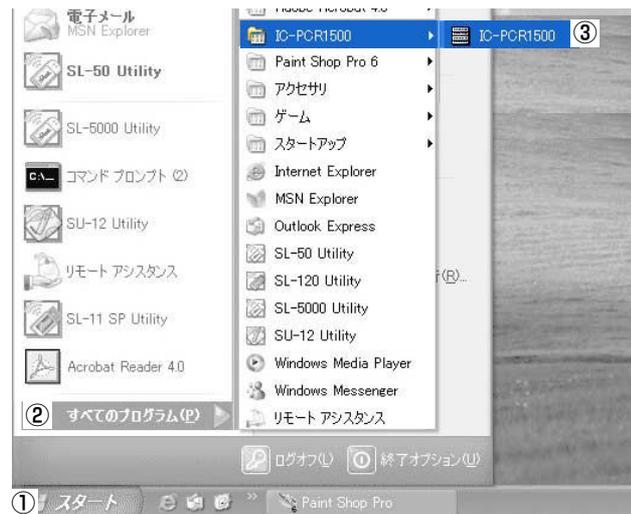
- ⑬ アプリケーションCDをCDドライブから取り出します。

### 3 セットアップのしかた(IC-PCR1500使用時)

#### ■ IC-PCR1500の起動

##### ◇ Windows® XPの場合

- ① プログラムを起動する前に、必ずIC-PCR1500本体の[POWER]スイッチを“ON”(パイロットランプ点灯)にします。
- ② 画面上で[スタート]ボタンをクリックし、[すべてのプログラム(P)]→[IC-PCR1500]→[IC-PCR1500]の順に操作します。



##### ◇ Windows® 98 SE/Me/2000の場合

- ① プログラムを起動する前に、必ずIC-PCR1500本体の[POWER]スイッチを“ON”(パイロットランプ点灯)にします。
- ② 画面上で[スタート]ボタンをクリックし、[プログラム(P)]→[IC-PCR1500]→[IC-PCR1500]の順に操作します。



#### △ご注意

コントロールソフトを起動して、「Communicationエラー」が発生する場合は、20秒ほど時間をおいてから、再度コントロールソフトを起動してください。

## ■ アンインストールについて

### Windows® XPの場合

- ① [スタート]ボタンをクリックし、設定からコントロールパネルをクリックします。
- ② マウスを[スタート]→[コントロールパネル(C)]の順に操作します。
- ③ コントロールパネルから、[プログラムの追加と削除]をクリックします。
- ④ [Icom IC-PCR1500]→[変更と削除]の順にクリックします。
- ⑤ [アンインストール(U)]をクリックして、表示する画面にしたがいます。

### Windows® 98 SE/Me/2000の場合

- ① マウスを[スタート]→[設定(S)]→[コントロールパネル(C)]→[アプリケーションの追加と削除]の順に操作します。
- ② [Icom IC-PCR1500]→[追加と削除(R)...]の順にクリックします。
- ③ 表示画面にしたがいます。

## ■ USBポートの接続確認

本製品をパソコンにインストールして、コントロールソフトウェアを起動したとき、初回だけ**[Port Setting]**ダイアログボックスが表示されます。

このウインドウはIC-PCR1500が、パソコンのどのUSBポートと接続されているかを確認するためのダイアログボックスです。

確認後、**[OK]**ボタンをクリックしてください。

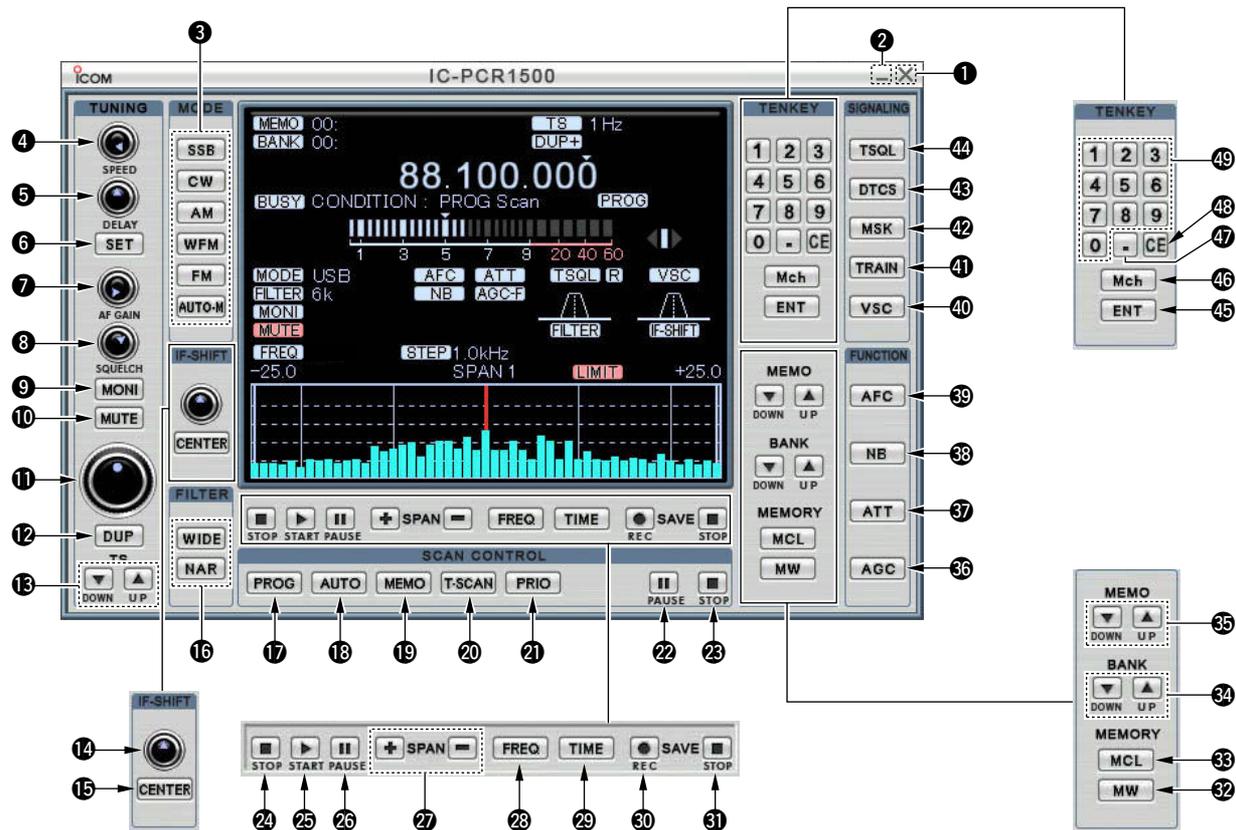
※ダイアログボックスには、接続先のUSBポート番号とIC-PCR1500のシリアル番号が表示されます。  
詳しくは129ページをご覧ください。



“OK”ボタンをクリックする

# 4 各部の名称と機能

## ■ 多機能型レシーバーについて (IC-PCR1500)



- ① **終了ボタン**(☞P40)  
クリックするとレシーバソフトを終了します。
- ② **最小化ボタン**  
レシーバのウインドウサイズを最小にします。
- ③ **MODE(受信モード)ボタン**(☞P43)  
受信するモード(電波型式)を切り替えます。
- ④ **スキャンスピード設定ツマミ**(☞P77、79)  
スキャンのスピードを設定します。
  - ➡右クリック：スキャンスピードが速くなります。
  - ➡左クリック：スキャンスピードが遅くなります。
- ⑤ **スキャン再スタート遅延時間設定ツマミ**(☞P78)  
スキャンの再スタートの遅延時間を設定します。
  - ➡右クリック：再スタートの遅延時間が速くなります。
  - ➡左クリック：再スタートの遅延時間が遅くなります。
- ⑥ **SETボタン**(☞P78)  
スキャンディスプレイの設定をします。
- ⑦ **AF GAINツマミ**(☞P41)  
受信音量を調整します。
  - ➡右クリック：音量が大きくなります。
  - ➡左クリック：音量が小さくなります。
- ⑧ **SQUELCH(スケルチ)ツマミ**(☞P41、42)  
スケルチレベルを調整します。
  - ➡右クリック：スケルチが深くなります。
  - ➡左クリック：スケルチが浅くなります。
- ⑨ **MONI(モニター)ボタン**(☞P49)  
受信信号が弱かったり、途切れたりして聞こえにくいときや、ノイズを聞きながら音量を調整するときに“ON”にします。
- ⑩ **MUTE(ミュート)ボタン**(☞P50)  
クリックすると消音状態になります。
- ⑪ **ダイヤル**(☞P45、46)  
周波数を設定します。
  - ➡右クリック：周波数が高くなります。
  - ➡左クリック：周波数が低くなります。
- ⑫ **DUP(デュプレックス)ボタン**(☞P111、112)  
デュプレックス設定をします。
  - ➡左クリックすることにより、“DUP-”→“DUP+”→“OFF”に変わります。
  - ➡右クリックすると、オフセット周波数を設定できます。
- ⑬ **チューニングステップボタン**(☞P48)  
チューニングステップを設定します。
- ⑭ **IF-SHIFT(IFシフト)ツマミ**(☞P115、116)  
中間周波数のシフトを設定します。
  - ➡右クリック：中間周波数を高域にシフトします。
  - ➡左クリック：中間周波数を低域にシフトします。
- ⑮ **CENTER(センター)ボタン**(☞P115、116)  
IF-SHIFTツマミでシフトした中間周波数をセンターに戻します。

## 4 各部の名称と機能(IC-PCR1500)

■ 多機能型レシーバーについて(IC-PCR1500) (つづき)

### 16 FILTER(フィルター)設定ボタン(☞P51)

IFフィルターを設定します。

➡WIDE :ワイドフィルターに設定します。

➡NAR :ナローフィルターに設定します。

### 17 PROG(プログラムスキャン)ボタン(☞P79、80)

プログラムスキャンの“開始/終了”を切り替えます。

➡スキャン中は“PROG”が表示部に点灯します。

➡右クリックすると、周波数範囲を設定できます。

### 18 AUTO(オートメモリーライトスキャン)ボタン

(☞P82、83)

➡オートメモリーライトスキャンの“開始/終了”を切り替えます。

➡スキャン中は“AUTO”が表示部に点灯します。

➡右クリックすると、周波数範囲を設定できます。

### 19 MEMO(メモリスキャン)ボタン(☞P84、85)

メモリスキャンとオプション機能を使用した各種メモリスキャンの“開始/終了”を切り替えます。

➡スキャン中は“MEMO”が表示部に点灯します。

➡右クリックすると、周波数範囲を設定できます。

### 20 T-SCAN(トーンスキャン)ボタン(☞P102)

➡トーンスキャンの“開始/終了”を切り替えます。

➡スキャン中は“T-SCAN”が表示部に点灯します。

### 21 PRIO(プライオリティスキャン)ボタン(☞P92、93)

➡プライオリティスキャンの“開始/終了”を切り替えます。

➡スキャン中は“PRIO”が表示部に点灯します。

➡右クリックすると、プライオリティチャンネルと周期を設定します。

### 22 PAUSE(スキャンの一時停止)ボタン

(☞P81、83、84、92、102)

スキャンの“一時停止/再スタート”を切り替えます。

### 23 STOP(スキャンの停止)ボタン

(☞P81、83、84、92、102)

スキャンを停止します。

### 24 STOP(バンドスコープの停止)ボタン(☞P104、105)

バンドスコープ機能を停止します。

### 25 START(バンドスコープのスタート)ボタン

(☞P104、105、106)

バンドスコープ機能をスタート(スイープ開始)します。

### 26 PAUSE(バンドスコープの一時停止)ボタン(☞P104)

バンドスコープ機能の“一時停止/再スタート”を切り替えます。

### 27 SPAN(スイープステップの設定)ボタン(☞P106)

➡周波数系列で使用、バンドスコープ機能の周波数スパンを設定します。

➡時間系列で使用、バンドスコープ機能の時間スパンを設定します。

### 28 FREQ(周波数でのスイープ設定)ボタン(☞P104、105)

バンドスコープ機能が周波数系列でスイープします。

### 29 TIME(時間でスイープ設定)終了ボタン(☞P104、105)

バンドスコープ機能が時間系列でスイープします。

### 30 REC(バンドスコープデータの記録開始)ボタン(☞P108)

バンドスコープデータの記録を開始します。

### 31 STOP(バンドスコープデータの記録停止)ボタン(☞P108)

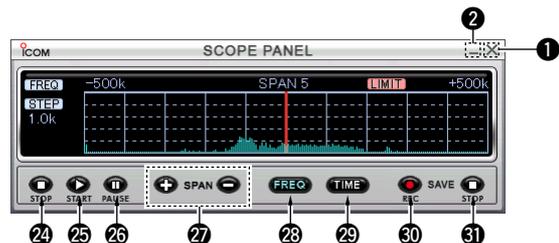
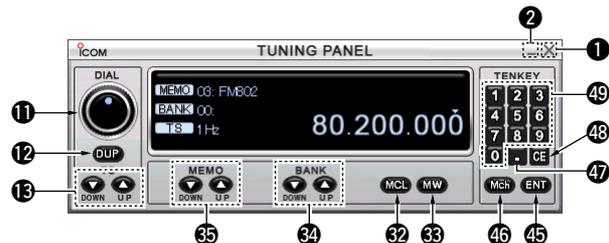
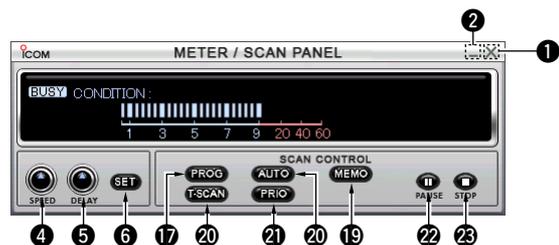
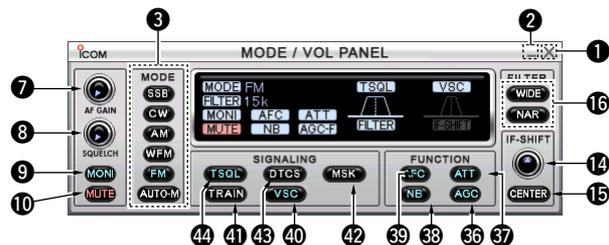
バンドスコープデータの記録を停止します。

- 32 MW(メモリーライト)ボタン**(☞P59、60)  
受信中の周波数をメモリーチャンネルに書き込みます。
- 33 MCL(メモリークリア)ボタン**(☞P60)  
不要になったメモリーチャンネルの内容を消去します。
- 34 BANK(メモリーバンク)ボタン**(☞P58、59)  
メモリーバンクを切り替えます。
- 35 MEMO(メモリーチャンネル)ボタン**(☞P58)  
メモリーチャンネルを切り替えます。
- 36 AGC(自動利得制御)ボタン**(☞P53)  
AGC動作をFAST/SLOWに切り替えます。
- 37 ATT(アッテネーター)ボタン**(☞P52)  
受信信号を約20dB減衰するアッテネーター機能の“ON/OFF”を切り替えます。
- 38 NB(ノイズブランカー)ボタン**(☞P55)  
ノイズブランカー機能の“ON/OFF”を切り替えます。
- 39 AFC(自動周波数制御)ボタン**(☞P54)  
自動周波数制御機能の“ON/OFF”を切り替えます。
- 40 VSC(ボイススケルチコントロール)ボタン**(☞P115)  
ボイススケルチコントロール機能の“ON/OFF”を切り替えます。  
ボイススケルチコントロール機能とは、受信した信号に音声信号が含まれているかを識別し、スケルチをコントロールする機能です。
- 41 TRAIN(空線キャンセラー)ボタン**(☞P116)  
空線キャンセラー機能の“ON/OFF”を切り替えます。  
空線キャンセラー機能とは、鉄道無線で通話していない周波数で聞こえる2280Hzの空線信号を検出し、スケルチをコントロールする機能です。
- 42 MSKボタン**(☞P118)  
MSK機能の“ON/OFF”を切り替えます。  
MSK機能とは、MCA無線で聞こえるMSK制御信号を検出し、スケルチをコントロールする機能です。
- 43 DTCS(DTCSコード)ボタン**(☞P98、100)  
DTCSコードを設定します。  
➡右クリックすると、DTCSコードを設定できます。  
DTCS機能とは、特定のコードを含んだ信号を受信するのに便利な機能です。
- 44 TSQL(トーン周波数)ボタン**(☞P96)  
トーン周波数を設定します。  
➡右クリックすると、トーン周波数を設定できます。
- 45 ENT(エンター)ボタン**(☞P45)  
10キーボタンで入力した数値を受信周波数として確定します。
- 46 Mch(メモリーチャンネル)ボタン**(☞P59)  
10キーボタンで入力した数値をメモリーチャンネルとして確定します。
- 47 “●”(ポイント)ボタン**(☞P45)  
入力した数値のMHzケタを指定します。
- 48 CE(クリア)ボタン**(☞P45、59)  
10キーボタンで入力した数値(受信周波数またはメモリーチャンネル)をクリアします。
- 49 10キー(0~9)ボタン**(☞P45、59)  
受信周波数やメモリーチャンネルを直接入力するときのボタンです。

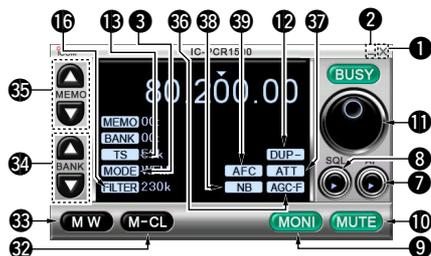
## 4 各部の名称と機能(IC-PCR1500)

### ■ コンポ型レシーバーについて(IC-PCR1500)

※各ツマミ、ボタンの機能についてはP24～26をご覧ください。



### ■ シンプル型レシーバーについて(IC-PCR1500)



### ■ 各レシーバーの特徴(IC-PCR1500)

#### 【多機能型レシーバー】

1つのコントローラーに本製品のすべての機能を備えています。

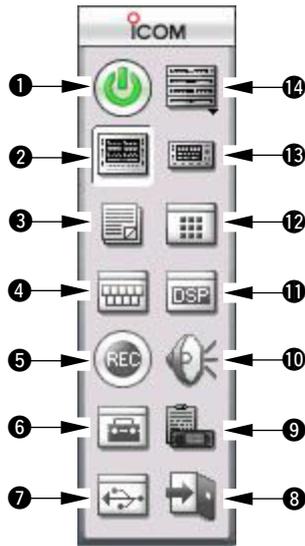
#### 【コンポ型レシーバー】

必要なコントローラーだけを表示できます。

#### 【シンプル型レシーバー】

必要最小限の機能だけを搭載し、コンパクトな画面に仕上げました。取り扱いが最も簡単なレシーバーです。

## ■ ツールバーについて(IC-PCR1500)

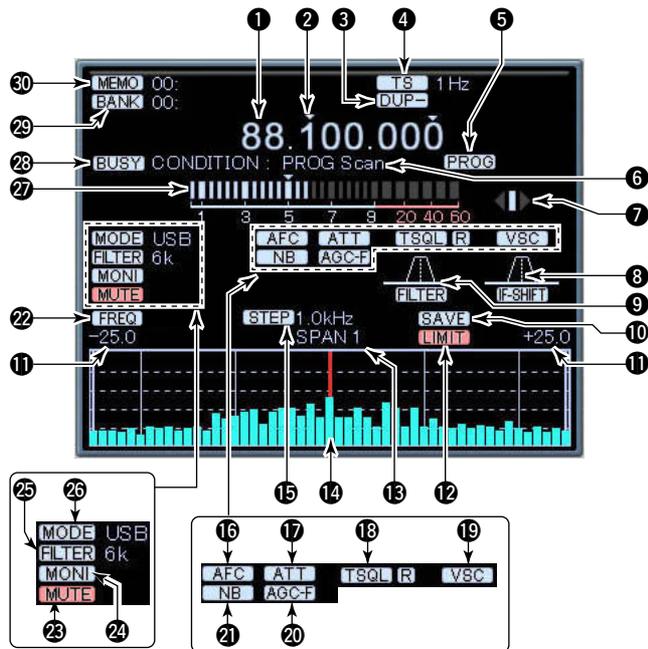


- ① [Power](電源)アイコン(☞P39)  
本体のソフト電源を“ON/OFF”します。
- ② 多機能型レシーバーアイコン(☞P39)  
クリックすると多機能型レシーバーを表示します。
- ③ メモリーリスト表示アイコン(☞P61)  
クリックするとメモリーリストを表示します。
- ④ DTMFデコーダー画面表示アイコン(☞P119)  
クリックするとDTMFデコーダー画面を表示します。
- ⑤ 録音/再生機能アイコン(☞P127)  
クリックすると受信中の信号を録音します。

- ⑥ オートマチックモード設定/  
ショートカットキーリスト表示アイコン(☞P44、123)  
クリックするとオートマチックモード周波数リスト/ショートカットキーリストを表示します。
- ⑦ USBポート設定アイコン(☞P24、129)  
クリックするとUSBポート設定が表示します。
- ⑧ コントロールソフト終了アイコン(☞P40)  
コントロールソフトを終了します。
- ⑨ クローニングソフトウェア起動アイコン  
(☞P132、別紙参照)  
IC-R1500用のクローニングソフトウェアを起動します。  
※クローニング機能はIC-R1500のみご使用いただけます。
- ⑩ オーディオ設定アイコン(☞P120)  
IC-PCR1500のスピーカー、パソコンに接続、内蔵されているスピーカーの音量などを設定をします。
- ⑪ DSP操作画面表示アイコン(☞P144、145)  
クリックするとDSP操作画面を表示します。  
※UT-106(別売品)取り付け時のみ動作します。
- ⑫ マルチチャンネルモニターリスト表示アイコン(☞P124)  
クリックするとマルチチャンネルモニターを表示します。
- ⑬ シンプル型レシーバーアイコン(☞P39)  
クリックするとシンプル型レシーバーを表示します。
- ⑭ コンポ型レシーバーアイコン(☞P39)  
クリックするとコンポ型レシーバーを表示します。  
表示中にもう一度クリックすると、各パネルの表示/非表示が設定できます。

## 4 各部の名称と機能(IC-PCR1500)

### ■ 表示部について(IC-PCR1500多機能型レシーバー)



- ① 周波数表示部**  
受信周波数や入力中の数値を表示します。
- ② チューニングステップ位置表示部**  
設定しているチューニングステップの位置を表示します。(☞P48)
- ③ デュプレクス設定表示部**  
デュプレクス機能が動作中のときに点灯します。(☞P112)  
→DUP-が動作中のとき、“DUP-”が表示部に点灯します。  
→DUP+が動作中のとき、“DUP+”が表示部に点灯します。
- ④ チューニングステップ表示部**  
設定しているチューニングステップを表示します。(☞P48)
- ⑤ スキャン表示部**  
各種スキャンが動作中のときに点灯します。(☞P81、84、85、92、102)
- ⑥ 動作状況表示部**  
各種スキャンの動作状況などを表示します。
- ⑦ AFC(自動周波数制御)シフト方向表示部/FMセンターメータ**  
AFC機能動作時、周波数をシフトする方向を表示します。(☞P54)
- ⑧ IFフィルタシフト量表示部**  
IFフィルタのシフト量を表示します。(☞P51)
- ⑨ IFフィルター表示部**  
使用中のIFフィルターの通過帯域幅を表示します。
- ⑩ バンドスコープ記録中表示**  
バンドスコープのデータを記録中に表示します。(☞P108)
- ⑪ 周波数スパンの最大値表示**  
バンドスコープが観測できる上限と下限の周波数範囲を表示します。

**12 LIMIT表示部**

スイープステップの制限範囲を逸脱したときに表示します。  
(☞P107)

**13 周波数スパン表示**

[SPAN+]/[SPAN-]ボタンで選択した5段階(ワイドバンドスコープ機能使用時は8段階)の周波数スパンを表示します。  
(☞P105)

**14 中心周波数表示**

周波数スパンの中心周波数を表示し、この周波数を現在受信していることを表示します。(☞P105)

**15 STEP(スイープステップ)表示**

バンドスコープのスイープステップを表示します。

**16 AFC(自動周波数制御)機能表示**

AFC(自動周波数制御)機能が動作中のときに点灯します。  
(☞P54)

**17 ATT(アッテネーター)機能表示**

ATT(アッテネーター)機能が動作中のときに点灯します。  
(☞P52)

**18 TSQL(トーンスケルチ)/DTCS機能表示**

TSQL(トーンスケルチ)/DTCS機能が動作中のときに点灯します。(☞P96、98)

**19 VSC(自動利得制御)機能表示**

VSC(ボイススケルチコントロール)機能が動作中のときに点灯します。(☞P115)

**20 AGC(自動利得制御)機能表示**

AGC(自動利得制御)機能が動作中のときに点灯します。  
(☞P53)

**21 NB(ノイズブランカー)機能表示**

NB(ノイズブランカー)機能が動作中のときに点灯します。  
(☞P55)

**22 FREQUENCY(周波数モード)/TIME(時間モード)機能表示**

バンドスコープの動作モードを表示します。(☞P105)

**23 ミュート(消音)機能表示**

ミュート(消音)機能が動作中のときに点灯します。(☞P50)

**24 モニター機能表示**

モニター機能が動作中のときに点灯します。(☞P49)

**25 FILTER(IFフィルター)表示**

使用中のIFフィルターを表示します。(☞P51)

**26 モード表示部**

選択したモードを表示します。(☞P43)

**27 Sメーター表示部**

受信した信号の強さを表示します。また、[SQUELCH]ツマミで設定したSメータースケルチの受信レベルを表示します。  
(☞P42)

**28 BUSY表示部**

信号または雑音でスケルチが開いた状態を表示します。  
(☞P42)

**29 BANK(メモリーバンク)表示**

選択したメモリーバンクとバンク名を表示します。  
(☞P58)

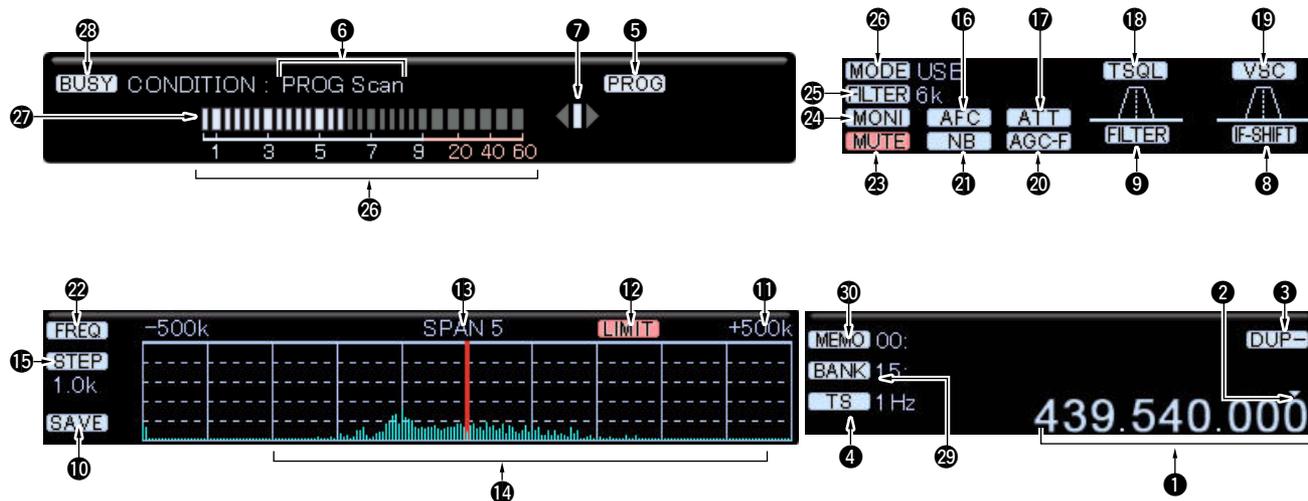
**30 MEMO(メモリー)表示**

選択したメモリーチャンネルとメモリー名を表示します。  
(☞P58)

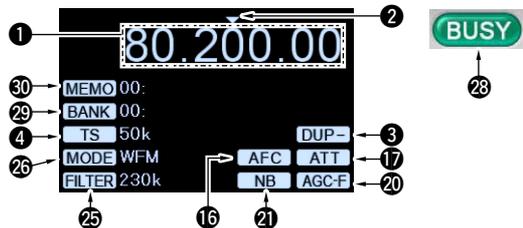
## 4 各部の名称と機能(IC-PCR1500)

### ■ 表示部について (IC-PCR1500コンポ型レシーバー)

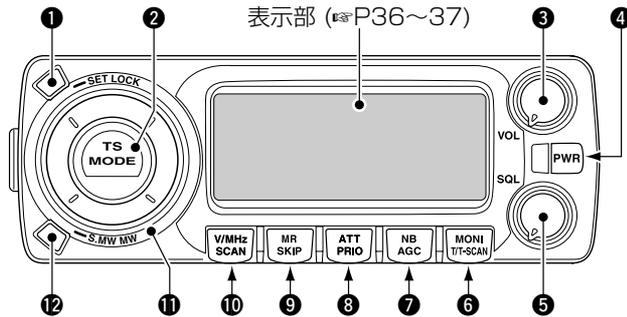
※各表示部の説明については、P31～32をご覧ください。



### ■ 表示部について (IC-PCR1500シンプル型レシーバー)



## ■ フロントパネルについて(IC-R1500コントローラー)



### ① SET LOCK (セット/ロック) キー

- キーを短く押すと、SETモードになります。(☞ P134)
- キーを長く(約1秒)押すごとに、ロック機能を“ON/OFF”します。(☞ P132)  
※ SETモード表示中は、SETモードの項目を切り替えます。

### ② TS MODE (周波数ステップモード/受信モード) キー

- キーを短く押すごとに、周波数ステップモードの“ON/OFF”を切り替えます。(☞ P49)
- キーを長く(約1秒)押すと、受信モード(電波型式)設定モードに切り替わります。(☞ P44)

### ③ VOL (音量) ツマミ

受信時の音量を調整するつまみです。(☞ P41)  
聞きやすい音量に調整します。

### ④ PWR (電源) キー

本機の電源キーです。(☞ P40)  
キーを押すごとに、電源を“ON/OFF”します。  
※ 電源“ON”時は、ビープ音(ピ・ポ)が鳴ります。

### ⑤ SQL (スケルチ) ツマミ

スケルチレベルを調整するつまみです。(☞ P41)  
通常は、雑音が消え“BUSY”表示が消灯する位置にセットします。

### ⑥ MONI T/T-SCAN (モニター/トーン/トーンスキャン) キー

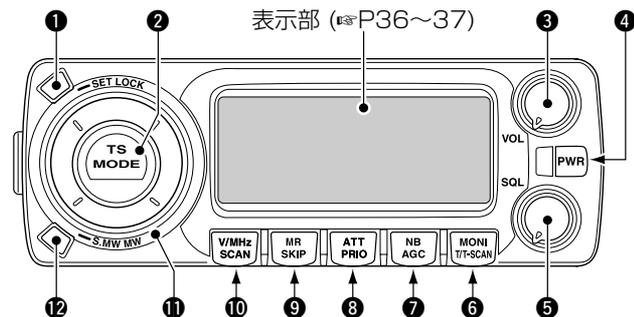
- キーを短く押すごとに、モニター機能を“ON/OFF”します。(☞ P50)
- キーを長く(約1秒)押すごとに、各種トーン機能(トーンスケルチ/ポケットビープ/DTCS)設定モードになります。(☞ P97、99)。
- 各種トーン機能選択モードでキーを長く(約1秒)押すと、トーンスキャンまたはDTCSコードスキャンがスタートします。(☞ P103)

### ⑦ NB AGC (ノイズブランカー/AGC(自動利得制御)) キー

- キーを短く押すごとに、ノイズブランカー機能を“ON/OFF”します。(☞ P56)
- キーを長く(約1秒)押すごとに、AGC(自動利得制御)機能を“ON/OFF”します。(☞ P54)

## 4 各部の名称と機能(IC-R1500)

■ フロントパネルについて(IC-R1500コントローラー) (つづき)



### 8 ATT PRIO (アッテネーター/プライオリティスキャン) キー

- ➡ キーを短く押すごとに、アッテネーター機能を“ON/OFF”します。(P53)
- ➡ キーを長く(約1秒)押すごとに、プライオリティスキャンを「スタート/ストップ」します。(P94、95)

### 9 MR SKIP (メモリーモード/スキップ) キー

- ➡ キーを短く押すと、メモリーモードになります。(P68)
- ➡ キーを長く(約1秒)押すごとに、スキップ機能(メモリーモード時はPSKIP→SKIP→OFF)が切り替わります。(P89)

### 10 V/MHz SCAN (VFO/MHzステップ/スキャン) キー

- ➡ キーを短く押すと、VFOモードになります。(P47)
- VFOモード時にキーを短く押すごとに、バンド切り替え→10MHzステップ→1MHzステップによる周波数設

定(チューニングステップ)を切り替えます。(P47)  
※ スキャン中に、キーを短く押すとスキャンをストップします。

- ➡ キーを長く(約1秒)押すごとに、各種スキャンがスタートします。(P90、91)

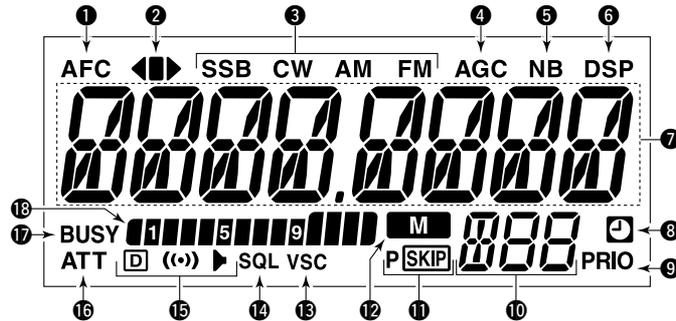
### 11 DIAL (ダイヤル) ツマミ

- ➡ VFOモードでは周波数の設定(P47)、メモリーモードではメモリーチャンネル(M-CH)を呼び出します。(P68、69)
- ➡ 周波数ステップモード時は、周波数ステップを切り替えます。(P49)
- ➡ 各種トーン機能設定モード時は、各種トーンが選択できます。(P97、99)。
- ➡ また、スキャンの方向を変えるときにも使用します。(P90)

### 12 S.MW MW (メモリーライト) キー

- ➡ キーを短く押すと、セレクトメモリーライト状態(メモリーチャンネル表示が点滅)となり、すべてのメモリーチャンネルを呼び出すことができます。(P69)  
※ SETモード表示中は、SETモードの項目を切り替えます。
- ➡ キーを長く(約1秒)押すと、メモリーチャンネル(M-CH)への書き込み(P69)、またはメモリーチャンネル(M-CH)の内容をVFOに転送(P71)などを行います。

## ■表示部について(IC-R1500コントローラー)



## ① AFC(自動周波数制御)機能表示

AFC(自動周波数制御)機能が動作中のときに点灯します。  
(☞ P55)

## ② AFC(自動周波数制御)シフト方向、センターメーター表示

- ➡ AFC(自動周波数制御)機能動作時、周波数をシフトする方向を表示します。(☞ P55)
  - ➡ AFC(自動周波数制御)機能停止時、センターメーターとして動作します。(☞ P55)
- ※FMモードで15kHzまたは6kHzのIFフィルターを選択しているときに動作します。

## ③ モード表示

選択したモードを表示します。(☞ P44)

## ④ AGC(自動利得制御)機能表示

AGC(自動利得制御)機能がFASTのときに点灯します。  
(☞ P54)

## ⑤ NB(ノイズブランカー)機能表示

NB(ノイズブランカー)機能が動作中のときに点灯します。  
(☞ P56)

## ⑥ DSP機能表示

DSP機能が動作中のときに点灯します。  
(☞ P144、145)

※別売品のUT-106(DSPユニット)が必要になります。

## ⑦ 周波数、セットモード表示

- ➡ VFOモード時、運用周波数を表示します。
- ➡ SETモード時、設定項目と設定内容を表示します。
- ➡ メモリーモード時、メモリーチャンネル名を表示します。
- ➡ 各種スキャン中は小数点が点滅します。

## ⑧ (オートパワーオフ)表示

オートパワーオフ機能が動作中に点灯します。(☞ P132)

## ⑨ PRIO(プライオリティスキャン)表示

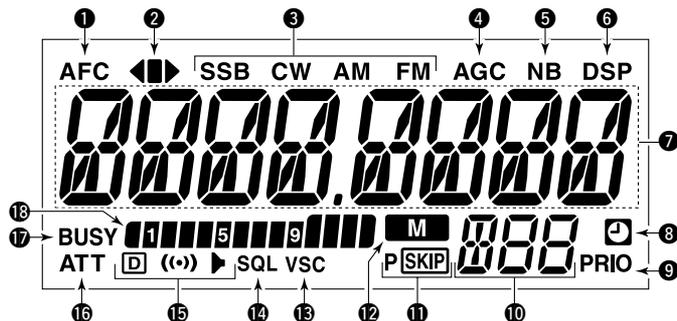
プライオリティスキャン機能が動作中に点灯します。  
(☞ P94、95)

## ⑩ メモリー表示

メモリーチャンネル(M-CH)、メモリーバンク、SETモードの項目などを表示します。

## 4 各部の名称と機能(IC-R1500)

### ■ 表示部について(IC-R1500コントローラー) (つづき)



#### 11 P[SKIP] (スキップ)表示

スキップ機能が動作中に点灯します。

SKIP表示点灯 : メモリースキップを表示します。  
(☞ P89)

P[SKIP]表示点灯 : 周波数スキップを表示します。  
(☞ P89)

※ なお、指定した周波数スキップは、SETモードのプログラムスキャンのスキップの設定項目(☞ P140)で“ON/OFF”できます。

#### 12 M (メモリーモード)表示

メモリーモードのときに点灯します。(☞ P69)

#### 13 VSC (ボイススケルチコントロール)表示

VSC(ボイススケルチコントロール)機能が動作中に点灯します。(☞ P115、139)

14 SQL (空線キャンセラー機能/MSK制御信号検出機能)表示  
TRAIN(空線キャンセラー)機能、MSK制御信号の検出機能動作中に点灯します。(☞ P117、118)

#### 15 トーン機能表示

各種トーン機能を表示します。(☞ P97、99)

- “▶” 点灯 : トーンスケルチ機能を表示します。
- “((○) ▶)”点灯 : トーンスケルチによるポケットビープ機能を表示します。
- “@” 点灯 : DTCSコードスケルチ機能を表示します。
- “@ ((○))” 点灯 : DTCSによるポケットビープ機能を表示します。

#### 16 ATT (アッテネーター)表示

ATT (アッテネーター)機能が動作中に点灯します。  
(☞ P53)

#### 17 BUSY表示

受信状態でスケルチが開いているときに点灯します。  
モニター機能動作中は点滅します。(☞ P41)

#### 18 Sメーター表示

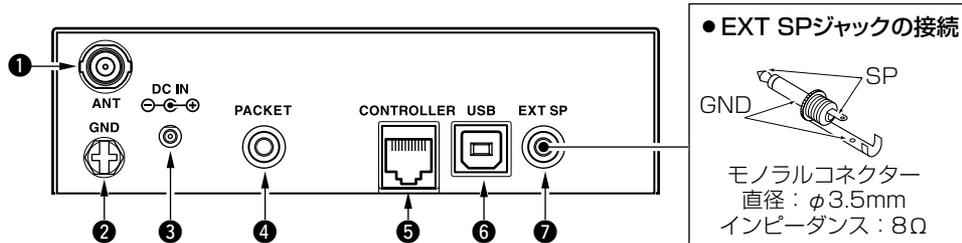
受信信号のレベルを表示します。

## ■ 本体前面部について

本体電源スイッチ  
IC-PCR1500の本体電源の  
“ON/OFF”を切り替えます。  
※“ON”のときは、パイロットラン  
プが点灯します。



## ■ 本体後面部について



### ① アンテナコネクター([ANT])

付属のアンテナを接続するコネクターです。(※P1)

### ② アース端子([GND])

アース線を接続します。(※P1)  
アース線は市販の物をご用意ください。

### ③ DCジャック([DC IN])

付属のACアダプター、または別売品のシガレットライターケー  
ブル(CP-12L)を接続します。(※P1)

### ④ パケット通信用ジャック([PACKET]) (直径：φ3.5mm)

パケット通信をするとき、TNCIに接続する端子です。(※P2)  
接続ケーブルはお客様でご用意ください。

### ⑤ コントローラージャック([CONTROLLER])

●IC-PCR1500では使用しません。ここに導通性の物を挿入  
すると、ショートなどにより本機が壊れることがあります  
ので、ご注意ください。

●IC-R1500ではコントローラーのケーブルを接続します。

### ⑥ USBジャック([USB])

付属のUSBケーブルを使って、パソコンの[USB]ポートと接  
続します。(※P1)

### ⑦ 外部スピーカージャック([EXT SP]) (直径：φ3.5mm)

別売品の外部スピーカーを接続します。

# 5

## 基本操作のしかた

### ■ IC-PCR1500の起動/レシーバーの切り替えについて

#### ◇ IC-PCR1500を起動する

- ① IC-PCR1500の本体の[POWER]を“ON”にして、IC-PCR1500のコントロールソフトを起動させてください。(コントロールソフトの起動は、「IC-PCR1500の起動(※P23)」を参照してください)。
- ② ツールバーの[Power]をクリックして、レシーバーの電源を“ON”にしてください。  
※[Power]をクリックすることにより、レシーバーの電源を“ON/OFF”します。
- ③ ツールバーからレシーバーアイコン(シンプル型、多機能型、コンポ型から選択)をクリックして、レシーバーを起動します。

#### ● ツールバーのアイコン



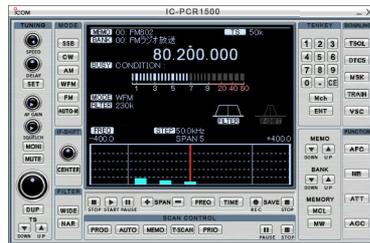
#### ● シンプル型レシーバー



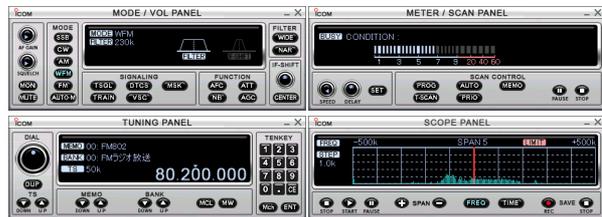
#### ◇ レシーバータイプを切り替えるには

ツールバーから使用するレシーバーに対応するアイコンをクリックします。

- シンプル型レシーバーを表示するには、ツールバーの[Simple]アイコンをクリックします。
- 多機能型レシーバーを表示するには、ツールバーの[Receiver]アイコンをクリックします。
- コンポ型レシーバーを表示するには、ツールバーの[Compo]アイコンをクリックします。
- 多機能型レシーバー



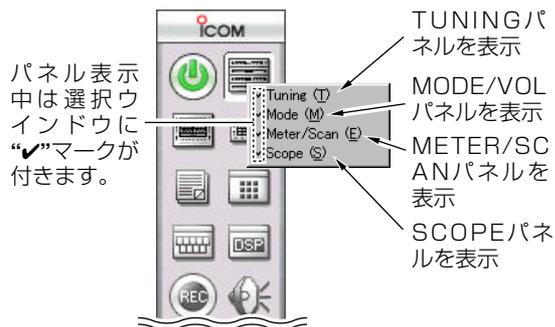
#### ● コンポ型レシーバー



## ◇ コンポ型レシーバーの表示について

コンポ型レシーバー使用時は、必要なパネルだけを表示できます。

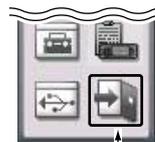
- ① ツールバーの[Compo]アイコンをクリックして、コンポ型レシーバーを表示します。
- ② ツールバーの[Compo]アイコンをもう一度クリックすると、「Tuningパネル」、「Modeパネル」、「Meter/Scanパネル」、「Scopeパネル」の選択ウインドウを表示します。
- ③ 選択ウインドウで表示するパネルをクリックすると、選択したパネルが表示されます。  
※パネル表示中は選択ウインドウに“✓”マークが付きます。
- ④ ②～③を繰り返してパネルを表示させてください。  
※パネルを表示しない場合も同じ操作です。  
※パネル未表示の場合、選択ウインドウの“✓”マークが消えます。



## ■ IC-PCR1500を終了するには

ツールバーの[Exit]アイコンをクリックすると、コントロールソフトを終了します。

- ※[クローズ]ボタンをクリックすると、コントロールソフトを閉じます。
- ※コンポ型レシーバーでは“MODE/VOL PANEL”、“METER/SCAN PANEL”、“TUNING PANEL”、“SCOPE PANEL”のすべてのパネルで同じ操作をしてください。
- ※ツールバーの[Power]ボタンをクリックすると、コントロールソフトの機能を“OFF”にします。

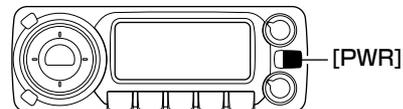


— [クローズ]ボタン

クリックすると、コントロールソフトが終了する。

## ◇ コントローラーによる電源の“ON/OFF” (IC-R1500)

[PWR]を押すと、電源が入ります。  
再度、[PWR]を長く(約1秒)押しすと、電源が切れます。



## 5 基本操作のしかた

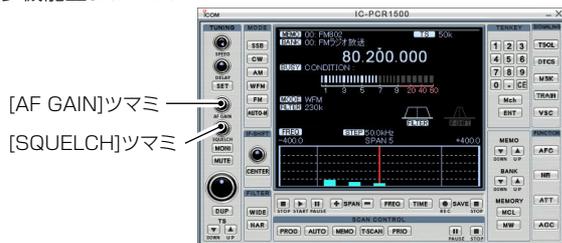
### ■ 音量を調整する

聴きやすい音量に調整します。

#### ● [多機能型/コンポ型/シンプル型]共通

[AF GAIN]ツマミにマウスカーソルを合わせて、マウスの右(補助)ボタンをクリックすると音量が上がります、左(主)ボタンをクリックすると音量が下がります。

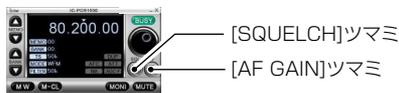
#### ● 多機能型レシーバー



#### ● コンポ型レシーバー



#### ● シンプル型レシーバー



### ■ スケルチレベルを調整する

一定レベル以上の電波を受信しないとスピーカーから音が出ないように制限するのがスケルチ機能です。信号が出ていないときや一定レベルより弱い信号を受信しても、雑音や信号が聞こえないので、快適な選局ができます。受信レベルを制限するには、以下の方法があります。

- **ノイズスケルチ** : 無信号時の「ザー」という雑音を消す。
- **Sメータースケルチ** : 信号の弱い電波を制限する。

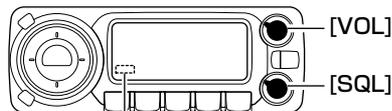
### ◇ コントローラーによる音量、スケルチレベルの調整(IC-R1500)

#### ● 音量の調整

[VOL]ツマミを右に回すと音量が大きくなり、左に回すと音量が小さくなります。

#### ● スケルチレベルの調整

[SQL]ツマミをいったん左に回し切ってから右に回し、雑音が聞こえなくなり、表示部から“BUSY”表示が消灯する位置にスケルチレベルを設定します。



BUSY 表示が消灯する位置に[SQL]を調整する

◇ ノイズスケルチを設定するには

IFフィルターを「CW/SSBモードで2.8または6kHz」、「AMモードで2.8、6k、15kHz」、「FMモードで6k、15kHz」に設定しているときに動作し、無信号時の「ザー」という雑音を消せます。

[多機能型/コンポ型/シンプル型]共通

[SQUELCH]ツマミにマウスカーソルを合わせて、マウスの左(主)または右(補助)ボタンをクリックして、雑音が消えなくなり、表示部(多機能/コンポ型のみ)から“BUSY”表示が消灯する位置にスケルチレベルを設定します。

● 多機能型レシーバー

表示部に[BUSY]表示が  
消灯する位置に設定  
する



● コンポ型レシーバー

表示部に[BUSY]表示が  
消灯する位置に設定  
する



● シンプル型レシーバー

[BUSY]表示が消灯  
する位置に設定する



◇ Sメータースケルチを設定するには

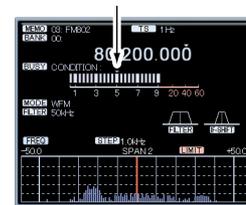
すべての受信モードで動作し、Sメーターに設定した受信レベル以下の電波を受信しないようにします。

[多機能/コンボ型]のみ

[SQUELCH]ツマミにマウスカーソルを合わせて、マウスの左(主)または右(補助)ボタンをクリックして、制限したいSメーターレベルを設定します。

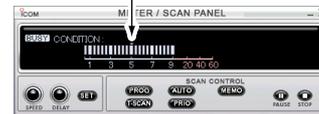
● 多機能型レシーバー

Sメーターで設定した受信レベル以下の受信を  
制限する(図の場合S5以上の電波を受信する)



● コンポ型レシーバー

Sメーターで設定した受信レベル以下の受信を  
制限する(図の場合S5以上の電波を受信する)



## 5 基本操作のしかた

### ■受信モード(電波型式)を設定する

#### ◇受信モード(電波型式)を設定する

受信モードボタンをクリックして、受信モードを設定します。設定できるモードはSSB/CW/AM/WFM/FMです。

#### [多機能/コンボ型]

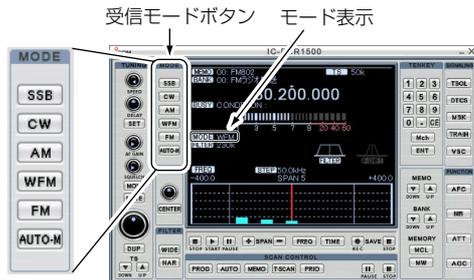
受信モードボタン([SSB]、[CW]、[AM]、[WFM]、[FM]、[AUTO-M])にマウスカーソルを合わせて、クリックして受信モードを選択します。

[AUTO-M]ボタンをクリックすることにより、オートマッチモード機能が“ON/OFF”します。

#### [シンプル型]

- ① 表示部の[MODE]表示をクリックします。
- ② 受信モードの選択ウインドウが表示されますので、[LSB]、[USB]、[CW]、[AM]、[WFM]、[FM]、[Auto]にマウスカーソルを合わせて、クリックして受信モードを選択します。  
[Auto]ボタンをクリックすることにより、オートマッチモード機能が“ON/OFF”します。

#### ●多機能型レシーバー

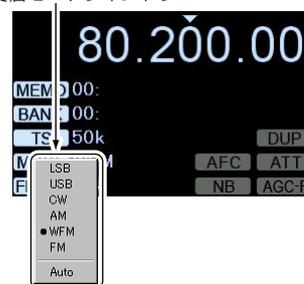


#### ●コンポ型レシーバー



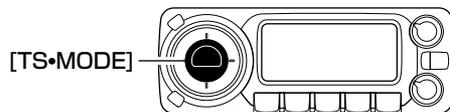
#### ●シンプル型レシーバー

受信モードウインドウ



### ◇ コントローラーによる受信モード(電波型式)の設定 (IC-R1500)

- ① [TS・MODE] ボタンを長く(約1秒)押して、受信モード設定モードにします。
- ② [DIAL] を回して、受信モード設定モードを選択します。  
※AM、LSB、USB、CW、FM、WFM、AUTOから選択します。  
※AUTOを選択すると、オートマッチックモード機能が“ON”になります。
- ③ [PWR] ボタン以外のボタンを短く押すと、受信モードを決定し、受信モード設定モードを解除します。



### ◇ オートマッチックモード機能を使用するには

目的の周波数を入力するだけで、受信モードとIFフィルターの帯域幅、周波数ステップを自動設定するオートマッチックモード機能を搭載しています。

[AUTO-M] (シンプル型は[Auto]) ボタンをクリックすることにより、オートマッチックモード機能が“ON/OFF”します。

### ◇ コントローラーによるオートマッチックモードの設定 (IC-R1500)

上記「コントローラーによる受信モード(電波型式)の設定(IC-R1500)」で“**AUTO**”を選択してください。

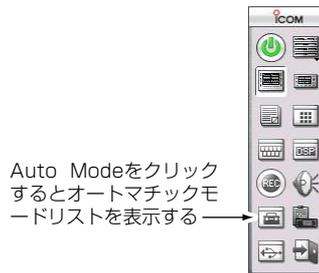
### ◇ オートマッチックモードを編集するには

あらかじめ設定しているオートマッチックモードの内容を追加、訂正、削除できます。  
オートマッチックモードの設定は100件登録できます。

#### [多機能/コンボ型/シンプル型]共通

- ① ツールバーの[Setting]アイコンをクリックして、Settingウインドウを表示します。
- ② [Auto Mode]タブをクリックして、オートマッチックモードのリストを表示します。
- ③ 追加したいリストの[Freq Low]表示欄をクリックして、周波数をキーボードから入力し、キーボードの[Enter]キーを押すと他の表示欄も自動的にデータを表示します。  
※この表示欄を入力しないと、他の表示欄は設定できません。  
※列幅が狭く数値などがすべて表示されないときは、列幅を変更してください。(P63)

※【ご参考】IC-R1500はクローニングソフトウェアでオートマッチックモードの編集ができます。



## 5 基本操作のしかた

◇ オートマッチックモードを編集するには(つづき)

- ④自動的に設定されたネームまたは周波数を設定するときには、**[Name]**、**[Freq Low]**、**[Freq High]**表示欄をクリックして、キーボードからネームまたは周波数を入力し、キーボードの**[Enter]**キーを押します。
- ⑤電波型式、IFフィルター周波数ステップの訂正は、訂正するリストの**[Mode]**、**[Filter]**、**[TS]**表示欄をダブルクリックすると、それぞれの設定メニューを表示します。
- ⑥設定メニューの中から訂正する設定値を選択して、ダブルクリックします。  
または、訂正する設定値を選択して、キーボードの**[Enter]**キーを押します。
- ⑦削除するときにはリストの**[Freq Low]**表示欄にマウスカーソルを合わせてクリックし、右クリックして**[Delete]**を選択するか、キーボードの**[Delete]**キーを押します。
- ⑧他の表示欄を追加/訂正して**クローズボタン**(**[X]**)をクリックすると、オートマッチックモードのリストを閉じます。

[MENU]を押すと、次のメニューが出力されます。

- Default : オートマッチックモードを初期設定値に戻す
- Import : CSV形式ファイルを取り込む
- Export : CSV形式ファイルに書き出す

No	Name	Freq Low	Freq High	Offset	Mode	Filter	TS	User	TS
0		0.010000	0.289999	0.000000	FM	15k	5k		5000
1		0.250000	0.494999	0.000000	AM	6k	5k		
2		0.495000	1.249999	0.000000	AP	6k	9k		
3		1.500000	1.999999	0.000000	A	6k	1k		
4		1.100000	1.249999	0.000000	C1	1.8k	30k		
5		1.250000	1.074999	0.000000	AF	6k	5k		

マウスポインターを合わせてクリックし、キーボードから入力する

マウスポインターを合わせてダブルクリックし、設定メニューから選択する

TS設定メニュー

## ■ 受信周波数を設定するには

受信周波数の設定には、状況により以下の方法があります。

- 放送や通信の周波数がわかっている場合に、10キーボタンで直接周波数を入力する。
  - 周波数がわからない場合や周波数を直接入力したあとに、メインダイヤルで周波数を選ぶ。
  - パソコンのキーボードを押して、周波数を入力する。  
→ スキャン中は“AUTO”が表示部に点灯します。
- ※ 受信できる周波数は「0.010~3299.999999MHz\*」です。  
\*一部周波数を除きます(14章、「定格と別売品一覧」を参照願います)。

### 【多機能/コンボ型】のみ

- 10キーで周波数を設定する  
10キーをクリックし周波数を直接入力して、**[ENT]**ボタンをクリックすると周波数を設定できます。

※ **[CE]**ボタンをクリックすると設定中の周波数をクリアします。

(例1) 0.80000MHzを設定するとき

**[0] [.] [8] [ENT]**とクリックします。

(例2) 1.17900MHzを設定するとき

**[1] [.] [1] [7] [9] [ENT]**とクリックします。

(例3) 145.58500MHzを設定するとき

**[1] [4] [5] [.] [5] [8] [5] [ENT]**とクリックします。

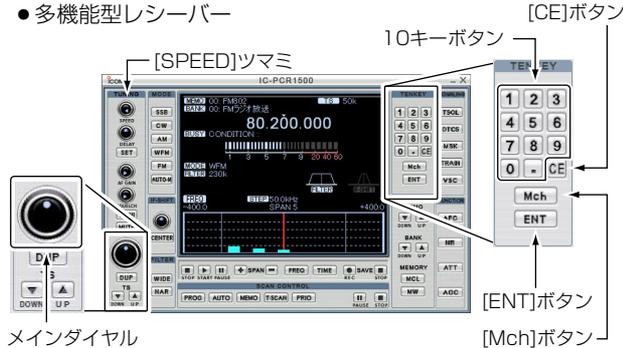
(例4) 1255.40000MHzを設定するとき

**[1] [2] [5] [5] [.] [4] [ENT]**とクリックします。

(例5) 1255.40000MHzを設定したあとで、1255.55500MHzを設定するとき

**[.] [5] [5] [5] [ENT]**とクリックします。

## ●多機能型レシーバー



## ●コンポ型レシーバー



## [多機能/コンポ型/シンプル型]共通

- メインダイヤルで周波数を設定する

[メインダイヤル]にマウスカーソルを合わせ、マウスの右(補助)ボタンをクリックすると、設定している周波数ステップ(TS)で受信周波数が上がります。マウスの左(主)ボタンをクリックすると、受信周波数が下がります。各ボタンを押し続けると、早送り動作になります。

## [多機能/コンポ型/シンプル型]共通

- パソコンのキーボードを押して、周波数を入力する。

パソコンのキーボードの数字を押すと、押した数字が入力されます。小数点も入力できます。パソコンの[ENTER]キーを押すと、周波数設定の入力を完了します。

## ●シンプル型レシーバー



## 5 基本操作のしかた

### ■ 受信周波数を設定するには (つづき)

#### [ご参考]

- ※ パソコンのキーボードが“**直接入力モード**”になっていないと、パソコンのキーボードから周波数を入力できません。
- ※ 数値を押し間違えたときは、**[CE]**ボタンをクリックして、前の周波数に戻してから再入力してください。
- ※ 受信範囲外の周波数を入力して**[ENT]**ボタンをクリックすると、**[ENT]**ボタンをクリックする前の周波数に戻ります。

#### [ご参考] (多機能/コンボ型)のみ

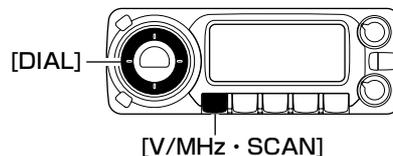
- ※ MHz以上の周波数はそのまま、100kHz以下の周波数だけを変更したいときは、**[.]**ボタンのあとに**[0]~[9]**ボタンをクリックして、最後に**[ENT]**ボタンをクリックしてください。
- ※ 100kHz以上の周波数を“0”に設定したいときは、MHz以上の数値を入力したあとに**[ENT]**ボタンをクリックしてください。

### ◇ コントローラーによる受信周波数の設定 (IC-R1500)

- ① メモリーモードになっているときは、**[V/MHz・SCAN]**ボタンを短く押して、VFOモードにします。
- ② **[DIAL]**を回して、受信周波数を設定します。  
※設定しているチューニングステップ幅で周波数が変わります。

#### 周波数をバンド、1MHz、10MHz幅で設定できます。

- **[V/MHz・SCAN]**ボタンを短く押して、**[DIAL]**を回すと、バンドで周波数を設定できます。  
※1MHz未満の表示部が消灯します。
- もう一度**[V/MHz・SCAN]**ボタンを短く押して、**[DIAL]**を回すと、10MHz幅で周波数を設定できます。  
※10MHzの表示部が点滅します。
- さらにもう一度**[V/MHz・SCAN]**ボタンを短く押して、**[DIAL]**を回すと、1MHz幅で周波数を設定できます。  
※1MHzの表示部が点滅します。



## ■周波数ステップ(TS)を変更するには

[メインダイヤル]または[FREQ ▲]/[FREQ ▼]ボタンで周波数を選ぶときや、スキャン機能で信号を探すときの周波数ステップを変更できます。

### [多機能/コンボ型]

[TS ▲](UP)/[TS ▼](DOWN)ボタンにマウスカーソルを合わせて、クリックして周波数ステップを選択します。

▶右クリックでリストを表示します。

### [シンプル型]

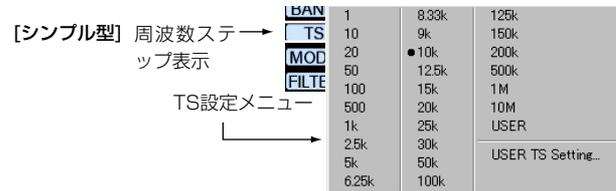
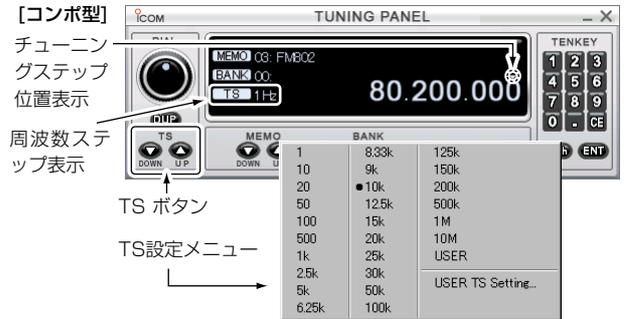
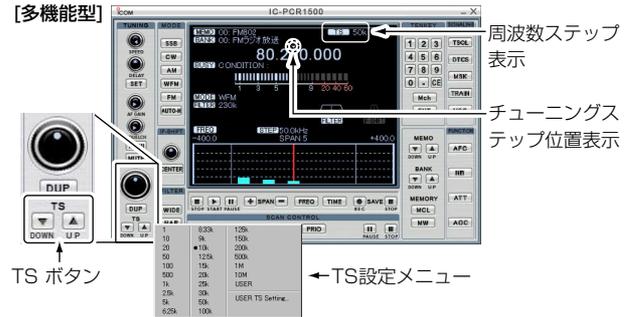
- ① 表示部の[TS]表示をクリックします。
- ② 周波数ステップの選択ウインドウが表示されますので、設定するステップにマウスカーソルを合わせて、クリックして周波数ステップを選択します。

## ◇設定できる周波数ステップ

1Hz、10Hz、20Hz、50Hz、100Hz、500Hz、1kHz、2.5kHz、5kHz、6.25kHz、8.33kHz、9kHz、10kHz、12.5kHz、15kHz、20kHz、25kHz、30kHz、50kHz、100kHz、125kHz、150kHz、200kHz、500kHz、1MHz、10MHz、USER(ユーザープログラマブル周波数ステップ)。

ユーザープログラマブル周波数ステップを設定するときは、[USER TS Setting]をクリックしてください。

[User TS]ダイアログボックスにお好みのチューニングステップを入力して、キーボードの[Enter]キーを押してください。

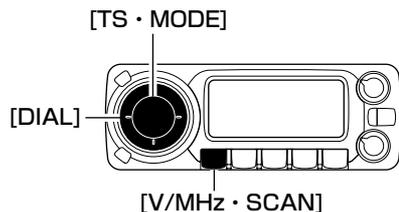


## 5 基本操作のしかた

■ 周波数ステップを変更するには (つづき)

### ◇ コントローラーによる周波数ステップ(TS)の設定 (IC-R1500)

- ① メモリーモードになっているときは、[V/MHz・SCAN] ボタンを短く押して、VFOモードにします。
- ② [TS・MODE] ボタン短く押して、周波数ステップ設定モードにします。
- ③ [DIAL] を回すと、周波数ステップが切り替わります。
- ④ [PWR] ボタン以外のボタンを短く押すと、周波数ステップ設定モードを解除します。



### ◇ コントローラーで設定できる周波数ステップ (IC-R1500)

10Hz、20Hz、50Hz、100Hz、500Hz、1kHz、2.5kHz、5kHz、6.25kHz、8.33kHz、9kHz、10kHz、12.5kHz、15kHz、20kHz、25kHz、30kHz、50kHz、100kHz、125kHz、150kHz、200kHz、500kHz、1MHz、At(オート周波数ステップ)。

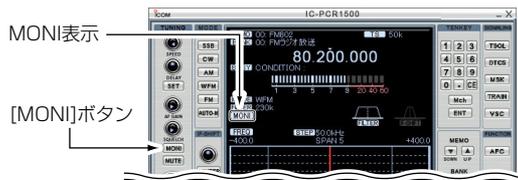
## ■ モニターのしかた

受信信号が弱かったり、途切れたりして聞きとりにくい場合に効果があります。

[多機能/コンボ型/シンプル型]共通

[MONI]ボタンにマウスカーソルを合わせて、クリックすることでモニターが“ON/OFF”になります。

### ● 多機能型レシーバー



### ● コンボ型レシーバー

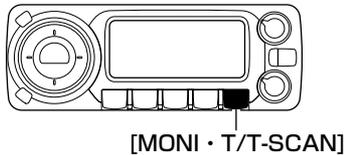


### ● シンプル型レシーバー



◇ コントローラーによるモニターのしかた  
(IC-R1500)

[MONI・T/T-SCAN]ボタン短く押すごとに、モニター機能が  
“ON/OFF”します。



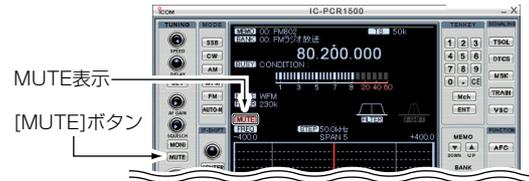
■ ミュート(消音機能)について

音をすばやく消したいとき便利な機能です。

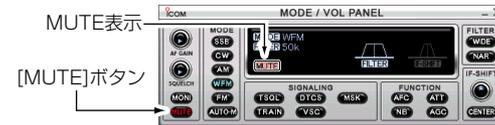
[多機能/コンボ型/シンプル型]共通

[MUTE]ボタンにマウスカーソルを合わせて、クリックすること  
にミュートが“ON/OFF”になります。

● 多機能型レシーバー



● コンボ型レシーバー



● シンプル型レシーバー



## 5 基本操作のしかた

### ■IFフィルターの切り替えかた

IFフィルターの通過帯域幅を受信形態に応じて切り替えられます。混信で聞きにくいときに“NAR(ナロー)”を選択すると、了解度が改善されることがあります。

#### [多機能/コンボ型]

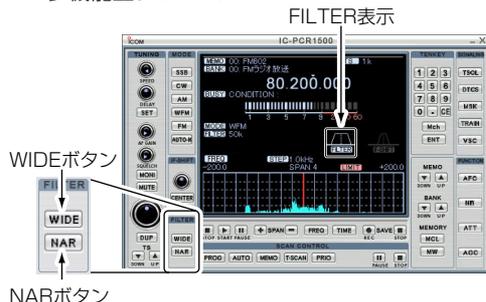
[NAR]ボタンにマウスカーソルを合わせて、クリックするとIFフィルターがナローに設定されます。

[WIDE]ボタンにマウスカーソルを合わせて、クリックするとIFフィルターがワイドに設定されます。

#### [シンプル型]

- ① 表示部の[FILTER]表示をクリックします。
- ② IFフィルター選択ウインドウが表示されますので、設定するフィルターにマウスカーソルを合わせて、クリックしてIFフィルターを選択します。

#### ●多機能型レシーバー



FILTER	LSB/USB	CW	AM	FM	WFM
230kHz	×	×	×	×	◎
50kHz	×	×	○	○	○
15kHz	×	×	○	◎	×
6kHz	○	○	◎	○	×
2.8kHz	◎	◎	○	×	×

×：選択できません ○：選択できます ◎：初期設定値

#### ●コンボ型レシーバー

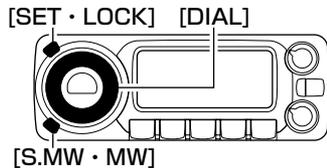


#### ●シンプル型レシーバー



◇ コントローラーによるIFフィルターの切り替えかた(IC-R1500)

- ① [SET・LOCK] ボタンを短く押して、SETモードにします。
- ② [SET・LOCK] または [S.MW・MW] ボタンを短く押して、「FIL(IFフィルターの設定)」を選択します。



- ③ [DIAL] を回して、IFフィルターを選択します。
- ④ [SET・LOCK]、[S.MW・MW]、[PWR]以外のボタンを短く押すと、セットモードを解除します。



設定するモードによって、IFフィルターは下表のように選択できます。

FILTER	LSB/USB	CW	AM	FM	WFM
230kHz	×	×	×	×	◎
50kHz	×	×	○	○	○
15kHz	×	×	○	◎	×
6kHz	○	○	◎	○	×
3kHz	◎	◎	○	×	×

×：選択できません ○：選択できます ◎：初期設定値

■ アッテネーター(ATT)機能について

アッテネーター(減衰器)は、強い信号を受信したときに減衰して受信音のひずみを低減します。アッテネーターの減衰量は、約20dBですが、受信周波数により、変化します。

【多機能/コンボ型】

[ATT]ボタンにマウスカーソルを合わせて、クリックすることによりアッテネーターが“ON/OFF”します。

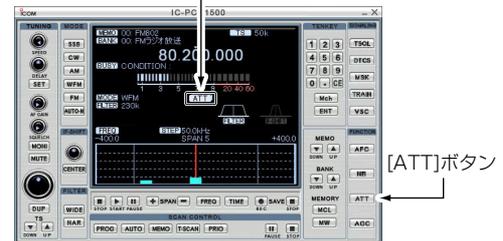
【シンプル型】

表示部の[ATT]表示にマウスカーソルを合わせて、クリックすることによりアッテネーターが“ON/OFF”します。

- ※ “ON”時は表示部に“ATT”が点灯します。
- ※ アッテネーター機能は、1300MHz以下で動作します。

● 多機能型レシーバー

ATT表示



## 5 基本操作のしかた

### ■ アッテネーター(ATT)機能について (つづき)

- コンポ型レシーバー



- シンプル型レシーバー

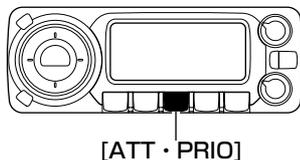


### ◇ コントローラーによるアッテネーター(ATT)機能の切り替えかた(IC-R1500)

[ATT・PRIO]ボタンを短く押すごとに、アッテネーターが“ON/OFF”します。

※ “ON”時は表示部に“ATT”が点灯します。

※ アッテネーター機能は、1300MHz以下で動作します。



### ■ AGC(自動利得制御)機能について

強力な信号を受信しても、強弱をできるだけ抑えて安定した受信ができるようにします(FM、WFMモードでは動作しません)。

#### [多機能/コンポ型]

[AGC]ボタンにマウスカーソルを合わせて、クリックすることでAGC機能を“ファースト”/“スロー”に切り替えます。

#### [シンプル型]

表示部の[AGC-F]ボタンにマウスカーソルを合わせて、クリックすることでAGC機能を“ファースト”/“スロー”に切り替えます。

※ “ファースト”時は表示部に“AGC-F”が点灯します。

- 多機能型レシーバー



- コンポ型レシーバー



- シンプル型レシーバー

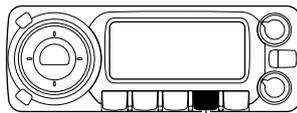


### ◇ コントローラーによるAGC(自動利得制御)機能の切り替えかた(IC-R1500)

[NB・AGC]ボタンを長く(約1秒)押すごとに、AGC機能を“ファースト”/“スロー”に切り替えます。

※ “AGCファースト”時は表示部に“AGC”が点灯します。

※ AGCスロー機能は、FM、WFMモードでは動作しません。



[NB・AGC]

### ■ AFC(自動周波数制御)機能の使いかた

FMモードで受信しているときに、送信している局の周波数が変動すると、音声ひずんだり、雑音が入る場合があります。このような場合に、AFC機能を使用すると、受信信号の周波数変動に自動追従し、常に安定した信号を受信できます。

※この機能は、FMモードでIFフィルターが6kHz、15kHzのどちらかが選択されているときに動作します。

※また、1000MHz以上の周波数でお使いください。

#### [多機能/コンボ型]

[AFC]ボタンにマウスカーソルを合わせて、クリックすることによりAFC機能が“ON/OFF”します。

#### [シンプル型]

表示部の[AFC]表示にマウスカーソルを合わせて、クリックすることによりAFC機能が“ON/OFF”します。

※ “ON”時は“AFC”表示が点灯します。

- 多機能型レシーバー



## 5 基本操作のしかた

### ■ AFC(自動周波数制御)機能の使いかた(つづき)

#### ● コンポ型レシーバー



#### ● シンプル型レシーバー

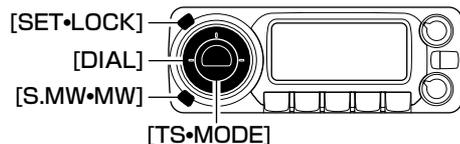


### ◇ コントローラーによるAFC(自動周波数制御)機能の使いかた(IC-R1500)

- ① [SET・LOCK] ボタンを短く押して、SETモードにします。
- ② [SET・LOCK] または [S.MW・MW] ボタンを短く押して、「AFC(AFC機能の設定)」を選択します。
- ③ [DIAL] を回して、AFC機能の“ON/OFF”を選択します。
- ④ [TS・MODE] ボタンを短く押すと、セットモードを解除します。

※ “ON”時は表示部に“**AFC**”表示が点灯します。

※ シフト方向に周波数を設定します。



### ■ NB(ノイズブランカー)機能の使いかた

ノイズブランカー機能はLSB/USB/CWモードで受信しているときに、自動車のイグニッションノイズのようなパルス性ノイズが多い場合に使用します。

※ NB機能をAMモードで使用すると、受信音がひずむことがあります。

#### [多機能/コンポ型]

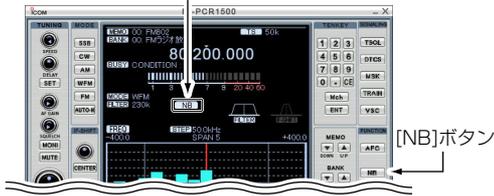
[NB] ボタンにマウスカーソルを合わせて、クリックするごとにノイズブランカー機能が“ON/OFF”します。

#### [シンプル型]

表示部の[NB]表示にマウスカーソルを合わせて、クリックするごとにノイズブランカー機能が“ON/OFF”します。

※ “ON”時は“**NB**”表示が点灯します。

- 多機能型レシーバー NB表示



- コンポ型レシーバー



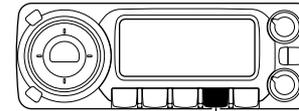
- シンプル型レシーバー



### ◇ コントローラーによるNB(ノイズブランカー)機能のしかた(IC-R1500)

[NB・AGC]ボタンを短く押すごとに、ノイズブランカー機能の“ON/OFF”を選択します。

※ “ON”時は表示部に“NB”表示が点灯します。



# 6

## メモリーの使いかた

### ■メモリーモードについて

よく使用する周波数や情報などを、あらかじめメモリーチャンネル(以下、M-CHと略記します。)に記憶させておき、すばやく呼び出して受信するためのモードです。

#### ◆表記について

##### [IC-PCR1500]

- 通常のM-CHとして2600CH、プログラムスキャン用チャンネル(以下、PROGRAM-CHと略記します。)として100CH(0<Freq Low>/0<Freq High>~49<Freq Low>/49<Freq High>)の合計2700CH使用できます。
- M-CHで受信する際は、メモリー番号を呼び出します。  
※メモリーチャンネルエディターからも呼び出せます。
- M-CHに記憶する際は、周波数などの内容を設定したあと、書き込み操作をします。

##### [IC-R1500]

- 通常のM-CHとして1000CH(バンドの区別はありません)、PROGRAM-CH用チャンネルとして100CH(0<Freq Low>/0<Freq High>~49<Freq Low>/49<Freq High>)の合計1100CH使用できます。
- M-CHに記憶する際は、周波数などの内容を設定したあと、書き込み操作をします。

#### ◆M-CHに記憶できる内容

すべてのM-CHで周波数のほかに、右記の内容を記憶します。

##### [IC-PCR1500]

- 「メモリーバンク」、「メモリーネーム」、「周波数」、「デュプレックスのON/OFF、シフト方向(+/-)」、「オフセット周波数」、「受信モード(電波型式)」、「IFフィルタの通過帯域幅」、「アッテネーターのON/OFF」、「チューニングステップ(TS)」、「セレクト指定のON/OFF」、「スキップのON/OFF」、「トーンのON/OFF、トーン周波数、DTCSコード・極性」、「キャンセラー(空線キャンセラー、MSK)」、「リマーク」

##### [IC-R1500]

- 「メモリーバンク」、「メモリーネーム」、「周波数」、「デュプレックスのON/OFF、シフト方向(+/-)」、「オフセット周波数」、「受信モード(電波型式)」、「トーンスケルチ、DTCSのON/OFF、トーン周波数、DTCSコード・極性」、「スキップのON/OFF」

#### ◆メモリーチャンネル(M-CH)の内容

59、61、69ページにしたがって、メモリーチャンネルにデータを記録してください。

#### △ご注意

IC-PCR1500のメモリーの内容は、パソコンのハードディスクなどの記憶媒体に記録されており、パソコンの故障などでメモリーの内容が消失することがあります。

また、IC-R1500のメモリーの内容は、静電気や電氣的雑音などで消失することがあります。また故障や修理の際にも消失することがあります。

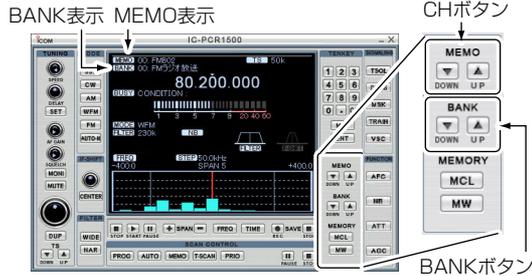
メモリーの内容をバックアップされることをおすすめします。

## ■メモリーチャンネル(M-CH)の呼び出しかた

◇ [▲]/[▼]ボタンで呼び出すには

- ① BANKの[▲]/[▼]ボタンをクリックして、メモリーバンクを選択します。
- ② MEMOの[▲]/[▼]ボタンをクリックして、メモリーチャンネルを選択します。

●多機能型レシーバー



●コンポ型レシーバー

BANK表示 MEMO表示



●シンプル型レシーバー



## 6 メモリーの使いかた(IC-PCR1500)

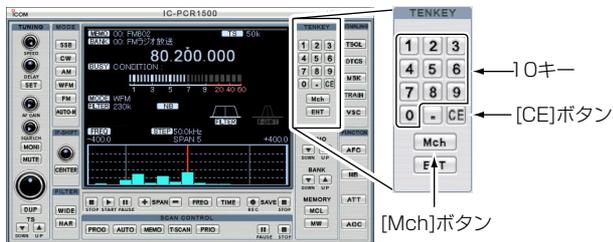
■ メモリーチャンネル(M-CH)の呼び出しかた (つづき)

◇ テンキーから呼び出すには  
(多機能型/コンポ型のみ)

- ① BANKの[▲]/[▼]ボタンをクリックして、メモリーバンクを選択します。
- ② 10キーの[0]~[9]ボタンをクリックして呼び出すメモリーチャンネルを設定し、[Mch]ボタンをクリックすると、メモリーチャンネルを呼び出します。

※[CE]ボタンをクリックすると設定中のメモリーチャンネルをクリアします。

● 多機能型レシーバー



● コンポ型レシーバー



■ メモリーチャンネルエディターから呼び出すには

- ① ツールバーの[Memory Edit]アイコンをクリックして、メモリーチャンネルエディターを表示します。  
※メニューバーからも呼び出せます。
- ② BANKの[▲]/[▼]ボタンをクリックして、バンクメニューからメモリーバンクを選択します。
- ③ メモリーチャンネルエディター表示の中から受信したいメモリーチャンネルのデータを選択して、[RX Entry]ボタンをクリックすると、指定したメモリーチャンネルのデータを受信します。



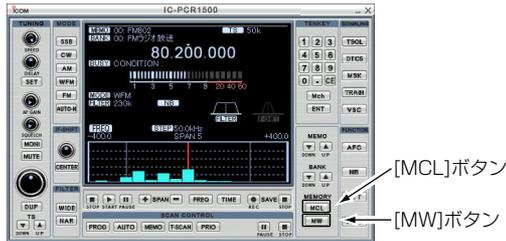
■ メモリー(M-CH)への書き込みかた

各メモリーバンク(00~25)には、100チャンネルのメモリーチャンネルを持ち、下記内容を書き込みます。

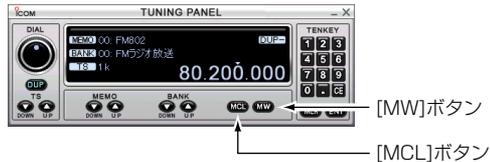
受信周波数/デュプレックス/オフセット周波数/モード/フィルター/アッテネーターの「ON/OFF」/周波数ステップ/トーンスケルチの「ON/OFF」/トーン周波数/DTCSの「ON/OFF」/DTCSコード/DTCSの極性/キャンセラー機能の「ON/OFF」/空線信号周波数/リマーク

- ① 書き込みたいメモリーバンクとメモリーチャンネルを呼び出します。(P58～59)
- ② 書き込みたい受信周波数や受信モードを設定します。
- ③ **[MW]**ボタンを約1秒間クリックすると、メモリーチャンネルエディターに書き込みます。

## ●多機能型レシーバー



## ●コンポ型レシーバー

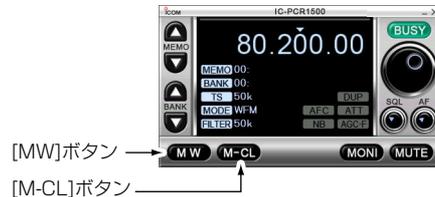


## ■メモリークリア(消去)のしかた

不要になったM-CHを消去します。  
いったん消去したM-CHの内容は、復活できませんのでご注意ください。

- ① 消去したいメモリーバンクとメモリーチャンネルを呼び出します。
- ② **[MCL]**または**[M-CL]**ボタンをクリックすると、指定したメモリーバンクのメモリーチャンネルエディターを消去します。

## ●シンプル型レシーバー



## 6 メモリーの使いかた(IC-PCR1500)

### ■メモリーチャンネルエディターで編集するには

#### ◇メモリーチャンネルエディター上でネーム、受信周波数などの追加/訂正のしかた

メモリーチャンネルエディター上でメモリーネーム、受信周波数などを下記のように追加/訂正できます。

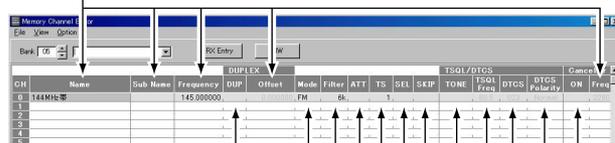
- ① ツールバーの[Memory Edit]アイコンをクリックして、メモリーチャンネルエディターを表示します。
- ② 追加したいリストの[Frequency]表示欄をクリックして、周波数をキーボードから入力し、キーボードの[Enter]キーを押すと他の表示欄も自動的にデータを表示します。



- ③ 自動的に設定されたメモリーネームまたは受信周波数を訂正するときは、[Name]、[Sub Name]、[Frequency]表示欄をクリックして、キーボードからネームまたは周波数を入力し、キーボードの[Enter]キーを押します。
- ④ デュプレックス/オフセット周波数/モード/フィルター/アッテネーターの[ON/OFF]/周波数ステップ/メモリースキャンのセレクト指定/メモリースキャンのスキップ指定/トーンスケルチの[ON/OFF]/トーン周波数/DTCOSの[ON/OFF]/DTCOSコード/DTCOSの極性/キャンセラー機能の[ON/OFF]/空線信号周波数/リマークを訂正するときは、リストの[DUP]、[Mode]、[Filter]、[ATT]、[TS]、[SEL]、[SKIP]、[TONE]、[TSQL Freq]、[DTCOS]、[DTCOS Polarity]、[Canceller-ON]表示欄をダブルクリックすると、それぞれの設定メニューを表示します。

- ⑤ 設定メニューの中から、訂正する設定値を選択してダブルクリックします。訂正する設定値を選択、またはキーボードから入力して、キーボードの[Enter]キーを押します。

マウスポインターを合わせてクリックし、キーボードから入力する。  
[Sub Name]はIC-R1500のメモリーネーム表示(6文字以内)。



マウスポインターを合わせてダブルクリックし、設定メニューから選択する

- ⑥ 削除するときは、削除するリストのいずれかの項目にマウスポインターを合わせてクリックして、キーボードの[Delete]キーを押します。
- ⑦ [Delete]ダイアログボックスが表示されます。削除するときは[OK]ボタンを、削除しないときは[キャンセル]ボタンを押します。
- ⑧ 他の表示欄を追加/訂正してクローズボタン([X])をクリックすると、メモリーチャンネルエディターを閉じます。

●ネームと他の設定値を訂正

クローズボタン



## ◇バンクネームの設定を変更する

- ① ツールバーの[Memory Edit]アイコンをクリックして、メモリーチャンネルエディターを表示します。
- ② BANKの[▲]/[▼]ボタンをクリックして、バンクメニューからメモリーバンクを選択します。
- ③ 設定または変更したい「バンクネーム表示欄」にマウスカーソルを合わせ、クリックしてバンクネーム入力状態にします。
- ④ キーボードでバンクネームを設定または変更して、キーボードの[Enter]キーを押します。



## ◇バンクネームでメモリーバンクを呼び出す

- ① ツールバーのメモリーチャンネルエディターアイコンをクリックして、メモリーチャンネルエディターを表示します。
- ② 「バンクネーム表示欄」コンボボックスの[▼]ボタンをクリックするとバンクネームリストを表示します。
- ③ 呼び出したいバンクネームを選択してクリックすると、指定のメモリーバンクに切り替わります。



## 6 メモリーの使いかた(IC-PCR1500)

■ メモリーチャンネルエディターで編集するには (つづき)

### ◇ メモリーチャンネル(M-CH)の挿入と削除

新たなチャンネルをリストに挿入(インサート)、または不要なチャンネルを削除(デリート)できます。

- ① ツールバーの[Memory Edit]アイコンをクリックして、メモリーチャンネルエディターを表示します。
- ② BANKの[▲]/[▼]ボタンをクリックして、バンクメニューからメモリーバンクを選択します。
- ③ チャンネルを挿入または削除したい位置でクリックし、右クリックして挿入するときは[Insert]、削除するときは[Delete]を選択します。

※キーボードの[Insert]、[Delete]キーでも操作できます。

※続けて右クリックして挿入するときは[Insert]、削除するときは[Delete]を選択すると、同じ位置で挿入または削除を繰り返します。

[例]4chが削除または追加される クローズボタン

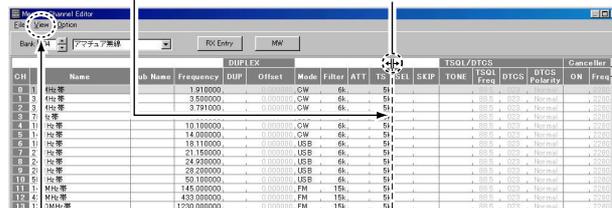


### ◇ 列幅の変更

列幅が狭く、設定したメモリーネームや数値がすべて表示できないときは、下記の操作をしてください。

- ① 広げる列幅にマウスカーソルを合わせると、マウスカーソルの形状が変わります。
- ② マウスの左(主)ボタンを押しながらドラッグして、列幅を広げてマウスボタンを離します。

列幅変更中は  
波線表示になる  
マウスカーソルが  
“+”になる



[View]をクリックすると、[Sub Name]、[ISQL/DTCS]、[Canceller]の表示/非表示、表示フォントサイズを設定できる。

### ◇ 表示内容/表示フォントサイズの変更

[View]メニューの[Sub Name]、[ISQL/DTCS]、[Canceller]のチェックを外すと、それぞれの内容について、メモリーチャンネルエディター上の表示を非表示にします。

また、[View]メニューの[Font Size]で表示フォントサイズを変更できます。

## ■メモリーチャンネルエディターをバックアップするには

[File]メニューの[Save]、[Save As]を使用して、メモリーチャンネルエディターのデータをバックアップします。

- Save(上書き保存)メニュー  
既存のファイルに上書き保存する。
- Save As(名前を付けて保存)メニュー  
元のファイルとは別にファイル名を付けて保存する。

### [多機能/コンボ型/シンプル型]共通

メニューバーの[File]をクリックして、メニューの中から[Save]、[Save As]のどちらかをクリックします。

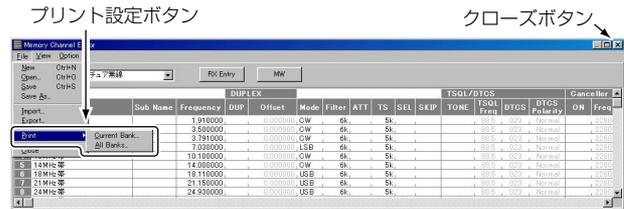


## ■メモリーチャンネルを印刷する

「メモリーチャンネルエディターをバックアップするには」にしたがって「File」メニューを開きます。

- ① ツールバーの[Memory Edit]アイコンをクリックして、メモリーチャンネルエディターを表示します。
- ② BANKの[▲]/[▼]ボタンをクリックして、バンクメニューから印刷したいメモリーバンクを選択します。
- ③ [File]メニューの[Print - Current Bank]または[Print - All Banks]をクリックすると、メモリーチャンネルをクリックします。

- [Print - Current Bank] : 選択しているバンクのメモリーチャンネルを印刷する。
- [Print - All Banks] : 全バンクのメモリーチャンネルを印刷する。



## 6 メモリーの使いかた(IC-PCR1500)

### ■新規ファイルの作成と保存のしかた

64ページの「メモリーチャンネルエディターをバックアップするには」にしたがって「File」メニューを開きます。

- ① **[File]**メニューの**[New]**をクリックすると、新規に空白のメモリーチャンネルエディターを作成します。
- ② **[File]**メニューの**[Save As]**をクリックして、「名前を付けて保存」ダイアログボックスを表示します。
- ③ 表示しているフォルダ以外の場所にファイルを保存するには、他のドライブまたはフォルダをクリックします。
- ④ 「**ファイル名**」ボックスにファイル名を入力して、**[保存(S)]**ボタンをクリックします。

※**[File]**メニューの**[Save]**をクリックすると、現在開いているファイル名、保存場所、およびファイル形式で保存します。



ファイル名を付けて[保存]をクリックする

### ■ファイルを開くには

64ページの「メモリーチャンネルエディターをバックアップするには」にしたがって「File」メニューを開きます。

- ① **[File]**メニューの**[Open]**をクリックして、「開く」ダイアログボックスを表示します。
- ② **[ドライブ]**ボックスでファイルを保存しているドライブをクリックします。
- ③ **[フォルダ]**ボックスにフォルダとファイルの一覧が表示されるので、ファイルを保存しているフォルダ名をダブルクリックします。
- ④ **[ファイル名]**ボックスで開きたいファイル名をクリックして、**[開く(O)]**ボタンをクリックします。



【ご参考】：メモリーチャンネルを出荷時のプリセット状態に戻したい場合、付属のCD内、「PCR1500」フォルダー内の「Preset\_j.mch」ファイルを開いてください。「Preset\_j.mch」ファイルを開くと、現在のメモリーチャンネルデータは上書きされますので、ご注意ください。また、「Preset\_j.mch」ファイルの取り扱いについては、68ページをご覧ください。

## ■ CSVフォーマットファイルを取り込むには

64ページの「メモリーチャンネルエディターをバックアップするには」にしたがって「File」メニューを開きます。

※取り込んだCSVデータは、現在設定されているバンクに上書き保存されます。一度上書き保存されると、データを元に戻せませんので、ご注意ください。

- ① **[File]**メニューの**[Import]**をクリックして、「開く」ダイアログボックスを表示します。
- ② **[ドライブ]**ボックスでファイルを保存しているドライブをクリックします。
- ③ **[フォルダ]**ボックスにフォルダとファイルの一覧が表示されるので、ファイルを保存しているフォルダ名をダブルクリックします。
- ④ **[ファイル名]**ボックスで開きたいファイル名をクリックして、「開く(O)」ボタンをクリックします。



## ■ CSVフォーマットファイルに出力するには

64ページの「メモリーチャンネルエディターをバックアップするには」にしたがって「File」メニューを開きます。

※出力されるメモリーデータは、現在設定されているバンクが対象となります。

- ① **[File]**メニューの**[Export]**をクリックして、「名前を付けて保存」ダイアログボックスを表示します。
- ② 表示しているフォルダ以外の場所にファイルを保存するには、他のドライブまたはフォルダをクリックします。
- ③ **[ファイル名]**ボックスにファイル名を入力して、「保存(s)」ボタンをクリックします。



ファイル名を付けて[保存]をクリックする

## 6 メモリーの使いかた(IC-PCR1500)

### ■テレビ放送(音声)周波数のプリセットについて

新しいメモリーチャンネルのデータを作成したときなどにお使い  
いただくと便利な機能です。

- ① ツールバーの[Memory Edit]アイコンをクリックして、メモリーチャンネルエディターを表示します。
- ② [▲]/[▼]ボタンをクリックして、テレビ放送(音声)の周波数をプリセットするメモリーバンクを設定します。
- ③ メニューバーの[Option]をクリックし、[Preset TV CH ▶]にマウスカーソルを合わせ、[Japan]をクリックすると、設定したメモリーバンクにテレビ放送(音声)の周波数がプリセットされます。

※[Japan]以外をクリックした場合、メモリーバンクに周波数がプリセットされますが、テレビ放送(音声)は受信できません。

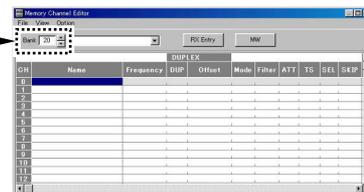
※プリセットするメモリーバンクにデータがある場合、プリセットによりデータが消去されますのでご注意ください。

[例]メモリーバンク「20」にテレビ放送(音声)の周波数をプリセットするには

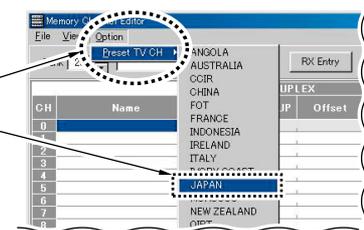
[Memory Edit]アイコンをクリックして、メモリーチャンネルエディターを表示します。



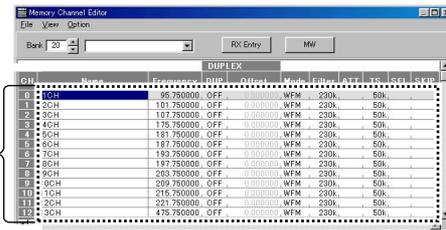
[▲]/[▼]ボタンをクリックしてメモリーバンクを「20」に設定します。



メニューバーの[Option]をクリックし、[Preset TV CH ▶]にカーソルを合わせ、[Japan]をクリックします。



メモリーバンク「20」にテレビ放送(音声)の周波数がプリセットされます。



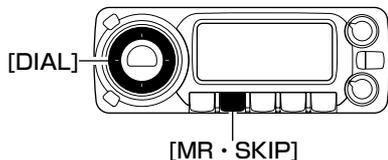
## ■ IC-R1500のM-CHの初期設定値について

チャンネル	おもな用途
0~999 (M-CH)	<ul style="list-style-type: none"> <li>通常のM-CHとしてご使用いただけます。</li> <li>工場出荷時は、一部のメモリーチャンネルにデータがプリセットされています。</li> </ul>
0A/0b~ 49A/49b (PROGRAM- CH)	<ul style="list-style-type: none"> <li>プログラムスキャンの周波数設定用“0A/0b~49A/49b”100CH(50組)</li> <li>工場出荷時は、0A/0bチャンネルにもデータがプリセットされています。</li> <li>希望の周波数範囲(下限周波数と上限周波数)を書き込んでください。</li> </ul>

## ■ M-CHの呼び出しかた

メモリーしていないM-CHを呼び出すことはできません。

- [MR・SKIP]を短く押して、メモリーモードにします。  
※ [V/MHz・SCAN]を短く押すとVFOモードに、[MR・SKIP]を短く押すとメモリーモードを切り替えます。
- [DIAL]を回します。  
※ 書き込まれているM-CHだけを呼び出します。



### 【ご参考】：メモリーチャンネルデータのプリセットについて

オールリセットしたときなどに、メモリーチャンネルを出荷時のプリセット状態に戻したい場合、IC-PCR1500コントロールソフトウェア、クローニングソフトウェア(※別紙参照)、付属のCDを使用すると、プリセットメモリーデータを再度メモリーに書き込みます。

- IC-PCR1500コントロールソフトウェアを起動します。
- 「**■** ファイルを開くには」(※P65)を参照して、付属CDの「PCR1500フォルダー」内の「preset\_j.mchファイル」を開きます。
- クローニングソフトウェアを起動して、データをIC-R1500用に変換(PC → Receiver)します(※別紙参照)。
- クローニングソフトウェアでIC-R1500に書き込みます(※別紙参照)。

△ご注意：「Preset\_j.mch」ファイルをパソコンのハードディスクにコピーすると、「読み取り専用」ファイルとしてコピーされます。以下の手順で「読み取り専用」を解除してください。

- ハードディスクにコピーした「Preset\_j.mch」ファイルにカーソルを合わせ、右クリックをしてプロパティを開きます。
- 属性の「読み取り専用」のチェックをはずして[OK]ボタンを押すと、「読み取り専用」が解除されます。

「読み取り専用」の  
チェックをはずす

[OK]ボタンを押す



## 6 メモリーの使いかた(IC-R1500)

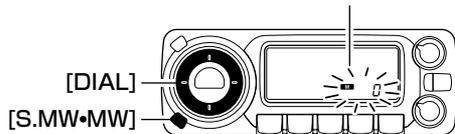
### ■ M-CHの呼び出しかた (つづき)

#### ◇ すべてのM-CHを呼び出す

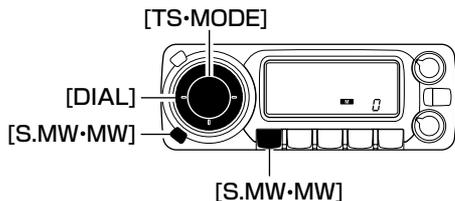
- ① **[S.MW・MW]**を短く押して、セレクトメモリーライト状態にします。  
(M-CH表示部が点滅します。)
- ② **[DIAL]**を回すと、すべてのM-CHを呼び出せます。

#### ● VFOモードからセレクトメモリーライト状態にしたとき

**M** 表示部とチャンネルが点滅する



#### ● メモリーモードからセレクトメモリーライト状態にしたとき



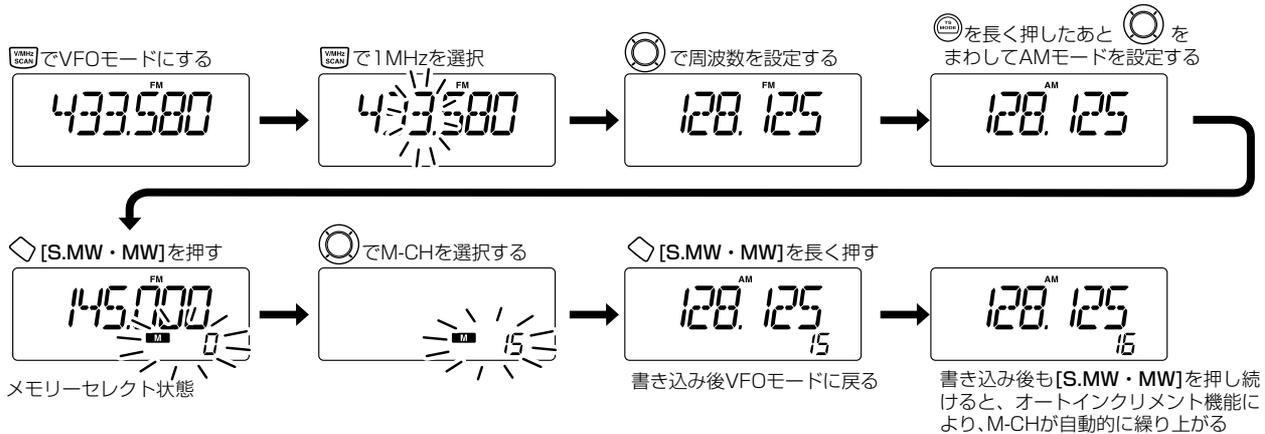
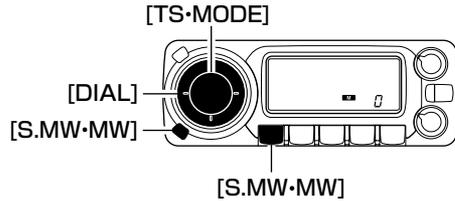
### ■ メモリー(M-CH/PROGRAM-CH)への書き込みかた

M-CH、PROGRAM-CHへの書き込み、または書き替えをします。

#### ◇ M-CHの書き込みかた

《例》 M-CH“15”に“128.125MHz /AM”をメモリーする

- ① **[V/MHz・SCAN]**を短く押して、VFOモードにします。
- ② **[DIAL]**を回して、周波数(128.125MHz)を設定します。  
※「コントローラーによる受信周波数の設定」(P47)をご参照願います。
- ③ **[TS・BAND]**を長く(約1秒)押して、受信モード設定モードにします。
- ④ **[DIAL]**を回して、受信モードを“AM”に設定します。
- ⑤ **[PWR]**ボタン以外のボタンを短して、受信モード設定モードを解除します。
- ⑥ **[S.MW・MW]**を短く押して、セレクトメモリーライト状態にします。  
(M-CH表示部が点滅して、メモリー内容を表示します。)
- ⑦ **[DIAL]**を回して、M-CH“15”を選択します。  
※“VFO”を選択するとVFOに書き込みます。  
※“0A/0b~49A/49b”を選択するとPROGRAM-CHに書き込みます。
- ⑧ **[S.MW・MW]**を長く(約1秒)押すと、メモリーに書き込み、書き込んだ内容を表示してVFOモードに戻ります。



## 6 メモリーの使いかた(IC-R1500)

■メモリー(M-CH/PROGRAM-CH)への書き込みかた(つづき)

### ◇書き込み後のオートインクリメントについて

前記⑧で[S.MW・MW]を書き込み完了後も押し続ける(約1秒)と、M-CHが1CHだけ自動的に繰り上がり、VFOモードになります。

M-CHを続けて書き込みをするときに便利な機能です。

### ◇M-CHの内容をVFOに転送して使うには

使用しているM-CHの周辺に移って交信する場合などに便利な機能です。

- ① [MR・SKIP]を短く押して、メモリーモードにします。
- ② [DIAL]を回して、希望のM-CHを呼び出します。
- ③ [S.MW・MW]を長く(約1秒)押します。  
M-CHの内容をVFOに転送して、VFOモードになります。

希望のM-CHを選択する



◇ [S.MW・MW]  
を長く押す

VFOモードに転送する



### ◇M-CHの内容を他のチャンネルへ複写するには

M-CHの内容をプログラムスキャン用周波数として複写する場合に便利な機能です。

- ① [MR・SKIP]を短く押して、メモリーモードにします。  
※ 押すごとに、メモリーモードとメモリーバンク選択状態を切り替えます。
- ② [DIAL]を回して、希望のM-CHを呼び出します。
- ③ [S.MW・MW]を短く押して、セレクトメモリーライト状態にします。  
(M-CH表示部が点滅して、メモリー内容を表示します。)
- ④ [DIAL]を回して、複写したいM-CHを選びます。  
※ “VFO”を選択するとVFO、“0A/0b~49A/49b”を選択するとPROGRAM-CHに書き込みます。
- ⑤ [S.MW・MW]を長く(約1秒)押します。

○で希望のM-CHを選択



◇ [S.MW・MW]  
を短く押す

セレクトメモリーライト状態



○で転送するM-CHを選択



◇ [S.MW・MW]  
を長く押す

M-CHに書き込む



## ■ M-CHをバンクで編集する

本機のM-CHは1100CHあります。

1100CHに書き込んだM-CHの内容を21個のバンク(A、b、C、d、E、F、G、H、J、k、L、m、n、O、P、q、r、t、U、V、y)に分割して編集することができます。

各バンクには、0～999および0A～49bのすべてのM-CHを割り当てることができます。

### ◇ M-CHとバンクの使用例

M-CHの内容		バンクの内容
0 145.000MHz	A	A (バンク) 145.000MHz } 145.140MHz } 145.040MHz } 145.540MHz } 146.300MHz } 144MHz帯 を編集する
1 145.140MHz	A	
2 433.000MHz	b	
3 145.120MHz		
4 435.340MHz	A	
5 145.040MHz	b	b (バンク) 433.000MHz } 433.560MHz } 434.720MHz } 430MHz帯 を編集する
6 433.560MHz		
7 850.480MHz		
8 850.560MHz		
9 468.620MHz		
10 912.050MHz	C	C (バンク) 118.200MHz } 118.125MHz } 118.125MHz } 127.700MHz } 119.870MHz } 118MHz帯 を編集する
11 118.200MHz		
12 906.250MHz	C	
13 118.125MHz	A	
14 145.540MHz	b	
15 369.850MHz		C (バンク) 118.200MHz } 118.125MHz } 127.700MHz } 119.870MHz } 118MHz帯 を編集する
16 434.720MHz		
17 858.050MHz		
18 851.700MHz		
19 853.795MHz		
20 127.700MHz	A	C (バンク) 118.200MHz } 118.125MHz } 127.700MHz } 119.870MHz } 118MHz帯 を編集する
21 146.300MHz		
999 119.870MHz	C	

### ◇ バンクのM-CH表記について

各バンクに編集されたM-CHは、書き込んだ順に編集されます。また、各バンクで編集したバンクのチャンネル番号は表示されません。

メモリーバンクは、M-CHを整理するために使用します。編集元のM-CHを変更または更新するとメモリーバンクの内容も変更されます。

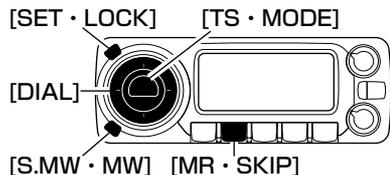
### ◇ 編集のしかた

- ① [MR・SKIP]を短く押して、メモリーモードにします。
- ② [S.MW・MW]を短く押して、セレクトメモリーライト状態にします。  
(M-CH表示部が点滅して、メモリー内容を表示します。)
- ③ [DIAL]を回して、バンクに編集するM-CHを選びます。
- ④ [TS・MODE]を短く押して、「メモリーバンクの設定」モードにします(メモリー表示部が点滅します)。
- ⑤ [DIAL]を回して、メモリーバンク(A～y、ただし、l、s、v、xを除く)を選択します。
- ⑥ [SET・LOCK]を短く押し、[DIAL]を回して、M-CHを選択します。
- ⑦ [S.MW・MW]を長く(約1秒)押すと、選択したメモリーバンクに書き込み、メモリー状態になります。

## 6 メモリーの使いかた(IC-R1500)

### ■M-CHをバンクで編集する(つづき)

#### ●メモリーバンク編集の操作



メモリーモードでM-CHを選択



↓◇ [S.MW・MW]  
を短く押す



↓ [DIAL] を短く押す



すでに編集したM-CHを選択した場合は、編集しているバンクを表示する

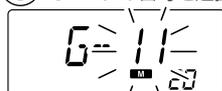
○でバンクを選択する



↓◇ [SET・LOCK]  
を短く押す



○でバンクの番号を選択する



↓◇ [S.MW・MW]  
を長く押す



SETモードを解除するとバンク“G”に編集される

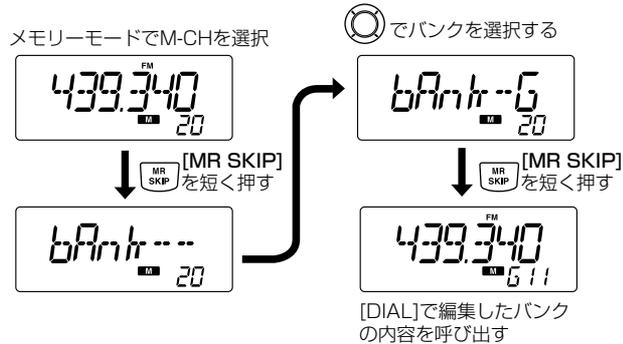
#### ◇メモリーバンクに編集した内容を確認するには

メモリーバンクを設定していないときはこの機能を使えません。お使いになる場合は、前ページを参照してM-CHをバンクで編集してください。

- ① [MR・SKIP]を短く押して、メモリーモードにします。
- ② [MR・SKIP]を短く押して、メモリーバンク選択状態にします。
- ③ [DIAL]を回して、内容を確認したいメモリーバンク(A～y、ただし、l、s、v、xを除く)を選択します。
- ④ [PWR]以外のキーを短く押すと、メモリーバンクに編集した内容呼び出します。
- ⑤ [DIAL]を回すと、バンク内のM-CHを変更できます。

※ VFOモードに戻るときは、[V/MHz・SCAN]を短く押します。

※ メモリーバンクを解除するときには、[MR・SKIP]を短く押し、[DIAL]を回して、“bAnk -”を選択して、[PWR]以外のキーを短く押します。



## ■メモリー名の使いかた

メモリーに記憶しているM-CHにアルファベット、数字、記号を使用して、6文字以内で名前(ネーム)を入れることができます。

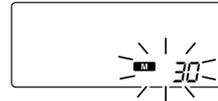
### ◇メモリー名を入力する

《例》M-CH“30”に“TRAIN”のメモリー名を入れる場合

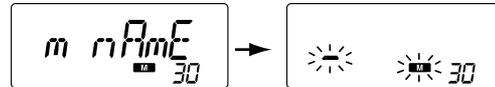
- ① [MR・SKIP]を短く押して、メモリーモードにします。
- ② [S.MW・MW]を短く押します。  
(M-CH表示部が点滅します。)



- ③ [DIAL]を回して、名前を入れたいM-CH“30”を選びます。



- ④ [TS・MODE]を2回短く押すと、メモリー名表示画面となり、ネームの1桁目と“M”表示が同時に点滅します。



※すでにネームが登録されているときはネームを表示、未登録のときはブランク表示となります。

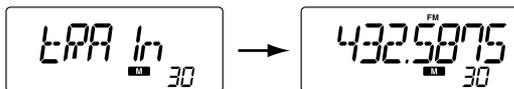
## 6 メモリーの使いかた(IC-R1500)

### ■メモリーネームの使いかた(つづき)

- ⑤ [DIAL]を回して、1桁目の文字“T”を選びます。
- ⑥ [SET・LOCK]を短く押して、文字を入れる桁を選びます。



- ⑦ 前記⑤～⑥を繰り返して、6文字以内でネームを入れます。
- ⑧ [S.MW・MW]を長く(約1秒)押すと、書き込んでメモリーモードに戻ります。



- ※ ネームを訂正したいときは、メモリーネームを入れなおしてください。  
最後に入れたネームが有効となります。

### ●文字入力一覧表

(space)	A(A)	b(B)	c(C)	d(D)	E(E)	F(F)	G(G)	H(H)	I(I)
J(J)	k(K)	L(L)	m(M)	n(N)	O(O)	P(P)	Q(Q)	R(R)	S(S)
T(T)	U(U)	V(V)	W(W)	X(X)	Y(Y)	Z(Z)	0(0)	1(1)	2(2)
3(3)	4(4)	5(5)	6(6)	7(7)	8(8)	9(9)	+(+)	-(-)	/(/)
=(=)									

### ◇メモリーネームを表示するには

メモリーネームの表示は、SETモードで設定します。

《例》M-CH“30”のメモリーネームを表示する場合

- ① [MR・SKIP]を短く押して、メモリーモードにします。
- ② [DIAL]を回して、ネームを入れたM-CH“30”を選びます。
- ③ [SET・LOCK]を短く押して、SETモードにします。  
このとき、「メモリーネームの設定」項目を表示します。
- ④ [DIAL]を回して、「Anm - On」を選択します。
  - Anm - OF : メモリーネームを表示しない。  
(初期設定)
  - Anm - On : 周波数表示部にメモリーネームを表示します。
- ⑤ [SET・LOCK]、[S.MW・MW]、[PWR]以外のボタンを短く押すと、SETモードを解除してメモリーネームを表示します。

メモリーネーム表示



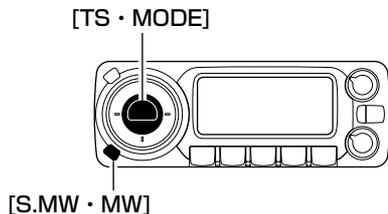
## ■メモリークリア(消去)のしかた

不要になったM-CHを消去します。

いったん消去したM-CHの内容は、元に戻せないご注意ください。

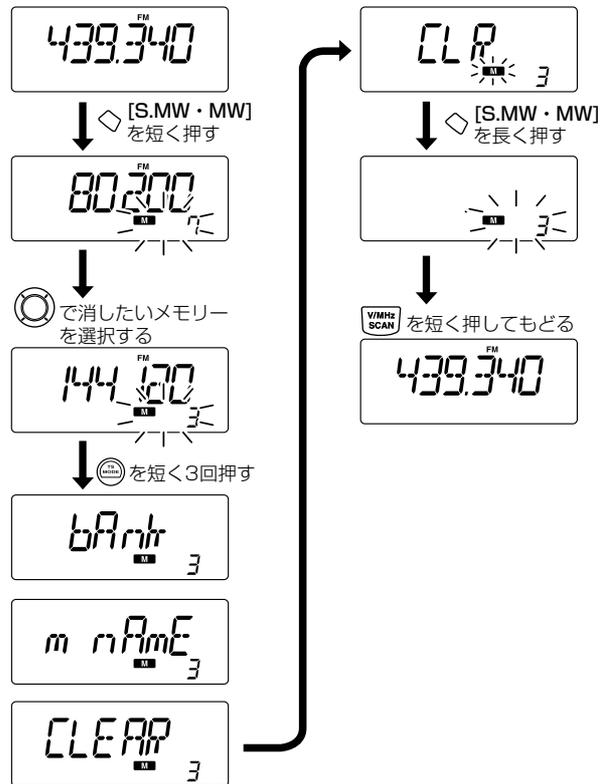
### ◇メモリーの内容を消去する

- ① [S.MW・MW]を短く押して、セレクトメモリーライト状態にします。  
(M-CH表示部が点滅します。)  
※ VFOモードまたはメモリーモードに関係なく動作します。
- ② [DIAL]を回して、消去したいM-CHを選びます。
- ③ [TS・MODE]を3回短く押すと、メモリーチャンネル削除画面となり、“CLEAR”が一瞬表示されてから“CLR”が表示されます。
- ④ [S.MW・MW]を長く(約1秒)押すと、メモリー内容を消去して、セレクトメモリーライト状態になります。
- ⑤ 消去後、[V/MHz・SCAN]を押すと、VFOモードに戻ります。



### ●メモリークリア操作

VFOモード



## ■ IC-PCR1500のスキヤンについて

スキヤンとは、周波数やメモリーチャンネル(M-CH)を自動的に切り替えて、信号の出ているところを探し出す自動選局機能です。基本となるスキヤンの種類は、プログラムスキヤン、オートメモリーライトスキヤン、メモリースキヤンの3種類です。

- 指定した周波数範囲だけを自動選局する  
プログラムスキヤン、オートメモリーライトスキヤン
- メモリーしている周波数を自動選局する  
メモリースキヤン

## ◇ スキヤン機能を使用する前に

スキヤンを開始する前に、下記の動作条件を設定していないと正常にスキヤンしません。

また、スキヤンを開始できても、信号を受信して停止しないことがあります。

- スケルチの設定
- スキヤン再スタートの設定
- スキヤンスピードの設定

## ◇ スケルチの設定

スキヤン機能进行操作する前に、[SQUELCH]ツマミ(多機能型/コンポ型レシーバー)または[SQL]ボタン(シンプル型レシーバー)を調整して、“ザー”という雑音が消える位置にセットしてください。(P41、42)

## ◇ スキヤン再スタートの条件設定

スキヤン動作が信号を受信してオートストップしたあと、スキヤンを再スタートするか終了するかを設定します。

- ① [SET] ボタンをクリックして、[Scan Delay]ダイアログボックスを表示します。
- ② [DELAY Timing]の中から再スタート条件を選択します。

### (A) : Pause until Signal Disappears

信号を受信している間は一時停止し、信号が消えてから指定時間後に再スタートします。

### (B) : Delay Volume

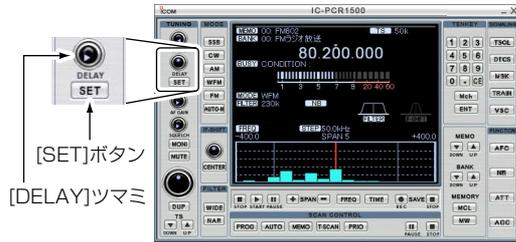
[DELAY]ツマミ(多機能型/コンポ型レシーバー)または[DELAY]スクロールバー(シンプル型レシーバー)で設定している遅延時間だけ一時停止して、再スタートする途中で信号が消えると、指定時間後に再スタートします。

### (C) : Scan Stop

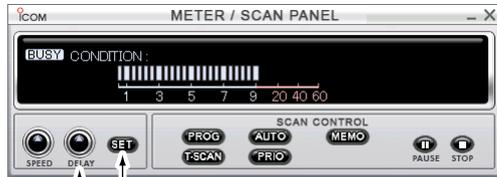
停止後、スキヤン動作を終了します。

※再スタート条件(A)または(B)を選択したときは、スキヤンを再スタートするまでの遅延時間を[Restart Delay]の3段階の中から選択できます。

●多機能型レシーバー



●コンポ型レシーバー



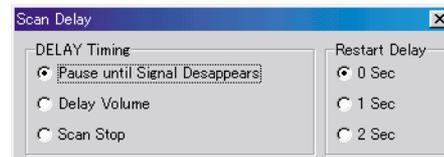
[SET]ボタンをクリックすると、Scan Delay設定項目を表示する

## ■スキャン再スタートの遅延時間

前項「スキャン再スタート条件の設定」の(A)または(B)を設定しているときに、信号を受信してスキャンが一時停止したあと、スキャンを再スタートするまでの遅延時間を設定できます。

- ① 前のページを参照して「Scan Delay」ダイアログボックスを表示します。
- ② [Restart Delay]の中から再スタートまでの間隔を選択します。
  - (a) : 0 Sec. 信号が消えるとすぐに再スタートする
  - (b) : 1 Sec. 信号が消えてから約1秒後に再スタートする
  - (c) : 2 Sec. 信号が消えてから約2秒後に再スタートする
- ③ クローズボタン([X])をクリックして、「Scan Delay」ダイアログボックスを閉じます。

● Scan Delayダイアログボックス



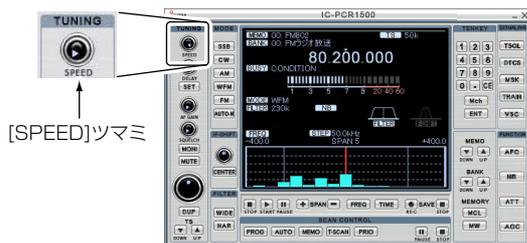
## 7 スキャンのしかた(IC-PCR1500多機能型/コンボ型のみ)

### ■ スキャンスピードの設定

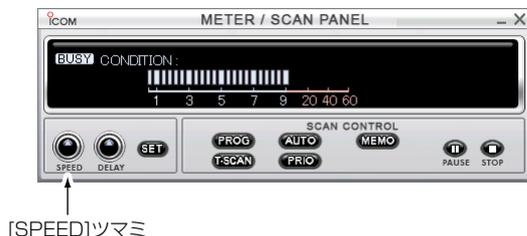
スキャンスピードをお好みのスピードに設定できます。

[SPEED]ツマミにマウскарソルを合わせ、マウスの右(補助)ボタンをクリックするとスキャンスピードが速くなり、左(主)ボタンをクリックするとスキャンスピードが遅くなります。

- 多機能型レシーバー



- コンボ型レシーバー



### ■ プログラムスキャンについて

プログラムスキャンは、[Program Scan]ダイアログボックスのプログラムリストにあらかじめ設定している周波数範囲をスキャンします。

PROGRAM-CHの設定は50件まで登録できます。

#### ◇ プログラムスキャン機能を使用する前に

- ① [PROG]ボタンを右クリックして、[Program Scan]ダイアログボックスを表示します。
- ② [Program Scan]タグをクリックし、プログラムリストを表示します。
- ③ 追加したいリストの[Name]、[Freq Low]、[Freq High]表示欄のいずれかをクリックし、名前または周波数をキーボードから入力して、キーボードの[Enter]キーを押すと他の表示欄も自動的にデータを表示します。

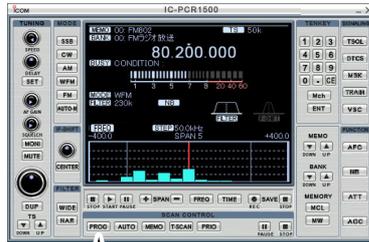
※この欄を入力しないと、他の表示欄は設定できません。

※[Freq Low]と[Freq High]に同じ周波数を設定すると、プログラムスキャンが動作しません。

- ④ 自動的に設定された名前または周波数を訂正するときは、[Name]、[Freq Low]、[Freq High]表示欄をクリックして、キーボードからメモリー名前または周波数を入力して、キーボード[Enter]キーを押します。
- ⑤ アッテネーター(ATT)の[ON/OFF]を切り替えるときは、リストの[ATT]表示欄をダブルクリックすると、それぞれの設定メニューを表示します。

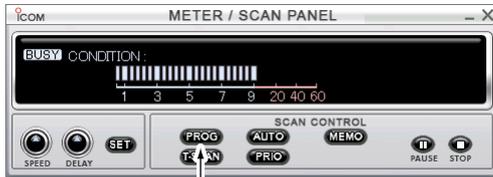
## スキャンのしかた(IC-PCR1500多機能型/コンポ型のみ) 7

### ● 多機能型レシーバー



[PROG]ボタン

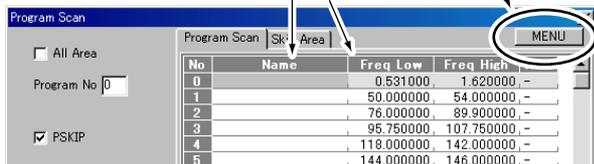
### ● コンポ型レシーバー



[PROG]ボタン

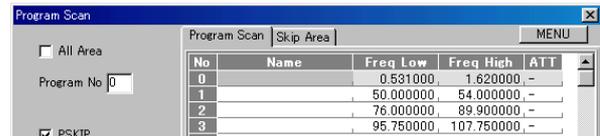
CSVファイルからの取り込み、  
CSVファイルへの書き出しができます。

ここを入力



- ⑥ 設定メニューの中から訂正する設定値を選択して、ダブルクリックします。  
または、訂正する設定値を選択し、キーボードの[Enter]キーを押します。
- ⑦ 削除するときは、削除するリストのいずれかの項目([Name]、[Freq Low]、[Freq High]、[ATT]のどれか)にマウスマウスカーソルを合わせてクリックし、キーボードの[Delete]キーを押してキーボードの[Enter]キーを押します。
- ⑧ 他の表示欄を追加/訂正してクローズボタン([×])をクリックすると、PROGRAM-CHのリストを閉じます。

※[MENU]をボタンをクリックすると、「プログラムスキャンエッジ」、「スキップエリア」のデータをCSVファイルから取り込み、CSVファイルへの書き出しができます。



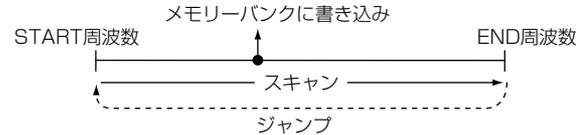
マウスポインターを合わせてクリックしキーボードから入力する

マウスポインターを合わせてダブルクリックし、設定メニューから選択する



## ■オートメモリーライトスキヤンについて

プログラムリストで設定した周波数範囲をスキヤン中、信号を受信するたびにその周波数、モードなどの情報を自動的に指定したメモリーバンクに書き込みます



- ① [AUTO]ボタンを右クリックして、「AutoMW Scan」ダイアログボックスを表示します。
- ② [Program Scan]タグをクリックして、リストの[Name]、[Freq Low]、[Freq High]表示欄のいずれかをクリックし、ネームまたは周波数をキーボードから入力します。  
※アッテネーターの“ON/OFF”も設定できます。  
[BANK]コンボボックスの中からメモリーするバンクを選択します。  
※指定バンクのチャンネルに空きがないとき、スキヤンを開始しません。その場合、次のいずれかの処置をしてください。  
○他のメモリーバンクを選択する  
○[AutoMW Scan]ダイアログボックス内の[All Clear]ボタンをクリックして、データをすべて消去する  
○不要なメモリーチャンネルだけを呼び出して消去する
- ③ 自動選局したいPROGRAM-CHの“**No**”欄にマウスカーソルを合わせてクリックし、**クローズボタン**([X])をクリックして、「AutoMW Scan」ダイアログボックスを閉じます。

[PROG]ボタンを右クリックすると、Program Scanダイアログボックスを表示する



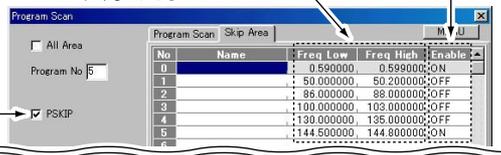
[SET]ボタンをクリックすると、Scan Delayを表示する



チェックを入れるとメモリーリストの「SKIP設定」でPSKIP、SKIP設定したときに、スキヤン時にそのチャンネルをスキップします。

スキップの有効/無効を設定します。

プログラムスキヤンのスキップ区間を入力します。



## 7 スキャンのしかた(IC-PCR1500多機能型/コンポ型のみ)

### ■オートメモリーライトスキャンについて (つづき)

- ④ **[Auto]** ボタンをクリックすると、オートメモリーライトスキャンを開始します。

※スキャン中は表示部に“**AUTO**”が表示されます。

※指定バンクのチャンネルに空きがなくなると、オートメモリーライトスキャンは自動的に終了します。

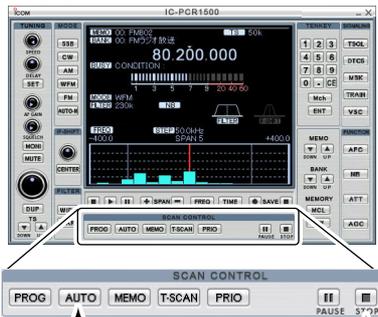
※スキャンを一時停止するときは、**[PAUSE]** ボタンをクリックします。

- ⑤ 終了するときは**[STOP]** ボタンまたは**[PROG]**～**[PRIO]**のいずれかのボタンをクリックします。

※スキャン終了後に**[メインダイヤル]**などで周波数を変えたあとで、もう一度スキャンを開始すると、指定した周波数範囲のスタート周波数からスキャンを開始します。

周波数を変えていないときは、停止した周波数からスキャンを開始します。

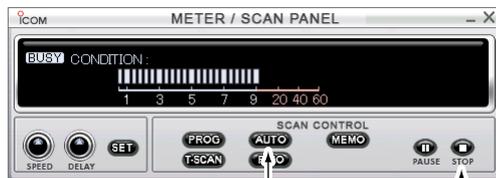
### ●多機能型レシーバー



[AUTO]ボタン

[STOP]ボタン

### ●コンポ型レシーバー



[AUTO]ボタン

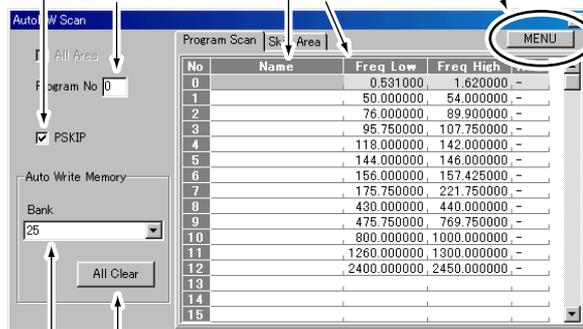
[STOP]ボタン

PSKIPを“ON”に  
します。

CSVファイルからの取り込み、  
CSVファイルへの書き出しができます。

スキャンする番号  
を入力します

ここを入力



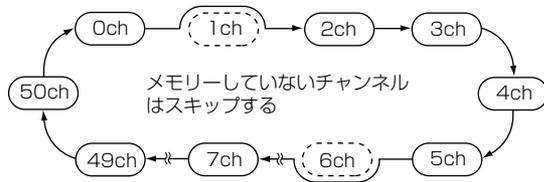
設定先のメモリーバンクの内容を  
オールクリアします。

メモリーするバンク番号を入力します。

## ■メモリスキャンについて

選択中のメモリーバンクにメモリーしているすべてのメモリーチャンネルを自動選局します。

「Memory Scan」ダイアログボックスで自動選局の各種条件を設定できます。(P85)

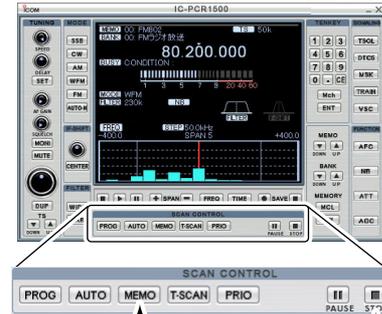


- ① [MEMO]ボタンを右クリックして、「Memory Scan」ダイアログボックスを表示します。
- ② 「Current Bank(現在のバンク対象)」、「Select Bank(選択したバンクを対象)」、「All Bank(すべてのバンクを対象)」からバンクを選択します。  
Current Bank、Select Bankを選択したときは、対象となるバンクのバンクリストをダブルクリックして、[Sel]欄でONを選択してください。
- ③ 必要に応じてオプション機能を選択します。(P85)
- ④ クローズボタン([×])をクリックして、「Memory Scan」ダイアログボックスを閉じます。
- ⑤ [MEMO]ボタンをクリックすると、メモリスキャンを開始します。  
※スキャン中は表示部に“MEMO”が表示されます。  
※スキャンを一時停止するときは、[PAUSE]ボタンをクリックします。

- ⑥ 終了するときには[STOP]ボタンまたは[PROG]～[PRIO]のいずれかのボタンをクリックします。

△ご注意：メモリスキャンを動作させるには、メモリーチャンネルに2チャンネル以上書き込んでください。

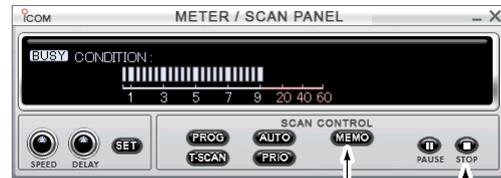
### ●多機能型レシーバー



[MEMO]ボタン

[STOP]ボタン

### ●コンポ型レシーバー

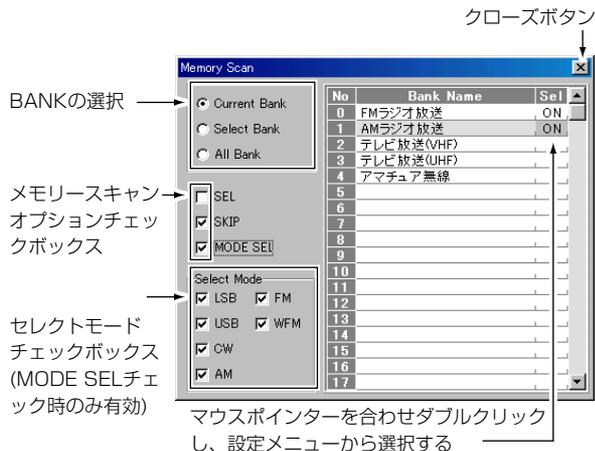


[MEMO]ボタン

[STOP]ボタン

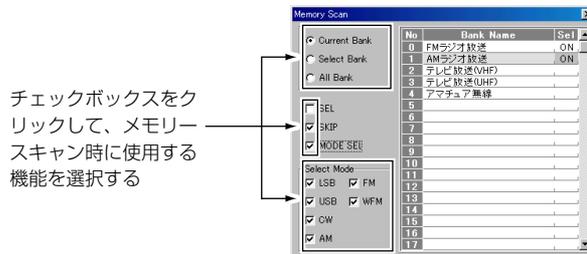
## 7 スキャンのしかた(IC-PCR1500多機能型/コンポ型のみ)

### ■メモリスキャンについて (つづき)



### ■オプション機能によるメモリスキャン時の各種自動選局について

選択中のメモリスキャン時にオプション機能を選択することで、3種類の自動選局ができます。

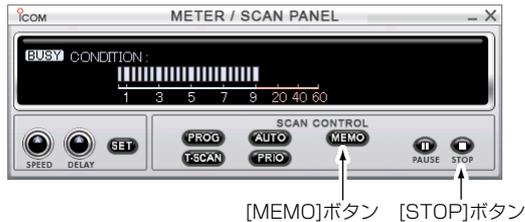


- ① [MEMO] ボタンを右クリックして、[Memory Scan] ダイアログボックスを表示します。
- ② メモリスキャン時のオプション機能にチェックマークを付けます。  
各種機能の条件を設定すれば、メモリスキャン操作時に指定した条件を満たすメモリーチャンネルだけを自動選局します。
- ③ クローズボタン([X])をクリックして、[Memory Scan] ダイアログボックスを閉じます。
- ④ [MEMO] ボタンをクリックすると、メモリスキャンを開始します。  
※スキャン中は表示部に“MEMO”が表示されます。
- ⑤ 終了するときは[STOP] ボタンまたは[PROG]～[PRIO]のいずれかのボタンをクリックします。

## ●多機能型レシーバー

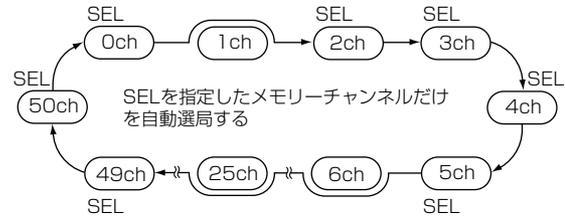


## ●コンポ型レシーバー



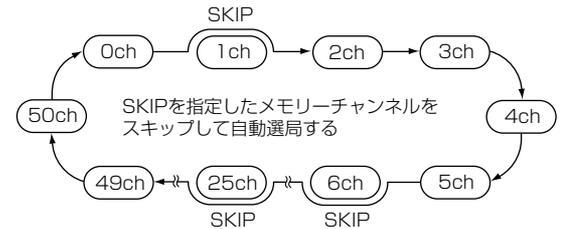
## ●セレクトメモリスキャン

[SEL]チェックボックスをクリックして、メモリスキャンをスタートすると、SEL(セレクト)指定したメモリーチャンネルだけを自動選局します。



## ●メモリスキップスキャン

[SKIP]チェックボックスをクリックして、メモリスキャンをスタートすると、SKIP(スキップ)指定したメモリーチャンネルを自動選局の対象からはずして(スキップして)自動選局します。



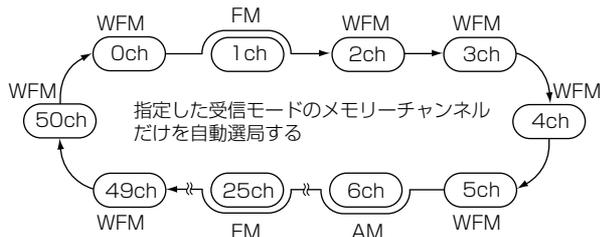
## 7 スキャンのしかた(IC-PCR1500多機能型/コンボ型のみ)

■ オプション機能によるメモリスキャン時の各種自動選局について (つづき)

### ● セレクトモードスキャン

[MODE SEL]チェックボックスをクリックして、[Select Mode]のLSB、USB、CW、AM、FM、WFMのチェックボックスで受信モードを選択します。

メモリスキャンがスタートすると、[Select Mode]チェックボックスで指定した受信モードのメモリーチャンネルだけを自動選局します。



### 【バンク設定について】

#### ● Current Bank

現在選択されているバンクが、メモリスキャンの対象になります。

#### ● Select Bank

[Memory Scan]ダイアログボックスで選択されたバンクが、メモリスキャンの対象になります。

#### ● All Banks

すべてのバンクが、メモリスキャンの対象になります。

### △ご注意

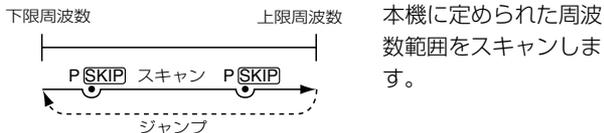
- [SEL]および[SKIP]の指定は、メモリーチャンネルエディター上で指定します。(P61)
- セレクト指定する条件のメモリー内容が、2件以上メモリーしていないと動作しません。
- すべてのオプション機能を組み合わせても、ご使用になれません。

## ■ IC-R1500のスキヤンについて

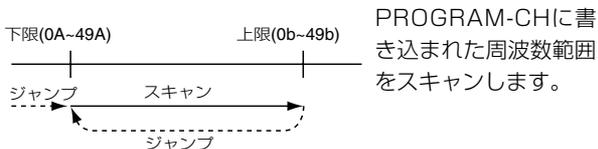
スキヤンとは、周波数やM-CHを自動的に切り替えて、信号の出ているところを探し出す機能です。

### VFOモードのスキヤン

#### ● フルススキヤンの動作(☞P90)

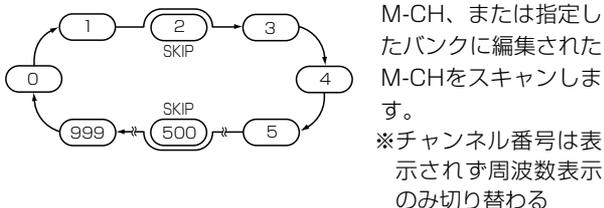


#### ● プログラムスキヤンの動作(☞P90)



### メモリーモードのスキヤン

#### ● メモリー/バンクスキヤンの動作(☞P91)



### ◇ スケルチの調整

通常は雑音が消え“BUSY”表示が消灯する位置にセットしておきます。

スキヤン動作中でも、スケルチの調整ができます。

### ◇ スキヤン中の[DIAL]ツマミについて

- スキヤン中に[DIAL]を回すと、回した方向でアップスキヤンとダウンスキヤンを切り替えます。
- 信号を受信してスキヤンを一時停止しているときに、[DIAL]を回すと即時再スタートします。

### ◇ スキヤン中のステップについて

スキヤン中に周波数を切り替えるステップ幅は、あらかじめ各バンドごとに設定しているチューニングステップ(☞P49)で動作します。

### ◇ スキップ機能について

すべてのスキヤンでスキップ(必要のないM-CHをスキヤンから除外する)指定ができます。

スキップの設定については89ページを参照してください。

### ◇ 受信モード(電波型式)について

受信モードもVFOモードで設定している電波型式で動作します。

## 7 スキャンのしかた(IC-R1500)

### ■ IC-R1500のスキャンについて (つづき)

#### ◇ 信号を受信すると

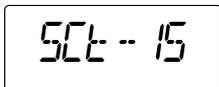
スキャン中に信号を受信すると、その周波数で約15秒(初期設定)間停止して受信します。

約15秒経過すると、自動的に再スタートします。

#### ◇ 再スタートの条件設定

再スタートの条件は、SETモードで変更できます。

- ① [SET・LOCK]を短く押して、SETモードを表示します。
- ② [SET・LOCK]または[S.MW・MW]を短く押して、「スキャンストップタイマーの設定」項目を選択します。



- ③ [DIAL]を回して、再スタートの条件を選択します。
  - Sct-5 : 一時停止してから5秒後に再スタートします。
  - Sct-10 : 一時停止してから10秒後に再スタートします。
  - Sct-15 : 一時停止してから15秒後に再スタートします。  
(初期設定値)
  - SCP-2 : 信号を受信しているあいだは一時停止し、信号が無くなると約2秒後に再スタートします。
- ④ [SET・LOCK]、[S.MW・MW]、[PWR]以外のボタンを短く押すと、SETモードを解除して周波数表示に戻ります。

#### ◇ スキップチャンネルの指定と解除のしかた

- ① [MR・SKIP]を短く押して、メモリーモードにします。
  - ② [MR・SKIP]を長く(約1秒)押すごとに、スキップ機能が切り替わります。
    - [SKIP]、P [SKIP]点灯していないとき、メモリーチャンネルのスキップ機能を解除します。(初期設定値)
    - [SKIP]、P [SKIP]点灯しているとき、スキップ機能を“ON”にします。
- ※ [SKIP]/P [SKIP]表示が点灯、メモリースキャン時、指定したM-CHをスキップします。
- なお、P [SKIP]表示が点灯時は、VFOスキャン時にその周波数をスキップします。
- ③ [SET・LOCK]、[S.MW・MW]、[PWR]以外のボタンを短く押すと、SETモードを解除して周波数表示に戻ります。



↑  
スキップ表示

## ■VFOスキヤンのしかた

### ◇VFOスキヤン/プログラムスキヤンの操作

- フルススキヤンは、本機に定められた周波数範囲をスキヤンします。

(周波数範囲については149ページを参照してください。)

- プログラムスキヤンは、次の周波数範囲をスキヤンします。

- ① **[V/MHz・SCAN]**を短く押して、VFOモードにします。
- ② **[V/MHz・SCAN]**を長く(約1秒)押すと、VFOスキヤンを開始します。

(メモリー表示部にスキヤンガイダンス表示が点滅します。)

※スキヤン中に**[TS・MODE]**または**[SET・LOCK]**を短く押すと、VFOスキヤン、プログラムスキヤンを切り替えることができます。

**[TS・MODE]**を押すごとに、**ALL→P00→P01→・・・→P48→P49→ALL→P00→・・・**の順に切り替わります。

**[SET・LOCK]**を押すごとに、**ALL→P49→P48→・・・→P01→P00→ALL→P49→・・・**の順に切り替わります。

### 【ご参考】

※**[V/MHz・SCAN]**を押しながら、**[DIAL]**を回しても、VFOスキヤン、プログラムスキヤンを切り替えることができます。

**[V/MHz・SCAN]**を離すとスキヤンがスタートします。

### メモリー表示部のスキヤンガイダンスの表示内容について

- **ALL** : フルススキヤン動作となります。
  - **P00** : 0A/0bに設定された周波数範囲をスキヤンします。
  - **P01** : 1A/1bに設定された周波数範囲をスキヤンします。
  - **P02** : 2A/2bに設定された周波数範囲をスキヤンします。
  - **P03** : 3A/3bに設定された周波数範囲をスキヤンします。
  - **P04** : 4A/4bに設定された周波数範囲をスキヤンします。
  - **P46** : 46A/46bに設定された周波数範囲をスキヤンします。
  - **P47** : 47A/47bに設定された周波数範囲をスキヤンします。
  - **P48** : 48A/48bに設定された周波数範囲をスキヤンします。
  - **P49** : 49A/49bに設定された周波数範囲をスキヤンします。
- ③再度、**[V/MHz・SCAN]**を短く押すと、VFOスキヤン、プログラムスキヤンを解除します。

#### △ご注意

A、bチャンネルに同じ周波数を入力した場合(例：0Aと0bに438.500MHzなど)、プログラムスキヤンが動作しませんのでご注意ください。

フルスキヤンの表示



プログラムスキヤンの表示



## 7 スキャンのしかた(IC-R1500)

### ■メモリスキャンのしかた

#### ◇メモリスキャンの操作

メモリスキャンは、周波数を記憶しているM-CHを順次切り替えて、信号を探し出すスキャンです。

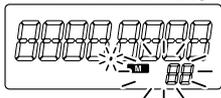
スキップチャンネルに指定したM-CH(**SKIP**が点灯)は、スキャンスタート操作をしたとき、そのM-CHをスキップしてスキャンします。

※ PROGRAM-CHはスキャンしません。

※ 2CH以上の書き込みが必要です。

- ① **[MR・SKIP]**を短く押して、メモリーモードにします。
- ② **[V/MHz・SCAN]**を長く(約1秒)押すと、メモリスキャンを開始します。
- ③ 再度、**[V/MHz・SCAN]**を短く押すと、メモリスキャンを解除します。

メモリスキャンの表示



### ■メモリーバンクスキャンのしかた

#### ◇メモリーバンクスキャンの操作

指定したバンクに編集されたM-CH(周波数)をスキャンします。

※ バンクに編集したチャンネル番号は表示されません。

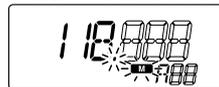
※ SETモードでメモリーバンクのリンク機能(☞ P140)が設定されている場合は、リンクしているバンクもスキャンします。

※ スキップが指定されたM-CH(周波数)はスキップしてスキャンします。

※ PROGRAM-CHはスキャンしません。

- ① **[MR・SKIP]**を短く押して、メモリーモードにします。
- ② **[MR・SKIP]**を短く押して、メモリーバンク選択状態にします。(メモリー表示部が点滅します。)※ 選択したM-CHをすでに編集している場合は、編集しているバンクを表示します。
- ③ **[DIAL]**を回して、メモリーバンク(A~y、ただし、l、s、v、xを除く)を選択します。
- ④ **[PWR]**以外のキーを短く押して、バンクを設定します。
- ⑤ **[V/MHz・SCAN]**を長く(約1秒)押すと、選択したバンクスキャンを開始します。
- ⑥ **[V/MHz・SCAN]**を短く押すと、バンクスキャンを解除します。

メモリーバンクスキャンの表示



# プライオリティスキャンの操作(多機能型/コンポ型のみ)(IC-R1500)

## ■ IC-PCR1500のプライオリティスキャンについて(多機能型/コンポ型のみ)

プライオリティスキャンは、通常の受信をしながら特定周波数の信号の有無を受信(監視)するためのスキャンです。

受信する周波数/M-CHは、「特定チャンネルのワッチ間隔設定」ごとに1回(Priority Intervalに設定した秒数以内)受信し、信号を受信すると他のスキャンと同様に一時停止します。

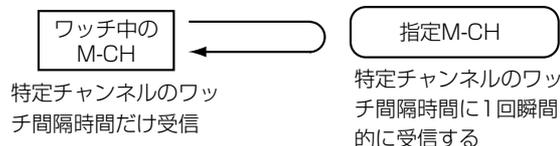
受信する周波数/M-CHをプライオリティCH(チャンネル)といいます。

※一時停止の時間および再スタートの条件は、他のスキャンと同じです。(☞P77)

種 類	動 作
現在のM-CHともう一方のM-CH	現在のM-CHを約5秒間受信しながら、指定のM-CHの信号を受信(監視)します。

### ◇ M-CHを受信中にもう一方のM-CHをプライオリティスキャンで受信する

- ① **[メインダイヤル]**またはテンキーからVFO受信周波数を設定します。
- ② **[PRIO]**ボタンを右クリックして、「**Priority Scan**」ダイアログボックスを表示します。
- ③ **[Scan Channel]**内の**[Bank]**(プライオリティスキャンのバンク)、**[Ch]**(メモリーチャンネル)、**[Priority Interval]**(特定チャンネルのワッチ間隔設定)を入力します。  
※**[CHECK]**ボタンをクリックすると、そのチャンネルをモニターします。
- ④ **[Priority Scan]**ダイアログボックスの**クローズボタン**([×])をクリックして、「**Priority Scan**」ダイアログボックスを閉じます。
- ⑤ **[PRIO]**ボタンをクリックすると、プライオリティスキャンを開始します。  
※スキャン中は表示部に“**PRIO**”が表示されます。  
※スキャンを一時停止するときは、**[PAUSE]**ボタンをクリックします。
- ⑥ 終了するときは**[STOP]**ボタンまたは**[PROG]~[PRIO]**のいずれかのボタンをクリックします。



## 8 プライオリティスキャンの操作(IC-PCR1500多機能型/コンポ型のみ)

### ■ IC-PCR1500のプライオリティスキャンについて (つづき)

#### ● 多機能型レシーバー

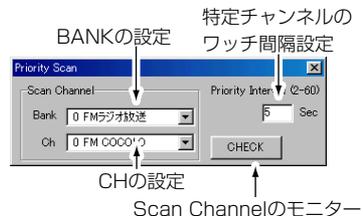


#### ● 多機能型レシーバー



#### ● コンポ型レシーバー

#### ● コンポ型レシーバー



## ■ IC-R1500のプライオリティスキャンについて

プライオリティスキャンは、通常の受信をしながら特定周波数の信号の有無を知るためのスキャンです。

プライオリティスキャンには、下記の種類があります。

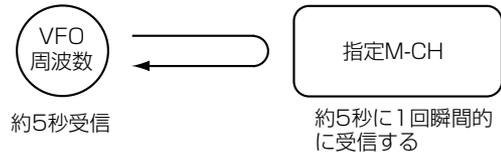
- 受信する周波数/M-CHは、約5秒ごとに1回(0.5秒以内)受信し、信号を受信すると他のスキャンと同様に一時停止します。受信する周波数/M-CHを、プライオリティCH(チャンネル)といいます。

※ 一時停止の時間および再スタートの条件は、他のスキャンと同じです。(P89)

種 類	動 作
VFO周波数とM-CH	VFO周波数を約5秒間受信しながら、指定のM-CHの信号の有無を受信(監視)します。
VFO周波数とメモリスキャン	VFO周波数を約5秒間受信しながら、スキャン中のM-CHを順次受信(監視)します。
VFO周波数とメモリーバンク	VFO周波数を約5秒間受信(ワッチ)しながら、指定のメモリーバンクに編集したM-CHの周波数を受信(監視)します。

### ◇ VFO周波数を受信中にM-CHを受信する

- ① VFOモードで周波数を設定します。(P47)
- ② メモリーモードで受信するM-CHを指定します。(P68)
- ③ [ATT・PRIO]を長く(約1秒)押すと、プライオリティスキャンを開始します。  
(プライオリティスキャン中は“PRIO”表示が点灯します。)
- ④ 再度、[ATT・PRIO]を長く(約1秒)押すと、プライオリティスキャンを解除します。

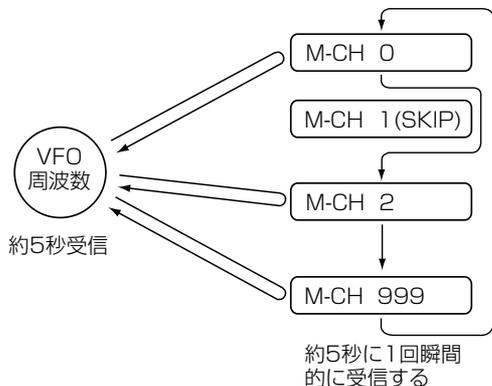


## 8 プライオリティスキャンの操作(IC-R1500)

### ■ IC-R1500のプライオリティスキャンについて(つづき)

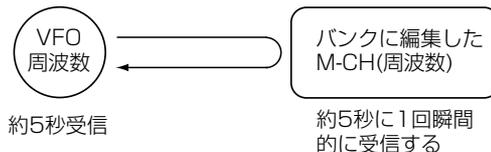
#### ◇ VFO周波数を受信中にM-CHを順次受信する

- ① VFOモードで周波数を設定します。(☞ P47)
- ② メモリーモードを指定します。(☞ P68)
- ③ **[V/MHz・SCAN]**スイッチを長く(約1秒)押し、メモリスキャンをスタートさせます。
- ④ **[ATT・PRIO]**スイッチを長く(約1秒)押しと、プライオリティスキャンを開始します。  
(プライオリティスキャン中は“**PRIO**”表示が点灯します。)
- ⑤ 再度、**[ATT・PRIO]**を長く(約1秒)押しと、プライオリティスキャンを解除します。



#### ◇ VFO周波数を受信中にメモリーバンクに編集したM-CH(周波数表示のみ)を受信する

- ① VFOモードで周波数を設定します。(☞ P47)
- ② **[MR・SKIP]**を短く押し、メモリーモードにします。
- ③ **[MR・SKIP]**を短く押し、メモリーバンク選択状態にします。(メモリー表示部が点滅します。)
- ④ **[DIAL]**を回して、メモリーバンク(A~y、ただし、l、s、v、xを除く)を選択します。
- ⑤ **[PWR]**以外のキーを短く押し、バンクを設定します。
- ⑥ **[DIAL]**を回して、バンクに編集した周波数を選択します。
- ⑦ **[ATT・PRIO]**スイッチを長く(約1秒)押しと、プライオリティスキャンを開始します。  
(プライオリティスキャン中は“**PRIO**”表示が点灯します。)
- ⑧ 再度、**[ATT・PRIO]**を長く(約1秒)押しと、プライオリティスキャンを解除します。



## ■ トーンスケルチ機能の使いかた

### ◇ トーンスケルチ機能とは

特定の相手局の信号を受信するときに便利な機能です。設定したトーン周波数またはDTCSコードを受信したときだけ、スケルチが開くので、快適な待ち受け受信ができます。

### ◇ ポケットビープ機能とは

トーンスケルチ機能での待ち受け受信、呼び出しを受けたらビープ音で知らせてくれる便利な機能です。呼び出しを受けると、ビープ音“ピロピロピロ”が30秒間鳴り続けるとともに、ディスプレイの“(●)”を点滅して知らせてくれるので、聞き逃すことはありません。

### ◇ トーンスケルチ周波数、トーンスケルチ機能を設定する

#### ● [多機能型/コンポ型]のみ

- ① [FM] ボタンをクリックして、FMモードに設定します。
- ② [TSQL] ボタンをクリックして、トーンスケルチ機能を“ON”にします。  
※表示部に“TSQL”が表示します。  
※もう一度[TSQL]ボタンをクリックすると、トーンスケルチ機能が“OFF”になります。
- ③ [TSQL] ボタンを右クリックすると、[TSQL]ダイアログボックスを表示し、次の機能が設定できます。

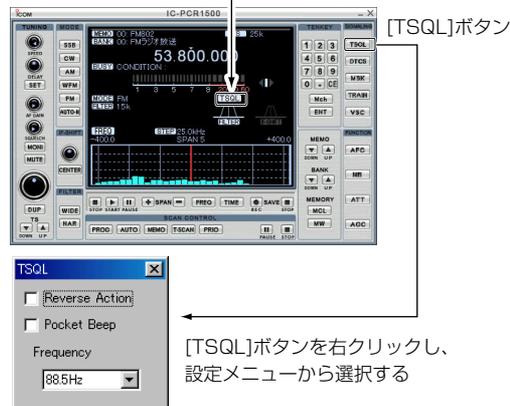
- **Reverse Action** : 設定したトーン周波数を受信したときだけ、スケルチが閉じる。
- **Pocket Beep** : ポケットビープ機能
- **Frequency** : トーン周波数の設定

- ④ [TSQL]ダイアログボックスのクローズボタン([X])をクリックして、ダイアログボックスを閉じます。

### ● トーンスケルチ機能動作時の表示

- TSQL : トーンスケルチ機能が動作します。
- TSQL R : 位相反転機能によるトーンスケルチ機能が動作します。
- TSQL (●) : トーンスケルチによるポケットビープ機能が動作します。

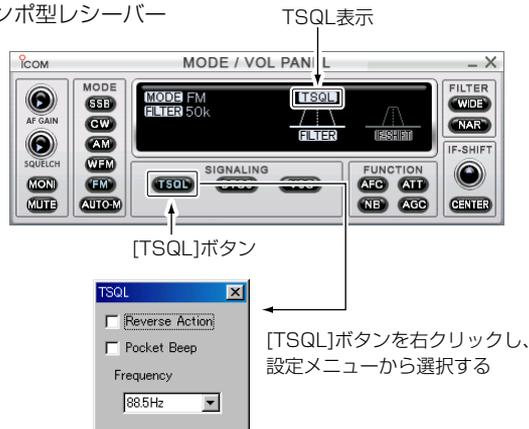
### ● 多機能型レシーバー TSQL表示



## 9 トーン機能/DTCS機能について

### ■ トーンスケルチ機能の使いかた (つづき)

#### ● コンポ型レシーバー



#### ● トーン周波数一覧表

単位: Hz

67.0	82.5	103.5	131.8	162.2	183.5	206.5	250.3
69.3	85.4	107.2	136.5	165.5	186.2	210.7	254.1
71.0	88.5	110.9	141.3	167.9	189.9	218.1	
71.9	91.5	114.8	146.2	171.3	192.8	225.7	
74.4	94.8	118.8	151.4	173.8	196.6	229.1	
77.0	97.4	123.0	156.7	177.3	199.5	233.6	
79.7	100.0	127.3	159.8	179.9	203.5	241.8	

### ◇ コントローラーによるCTCSS トーン/CTCSS トーン周波数の設定(IC-R1500)

CTCSS トーン周波数は、SETモードで設定できます。

- ① [SET・LOCK]を短く押して、SETモードを表示します。
- ② [SET・LOCK]または[S.MW・MW]を短く押して、「トーンスケルチ用トーン周波数の設定」項目を選択します。



● 88.5Hz  
(初期設定値)

- ③ [DIAL]を回して、トーン周波数を選択します。
- ④ [SET・LOCK]、[S.MW・MW]、[PWR]以外のボタンを短く押すと、SETモードを解除します。
- ⑤ [MONI・T/T-SCAN]を長く(約1秒)押して、トーン機能/DTCS機能設定モードにします。
- ⑥ [DIAL]を回して、下記からCTCSS トーン機能を設定します。
  - “tSq L”(CTCSS トーン：表示部に“▶”が点灯)
  - “tSq L”(CTCSS トーンによるポケットビープ：表示部に“(●) ▶”が点灯)
  - “tSq L-r”(CTCSS トーンリバースアクション：表示部に“▶”が点灯)
- ⑦ [SET・LOCK]、[S.MW・MW]、[PWR]以外のボタンを短く押すと、トーン機能/DTCS機能設定モードを解除します。



## ◇ DTCS機能とは

特定のコードを含んだ信号を受信するのに便利な機能です。  
 自局が設定したコード周波数(初期設定値：023-NN)と同じコードで受信したときだけ、スケルチが開き受信できます。

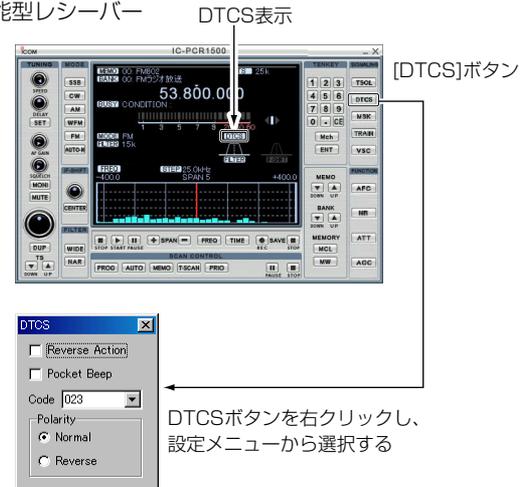
## ◇ DTCSコード、DTCS機能を設定する

- [多機能型/コンポ型]のみ
- ① [FM] ボタンをクリックして、FMモードに設定します。
- ② [DTCS] ボタンをクリックして、DTCS機能を“ON”にします。  
 ※表示部に“DTCS”が表示します。  
 ※もう一度[DTCS]ボタンをクリックすると、DTCS機能が“OFF”になります。
- ③ [DTCS] ボタンを右クリックすると、[DTCS]ダイアログボックスを表示し、次の機能が設定できます。
  - Reverse Action : 設定したコードを受信したときだけ、スケルチが閉じる。
  - Pocket Beep : ポケットビープ機能
  - Code : トーン周波数の設定
  - Polarity : DTCS極性反転機能
- ④ [DTCS]ダイアログボックスのクローズボタン([×])をクリックして、ダイアログボックスを閉じます。

## ●DTCS機能動作時の表示

- DTCS : DTCS機能が動作します。
- DTCS R : Reverse Actionが“ON”のDTCS機能が動作します。
- DTCS (⊙) : DTCSによるポケットビープ機能が動作します。

## ●多機能型レシーバー



## 9 トーン機能/DTCS機能について

### ■ トーンスケルチ機能の使いかた (つづき)

- コンポ型レシーバー



### ● コード一覧表

023	065	132	205	255	331	413	465	612	731
025	071	134	212	261	332	423	466	624	732
026	072	143	223	263	343	431	503	627	734
031	073	145	225	265	346	432	506	631	743
032	074	152	226	266	351	445	516	632	754
036	114	155	243	271	356	446	523	654	
043	115	156	244	274	364	452	526	662	
047	116	162	245	306	365	454	532	664	
051	122	165	246	311	371	455	546	703	
053	125	172	251	315	411	462	565	712	
054	131	174	252	325	412	464	606	723	

### ◇ コントローラーによるDTCS/DTCSコードの設定 (IC-R1500)

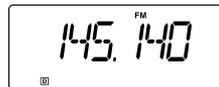
DTCSコードは、SETモードで設定できます。

- ① [SET・LOCK]を短く押して、SETモードを表示します。
- ② [SET・LOCK]または[S.MW・MW]を短く押して、「DTCSコードの設定」項目を選択します。



- 023 (初期設定値)

- ③ [DIAL]を回して、DTCSコードを選択します。
- ④ [SET・LOCK]、[S.MW・MW]、[PWR]以外のボタンを短く押すと、SETモードを解除します。
- ⑤ [MONI・T/T-SCAN]を長く(約1秒)押して、トーン機能/DTCS機能設定モードにします。
- ⑥ [DIAL]を回して、下記からDTCSトーン機能を設定します。
  - “dtCS”(DTCS：表示部に“@”が点灯)
  - “dtCS”(DTCSによるポケットビープ：表示部に“@((●))”が点灯)
  - “dtCS-r”(DTCSリバースアクション：表示部に“@”が点灯)
- ⑦ [SET・LOCK]、[S.MW・MW]、[PWR]以外のボタンを短く押すと、トーン機能/DTCS機能設定モードを解除します。



## ■ DTCS極性反転機能について

受信する相手局に合わせて、DTCSコードの極性を設定できます。

DTCS極性反転機能は、「[DTCS]」ダイアログボックスで変更できます。

### ● [多機能型/コンポ型]のみ

- ① [FM] ボタンをクリックして、FMモードに設定します。
- ② [DTCS] ボタンをクリックして、DTCS機能を“ON”にします。  
※表示部に“DTCS”が表示します。
- ③ [DTCS] ボタンを右クリックすると、[DTCS]ダイアログボックスを表示し、[Polarity]を下記の中から選択してクリックします。

(初期設定値：Normal)

- Normal : 反転しない
- Reverse : 反転する

- ④ [DTCS]ダイアログボックスのクローズボタン([X])をクリックして、ダイアログボックスを閉じます。

※もう一度[DTCS]ボタンをクリックすると、DTCS機能が“OFF”になります。



DTCSボタンを右クリックし、設定メニューから選択する

### ● 多機能型レシーバー



### ● コンポ型レシーバー



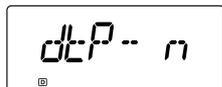
## 9 トーン機能/DTCS機能について

### ■ DTCS極性反転機能について (つづき)

#### ◇ コントローラーによるDTCS位相反転機能について (IC-R1500)

送信側、受信側にそれぞれの組み合わせで、DTCSコードの送出または検出の位相をSETモードで設定することができます。

- ① [SET・LOCK]を短く押して、SETモードを表示します。
- ② [SET・LOCK]または[S.MW・MW]を短く押して、「DTCS位相反転機能の設定」項目を選択します。



- ③ [DIAL]を回して、下記から選択します。
  - dtP - n : 反転しません。(初期設定値)
  - dtP - r : 反転します。
- ④ [SET・LOCK]、[S.MW・MW]、[PWR]以外のボタンを短く押すと、SETモードを解除して周波数表示に戻ります。

## ■ トーン/コードスキンのしかた

相手局が使用しているレピータトーン周波数、トーン周波数またはDTCSコードを検知するスキャンです。

### ● [多機能型/コンボ型]のみ

- 前記P96～100の「トーンスケルチ周波数、トーンスケルチ機能を設定する」、「DTCSコード、DTCS機能を設定する」、「DTCS極性反転機能について」にしたがって、トーンスケルチ、コードスケルチを設定します。
- [T-SCAN]をクリックすると、レピータトーンスキャン、トーンスキャンまたはDTCSコードスキャンを開始します。  
※表示部に「T-SCAN」が表示されます。  
※スキャンを一時停止するときは、[PAUSE]ボタンをクリックします。
- 終了するときは[STOP]ボタンまたは[PROG]～[PRIO]のいずれかのボタンをクリックします。

※隣接したトーン周波数を使用している局があると、トーンスケルチが開くことがあります。

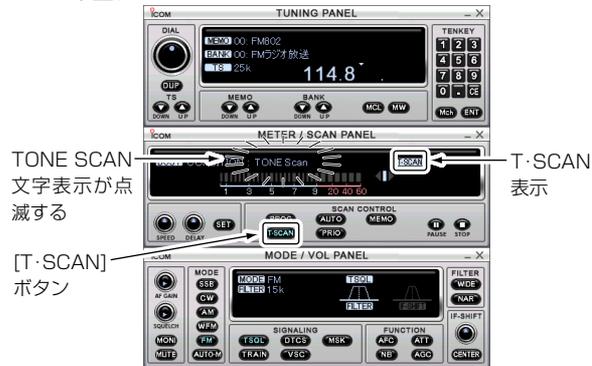
※スキャン中に[メインダイヤル]を回すと、回した方向でアップスキャンとダウンスキャンを切り替えます。スキャン中にスケルチが開いているときはゆっくり、スケルチが閉じているときは速くスキャンします。

※一致したトーン周波数またはDTCSコードを検知すると、スキャンが約10秒間(スキャン一時停止タイマーで設定した時間)一時停止し、トーン周波数またはDTCSコードを自動的に書き替えたあと、スキャンを再スタートします。ただし、M-CHでスキャンを行ったときは、一時的に記憶しますが、書き替えはしません。

### ● 多機能型レシーバー



### ● コンボ型レシーバー

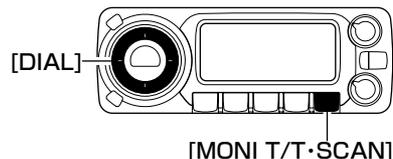


## 9 トーン機能/DTCS機能について

### ■コントローラーによるトーン/コードスキャンのしかた(IC-R1500)

トーンスケルチ機能(☞P96)を使用して交信している局が、どのトーン周波数またはDTCSコード(☞P97、99)を使用しているかを検知するスキャンです。

- VFO/メモリーモードに関係なく動作します。
- スキャン中に[DIAL]を回すと、回した方向でアップスキャンとダウンスキャンを切り替えます。



#### ◇ スタート操作

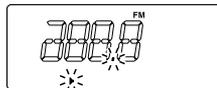
- ① [MONI・T/T-SCAN]を長く(約1秒)押し、[DIAL]を回してトーンスケルチ(“tS qL”または“tS qL-r”)、またはDTCS(“dtCS”または“dtCS-r”)に設定します。

前項の「◇ 運用モードを設定して受信する」参照

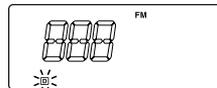
- ② [MONI・T/T-SCAN]を長く(約1秒)押します。  
トーン周波数またはDTCSコードを表示して、トーン周波数スキャン、またはDTCSコードスキャンを開始します。

- スキャン中にスケルチが開いているときはゆっくり、スケルチが閉じているときは速くスキャンします。
- 一致したトーン周波数またはDTCSコードを検知すると、スキャンが約10秒間(スキャン一時停止タイマーで設定した時間)一時停止し、トーン周波数またはDTCSコードを自動的に書き替えたあと(VFOモード時のみ)、スキャンを再スタートします。
- ポケットビープ状態から、トーンスキャンを行うと、ポケットビープを解除して、トーン周波数またはDTCSコードスキャンになります。

※トーンスケルチ設定時のトーンスキャンの表示



※DTCSエンコーダー設定時のトーンスキャンの表示



- **T SQL** : トーンスケルチ用トーンを書き替える
- **DTCS** : DTCSコードを書き替える

#### △ご注意

トーンスケルチモードでトーン周波数が一致するとトーンスケルチ用トーン周波数を書き替えます。  
レピータ運用またはトーンスケルチ運用時にご注意ください。  
ただし、M-CHでトーンスキャンを行ったときは、一時的に記憶しますが、書き替えはしません。

## ■ バンドスコープ機能の使いかた(IC-PCR1500多機能型/コンポ型のみ)

バンドスコープとは、一定の周波数範囲内(時間軸上での解析時は一定の時間内)で信号が出ていないかをチェックするとき、目で見えるようにした機能です。

信号を探すだけでなく、信号を受信しながら\*近接電波のリアルタイムな状況を把握するのにも、大変便利な機能です。

\*受信モード(AM、FMモード以外)、スイープモード、スパンの状況により、受信音が出ないことがあります。

\*ワイドバンドスコープ選択時は、スコープチャンネルの音を出力するか、しないかをダイアログボックスで選択できます。

\*バンド内に強力な信号がある場合、全体に表示が小さくなります。

### ◇ バンドスコープの操作(周波数モードでの解析)

- ① [FREQ] ボタンをクリックします。  
※ [TIME] ボタンをクリックすると、時間モードになります。
- ② [START] ボタンをクリックすると、スイープを開始し電波の状態を表示します。
- ③ スイープを一時停止するには、[PAUSE] ボタンをクリックします。  
※一時停止中“PAUSE”が表示されます。  
※一時停止を解除するときも同じ操作です
- ④ スイープを終了するときは、[STOP] ボタンをクリックします。

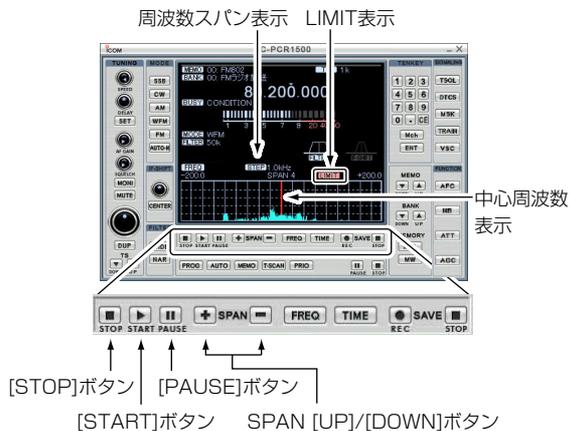
#### △ご注意

- ※ スイープ動作を開始すると現在受信している周波数を中心に、設定している周波数スパンの範囲で観測します。
- ※ 信号の強度を上下に表示しますので、波形が上に伸びているほど強い信号になります。
- ※ スイープステップ範囲を超えた周波数ステップを設定して、実際にスイープしているステップ幅が異なったり、スイープした結果を表示しきれないときは、“LIMIT”を表示して知らせます。
- ※ 周波数モードの場合、SSB/CWモードでは、バンドスコープ動作中に信号を受信してもスピーカーから受信音は出ません。
- ※ バンドスコープのレベル表示は、センター周波数で信号を受信すると、AGC(自動利得制御装置)が動作するため、表示レベルが低下します。

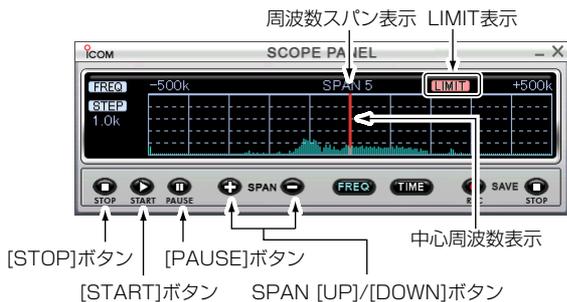
# 10 その他の機能(IC-PCR1500多機能型/コンポ型のみ)

## ■ バンドスコープ機能の使いかた(IC-PCR1500多機能型/コンポ型のみ) (つづき)

### ● 多機能型レシーバー



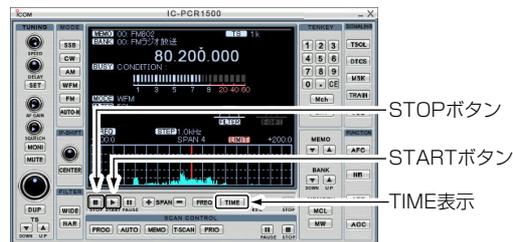
### ● コンポ型レシーバー



### ◇ バンドスコープの操作(時間モードでの解析)

- ① [TIME]ボタンをクリックします。  
※[FREQ]ボタンをクリックすると、周波数モードになります。
- ② [START]ボタンをクリックすると、時間モードスイープを開始し、電波の状態を表示します。
- ③ スイープを終了するときには、[STOP]ボタンをクリックします。

### ● 多機能型レシーバー



### ● コンポ型レシーバー



◇ 周波数スパンを切り替えるには

受信周波数を中心に上下何kHzまでバンドスコープに表示するかを切り替えます。

- ① [FREQ] ボタンをクリックして、周波数モードにします。
- ② [START] ([▶]) ボタンをクリックして、バンドスコープを開始させます。
- ③ SPAN [+]/SPAN [-] ボタンをクリックすることにより、SPAN1 (±25.0kHz)～SPAN5 (±500.0kHz) に切り替わります。

※ 信号があまり出ていないときは[SPAN5]、信号が多いときは[SPAN1]でご使用ください。

● 多機能型レシーバー



SPAN [+]/[-]ボタン

● コンポ型レシーバー



SPAN [+]/[-]ボタン

◇ 時間スパンを切り替えるには

受信周波数を測定した結果を何秒間バンドスコープに表示するかを切り替えます。

- ① [TIME] ボタンをクリックして、時間モードにします。
- ② [START] ([▶]) ボタンをクリックして、バンドスコープを開始させます。
- ③ TIME [+]/TIME [-] ボタンをクリックすることにより、3min(3分間)～50min(50分間) に切り替わります。

● 多機能型レシーバー



TIME [+]/[-]ボタン

● コンポ型レシーバー



TIME [+]/[-]ボタン

## 10 その他の機能(IC-PCR1500多機能型/コンポ型のみ)

### ■ バンドスコープ機能の使いかた(IC-PCR1500多機能型/コンポ型のみ) (つづき)

#### ◇ LIMIT(リミット)表示について

周波数ステップが「自動スイープステップ制限の範囲を切り替えるには」(下を参照)で設定しているスイープステップの制限範囲を超えると、“LIMIT”を表示して設定している周波数ステップ(TS表示)と、実際にスイープしているステップ幅が異なっていることを知らせます。

また、バンドスコープの表示画面にスイープした結果を表示しきれないときは“LIMIT”を表示します。

#### ◇ 自動スイープステップ制限を切り替えるには

周波数をスイープするときのステップ幅は、受信周波数を選択するときの周波数ステップに対応していますが、バンドスコープ機能でスイープするときの周波数ステップは、一定制限範囲を設けています。

- ① [FREQ] ボタンを右クリックすると、[Band Scope] ダイアログボックスを表示します。
- ② [Automatic Sweep Step Limit] の中から使用する周波数ステップを選択して、**クローズボタン** ([X]) をクリックします。

※ 周波数ステップと周波数スパンの組み合わせによっては、バンドスコープが表示されない場合があります。

※ チューニングステップを20kHz以上に設定しているとき、バンドスコープが表示されない場合があります。

※ スイープステップの制限範囲は1kHz～100kHz、1kHz～50kHz、1kHz～25kHzの中から選択します。

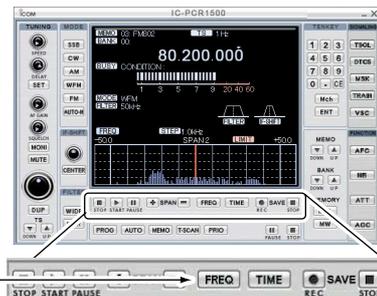
※ オプションとして、[WFM Monitor]、[Step=1/2TS]を設定できます。

○WFM Monitor : WFMモードでモニターします。

○Step=1/2TS : スイープステップをチューニングステップの半分の周波数に設定します。

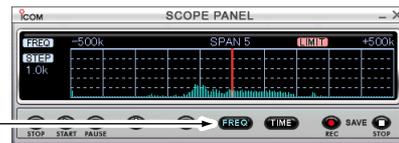
バンドスコープ機能使用時に、周波数ステップ(TS)が上記で設定したスイープステップの制限範囲を逸脱すると、バンドスコープの表示画面に“LIMIT”を表示して知らせます。

#### ● 多機能型レシーバー

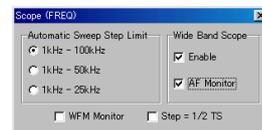


[FREQ]ボタン

#### ● コンポ型レシーバー



[FREQ]ボタン

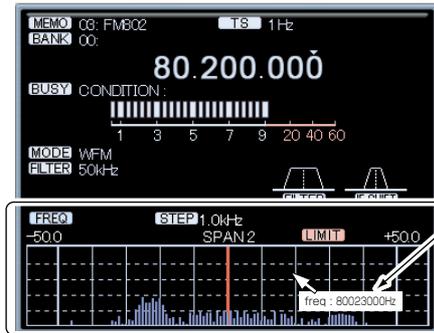


スイープステップ設定項目

### ◇ピックアップシグナルについて

バンドスコープ機能で聞いてみたい信号をみつけた場合、マウスカーソルをその波形に合わせてクリックするだけで、すばやく周波数を移動できます。また、スイープを一時停止(ポーズ)しているときは、受信周波数の波形をセンター位置に維持しているので、気になるほかの信号を聞きに行ったあとで、前の信号に戻りたいというような場合に便利です。

#### ●多機能型レシーバー



ピックアップ  
シグナル

#### ●コンポ型レシーバー



ピックアップ  
シグナル

### ◇バンドスコープデータを保存する

バンドスコープ機能でスイープしたデータをCSV形式で保存できます。

- ①「バンドスコープの操作」(P104～106)の操作をして、バンドスコープのスイープを開始します。  
※時間モードでの解析結果を保存するとき、[TIME]ボタンを左クリックすると、データ保存間隔を変更できます。  
数値が小さくなるほど、短い間隔でデータを保存します。
- ② [REC]ボタンをクリックすると、「名前を付けて保存」ダイアログボックスが出てきます。  
保存場所、ファイル名を入力して、[保存(S)]をクリックすると指定ファイルにデータの書き込みが始まります。  
※書き込み中は表示部に“SAVE”が点灯します。
- ③ [STOP]ボタンをクリックすると、書き込みが終了します。

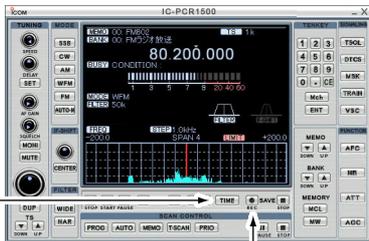
保存したデータは次のような内容が保存されます

- 記録開始時間
- 中心周波数
- 測定した周波数
- 測定した時間
- 受信信号のレベル(強さ)

## 10 その他の機能(IC-PCR1500多機能型/コンポ型のみ)

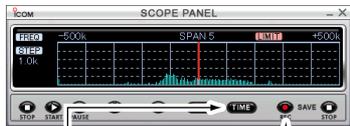
### ■ バンドスコープ機能の使いかた(IC-PCR1500多機能型/コンポ型のみ) (つづき)

#### ● 多機能型レシーバー

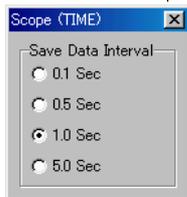


[REC]ボタン

#### ● コンポ型レシーバー



[REC]ボタン



← 時間モードで解析したデータを保存するとき、左クリックすると保存間隔が選択できます。



ファイル名入力して[保存(S)]を押す

### ◇ ワイドバンド・バンドスコープ機能について

ワイドバンド・バンドスコープ機能にすると、広帯域(±1MHz、±2MHz、±5MHz)で信号が出ていないかをチェックできます。

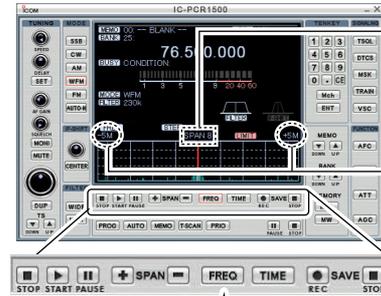
- ① [FREQ] ボタンを右クリックして、[Band Scope] ダイアログボックスを表示します。
- ② [Wide Band Scope] 内の [Enable] にチェックを入れて、クローズボタン([×])をクリックすると、ワイドバンド・バンドスコープ機能が“ON”になります。

※スweep中はスweepしている周波数を受信しています。表示しているセンター周波数を受信しながらスweepできません。

※[Wide Band Scope]内の[AF Monitor]にチェックを入れると、モニター機能が“ON”になり、スweep中の受信音を聞けます。

※ワイドバンド・バンドスコープ機能が“ON”のとき、周波数スパンは、SPAN6(±1MHz)、SPAN7(±2MHz)、SPAN8(±5MHz)が加わり、通常のSPAN1～SPAN5を含めると、8段階から選択できます。

#### ● 多機能型レシーバー

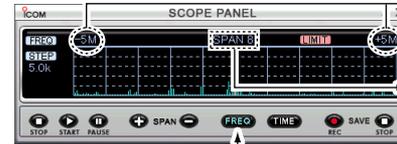


ワイドバンドスコープ機能が“ON”のとき、SPAN6～SPAN8が使用できます。

ワイドバンドスコープ機能が“ON”のとき、スパンが±1～±5MHzの広範囲で解析できます。

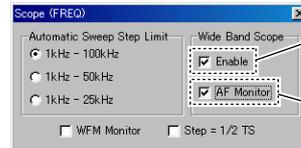
[FREQ]ボタン

#### ● コンポ型レシーバー



ワイドバンドスコープ機能が“ON”のとき、SPAN6～SPAN8が使用できます。

[FREQ]ボタン



ワイドバンドスコープ機能の“ON”/“OFF”チェックボックス

モニター機能の“ON”/“OFF”チェックボックス

## 10 その他の機能

### ■デュプレクス通信を受信する

#### ◇デュプレクスとは

デュプレクス通信とは、送信と受信で違った2つの周波数を使用して交信する方式です。

430MHz/1200MHz帯のアマチュア無線用FMレピータシステムや各通信分野で広く利用されています。

本機にデュプレクスモードを設定すると、ワンタッチの切り替え操作で、送信/受信両方の周波数が受信できます。

デュプレクス通信を受信するときは、オフセット周波数の設定も必要です。

#### ◇オフセット周波数とは

デュプレクス通信で、送信周波数と受信周波数の差をオフセット周波数といいます。

IC-PCR1500の場合、[DUP]ボタンをクリックしてデュプレクスモードを、[DUP]ボタンを右クリックしてオフセット周波数を設定します。(P112)

IC-R1500の場合、SETモードでオフセット周波数を設定します。(P114、137)

#### △ご注意

本機では、アナログ信号のレピータの電波は受信できますが、D-STAR®レピータの電波は受信できません。

【例】430MHz帯のレピータ交信を受信するには

レピータとは、山や建物などの障害物で直接交信できない局の交信を可能にしたり、通信範囲(通信距離)を拡大させるための、自動無線中継装置のことです。

#### レピータ交信の概略と周波数例



- 通常、アマチュア無線で運用されている430MHz帯のレピータ交信は、オフセット周波数を5.000MHzに設定しています。レピータは、送信されてくる434.600MHzを受信すると、自動的に439.600MHzの周波数に変換して送信します。
- 本機で上記通信を受信するには、デュプレクスモードとオフセット周波数5.000MHzの設定が必要です。430Mバンドは、レピータ受信用に5.000MHzを初期設定しています。(1200Mバンドは、レピータ受信用に20.000MHzを初期設定しています)  
なお、デュプレクスモードは次のように設定します。本機の表示(受信)周波数を439.600MHz(レピータの送信周波数)に設定したときは“-DUPモード”に、434.600MHz(レピータの受信周波数)に設定したときは“+DUPモード”に設定してください。

◇ レピータの送信周波数を設定する

P45～46の「受信周波数を設定するには」を参照しながら、下の周波数帯を参考にしてレピータの送信周波数を設定してください。

レピータの周波数帯

送信：439.000～440.000MHz  
 : 1290.000～1293.000MHz  
 受信：434.000～435.000MHz  
 : 1270.000～1273.000MHz

◇ デュプレクスモードとオフセット周波数を設定する

● [多機能型/コンボ型]

① [DUP]ボタンをクリックして、“-DUP”または“+DUP”を選択し、デュプレクスモードにします。

※押すごとに“-DUP”/“+DUP”/“シンプレックス”に切り替わります。

※デュプレクスモード時は、表示部に“DUP+”または“DUP-”を表示します。

② [DUP]ボタンを右クリックすると、「DUP Offset」ダイアログボックスを表示します。

パソコンのキーボードからデュプレクス周波数を入力して、“[Enter]”キーを押します。

● [シンプル型]

① 表示部の[DUP]ボタンにマウスカーソルを合わせて、クリックすごとに“-DUP-”/“DUP+”/“シンプレックス”切り替わります。

② [DUP]ボタンを右クリックすると、「DUP Offset」ダイアログボックスを表示します。

パソコンのキーボードからデュプレクス周波数を入力して、“[Enter]”キーを押します。

※設定範囲：0.00～1000.000000MHz

※0.000000MHzを初期設定にしています。

● 多機能型レシーバー



[DUP]ボタン

● コンボ型レシーバー



[DUP]ボタン

● シンプル型レシーバー



[DUP]ボタン



↑  
 オフセット周波数を入力して[Enter]キーを押します。

## 10 その他の機能(IC-PCR1500)

### ■ デュプレクス通信を受信する (つづき)

#### ◇ デュプレクス通信の両周波数を受信する

[MONI]ボタンをクリックします。

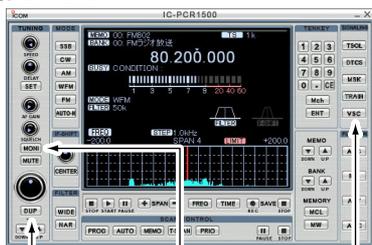
- 439.600MHzでオフセット周波数を5.000MHz、デュプレクスを“-DUP”に設定している場合、[MONI]ボタンをクリックすると5.000MHz低い434.600MHzを受信します。
- 1272.340MHzでオフセット周波数を20.000MHz、デュプレクスを“+DUP”に設定している場合、[MONI]ボタンをクリックすると20.000MHz高い1292.340MHzを受信します。

※ [MONI]ボタンを押すと“-DUP”モードのとき、オフセット周波数分低い周波数を受信します。

“+DUP”モードのときは、オフセット周波数分高い周波数を受信します。

※ 表示部に“BUSY”が点灯します

#### ● 多機能型レシーバー



[DUP]ボタン [MONI]ボタン [VSC]ボタン

#### ● コンポ型レシーバー



[MONI]ボタン

[VSC]ボタン



[DUP]ボタン

#### ● シンプル型レシーバー



[DUP]ボタン

[MONI]ボタン

### ◇ コントローラーによるレピータの送信周波数の設定 (IC-R1500)

P47の「コントローラーによる受信周波数の設定」を参照しながら、前頁の「レピータの周波数帯」を参考にして、レピータの送信周波数を設定してください。

### ◇ コントローラーによるデュプレクスモードとオフセット周波数の設定(IC-R1500)

- ① [SET・LOCK]を短く押して、SETモードを表示します。
- ② [SET・LOCK]または[S.MW・MW]を短く押して、「デュプレクスモードの設定」項目を選択します。
- ③ [DIAL]を回して、“dUP-”または“dUP+”を選択し、デュプレクスモードにします。



※ [DIAL]を回すと、“シンプレクス”/“dUP-”/“dUP+”に切り替わります。

- ④ [SET・LOCK]を短く押して、「オフセット周波数の設定」項目を選択します。
- ⑤ [DIAL]を回して、オフセット周波数を設定します。



※ [V/MHz・SCAN]を短く押すと、10MHzステップでオフセット周波数を設定できます。

このとき、表示部の10MHz部が点滅します。

※もう一度[V/MHz・SCAN]を短く押すと、1MHzステップでオフセット周波数を設定できます。

このとき、表示部の1MHz部が点滅します。

- ⑥ [SET・LOCK]、[S.MW・MW]、[PWR]以外のボタンを短く押すと、SETモードを解除して周波数表示に戻ります。

### ◇ コントローラーによるデュプレクス通信の両周波数の受信(IC-R1500)

[MONI・T/T-SCAN]ボタンを短く押します。

- 439.600MHzでオフセット周波数を5.000MHz、デュプレクスを“dUP-”に設定している場合、[MONI・T/T-SCAN]ボタンをクリックすると5.000MHz低い434.600MHzを受信します。
- 1272.340MHzでオフセット周波数を20.000MHz、デュプレクスを“dUP+”に設定している場合、[MONI・T/T-SCAN]ボタンをクリックすると20.000MHz高い1292.340MHzを受信します。

※ [MONI・T/T-SCAN]ボタンを押すと“dUP-”モードのとき、オフセット周波数分低い周波数を受信します。“dUP+”モードのときは、オフセット周波数分高い周波数を受信します(表示部に“MONI”が点灯します)。

## 10 その他の機能

### ■デュプレクスモードを解除するときは

[DUP]ボタンを“-DUP”のときは2回、“+DUP”のときは1回、クリックしてシンプレックスモードにします。

※押すごとに“-DUP”/“+DUP”/“シンプレックス”に切り替わります。

### ◇コントローラーによるデュプレクスモードの解除 (IC-R1500)

- ① [SET・LOCK]を短く押して、SETモードを表示します。
- ② [SET・LOCK]または[S.MW・MW]を短く押して、「デュプレクスモードの設定」項目を選択します。
- ③ [DIAL]を回して、“OFF”を選択し、シンプレックスモードにします。  
※[DIAL]を回すと、“シンプレックス”/“dUP-”/“dUP+”に切り替わります。

### ■ VSC(ボイススケルチコントロール)機能について

ボイススケルチコントロール機能は、受信した信号に音声信号が含まれているかを識別し、スケルチをコントロールします。信号に音声信号が含まれていればスケルチを開き、含まれていなければスケルチは開きません。

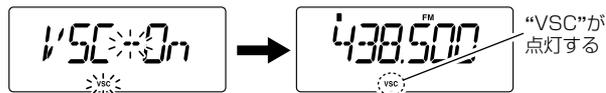
#### [多機能型/コンボ型]のみ

[VSC]ボタンをクリックすると、VSC機能による受信状態になります。

※VSC機能が“ON”のとき、表示部に“VSC”が点灯します。

### ◇コントローラーによるVSC(ボイススケルチコントロール)機能の設定(IC-R1500)

- ① [SET・LOCK]を短く押して、SETモードを表示します。
- ② [SET・LOCK]または[S.MW・MW]を短く押して、「VSC(ボイススケルチコントロール)機能の設定」項目を選択します。
- ③ [DIAL]を回して、“VSC-On”を選択すると、VSC機能が“ON”になります。  
※VSC機能が“ON”のとき、表示部に“VSC”が点灯します。



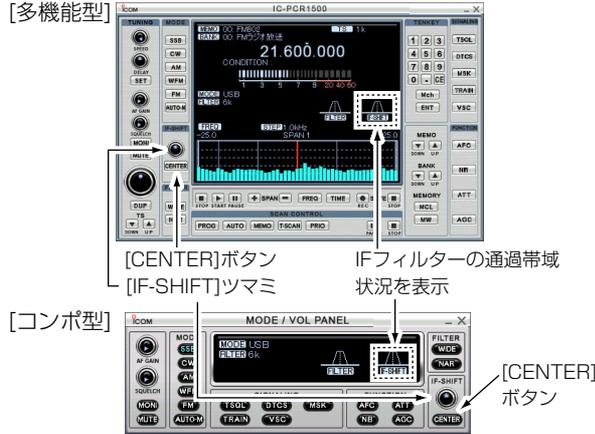
### ■IFシフト機能について

IFシフト機能とは、SSB/CWモードでIFフィルターの通過帯域幅を上側または下側に移動し、近接波からの混信を除去する機能です。IFフィルターの通過帯域幅が移動する様子を、グラフィックメニュー表示で見ながら調整できます。

#### [多機能型/コンボ型]のみ

- ① [IF-SHIFT]ツマミをクリックまたは右クリックして、受信周波数に近接する混信信号が減少するように通過帯域幅を移動します。  
※右クリックすると上側に、左クリックすると下側に移動します。
- ② [CENTER]ボタンをクリックすると、移動した通過帯域幅をゼロに戻します。

■ IFシフト機能について (つづき)



◇ コントローラーによるIFシフト機能の設定 (IC-R1500)

- ① モードをSSBまたはCWに設定します。(P44)
- ② [SET・LOCK]を短く押して、SETモードを表示します。
- ③ [SET・LOCK]または[S.MW・MW]を短く押して、「IFシフト機能の設定」項目を選択します。
- ④ [DIAL]を回して、受信周波数に近接する混信信号が減少するように、通過帯域幅を-25～+25の範囲で移動します。

5Ft + 10

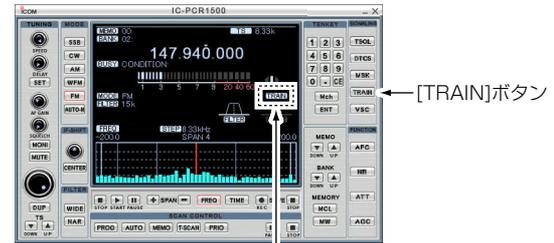
■ 空線キャンセラー機能について

鉄道無線で通話していない周波数で聞こえる2280Hzの空線信号を検出できます。[多機能型/コンポ型]のみで動作します。

- 操作時に空線信号を受信すると、受信音をミュートします。
- スキャン中に信号を受信すると一時停止して、空線信号を検出すると、スキャンを再スタートします。

※ [TRAIN]ボタンを右クリックすると、キャンセラー周波数が設定できます。

● 多機能型レシーバー



空線キャンセラー機能が“ON”の時、表示部に“TRAIN”が点灯する

● コンポ型レシーバー



## 10 その他の機能

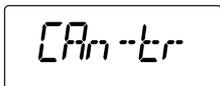
### ■ 空線キャンセラー機能について (つづき)

#### ◇ コントローラーによる空線キャンセラー機能の設定 (IC-R1500)

空線キャンセラー機能は、スキャン中に信号を受信すると一時停止して、空線信号を検出するとスキャンを再スタートします。

空線キャンセラー機能は、SETモードで設定します。

- ① 運用モードと周波数を設定します。(P44、47)
- ② [SET・LOCK]を短く押して、SETモードにします。
- ③ [SET・LOCK]または[S.MW・MW]を短く押して、「CA n-OF」、「CA n-tr」または「CA n-mS」項目を選択します。



- ④ [DIAL]を回して、「CA n-tr」を選択します。
  - CA n-OF : 空線キャンセラー、MSK機能がOFFになります。(初期設定)
  - CA n-tr : 空線キャンセラー機能が動作します。(初期設定)
  - CA n-mS : MSK信号の制御機能が動作します。
- ⑤ [SET・LOCK]、[S.MW・MW]、[PWR]以外のボタンを短く押すと、SETモードを解除して空線キャンセラー機能による受信状態になります。

TRAIN(空線キャンセラー)機能による受信状態



#### ◇ コントローラーによる空線キャンセラー周波数の設定 (IC-R1500)

空線信号の周波数はSETモードで設定できます。

※空線キャンセラー機能において、空線信号の周波数(2280Hz)を±50Hz程可変することにより、効果があることがあります。

- ① 運用モードと周波数を設定します。(P44、47)
- ② [SET・LOCK]を短く押して、SETモードにします。
- ③ [SET・LOCK]または[S.MW・MW]を短く押して、「TRAIN周波数の設定」項目を選択します。
- ④ [SET・LOCK]を短く押して、「TRAIN周波数の設定」項目を選択します。



- ⑤ [DIAL]を回して、TRAIN周波数を設定します。
  - ※300~3000Hzの範囲を、10Hzステップで設定できます。
- ⑥ [SET・LOCK]、[S.MW・MW]、[PWR]以外のボタンを短く押すと、SETモードを解除して受信状態になります。

- 空線キャンセラー機能、MSK機能は受信信号が弱いときや、ノイズが多いときなどは正しく動作しないことがあります。
- 空線キャンセラー機能、MSK機能はすべての空線信号またはMSK信号を検出するものではありません。MSK信号は1200bpsのMSK信号を検出することができます。周波数がズレた場合などは、検出できない場合もあります。

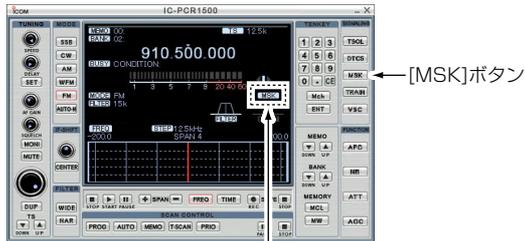
## ■ MSK機能について

MCA無線で聞こえるMSK制御信号を検出できます。

[多機能型/コンボ型]のみで動作します。

- 操作時にMSK制御信号を受信すると、受信音をミュートします。
- スキャン中に信号を受信すると一時停止して、MSK制御信号を検出すると、スキャンを再スタートします。

### ● 多機能型レシーバー



MSK機能が“ON”の時、表示部に“MSK”が点灯する

### ● コンボ型レシーバー

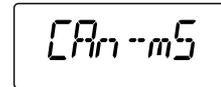


[MSK]ボタン

### ◇ コントローラーによるMSK機能の設定(IC-R1500)

MSK機能は、スキャン中に信号を受信すると一時停止して、MSK制御信号を検出するとスキャンを再スタートします。MSK機能は、SETモードで設定します。

- ① 運用モードと周波数を設定します。(P44、47)
- ② [SET・LOCK]を短く押して、SETモードにします。
- ③ [SET・LOCK]または[S.MW・MW]を短く押して、「CAN-TR」または「CAN-MS」項目を選択します。



- ④ [DIAL]を回して、「CAN-MS」を選択します。
  - CAN-TR : 空線キャンセラー機能が動作します。(初期設定)
  - CAN-MS : MSK信号の制御機能が動作します。
- ⑤ [SET・LOCK]、[S.MW・MW]、[PWR]以外のボタンを短く押すと、SETモードを解除してMSK信号の制御機能による受信状態になります。

MSK機能による受信状態



## 10 その他の機能(IC-PCR1500のみ)

### ■DTMF機能について(IC-PCR1500のみ)

最大24桁のDTMF信号受信できます。

- ① ツールバーの[DTMF]アイコンをクリックします  
※[DTMF Remote Commander]ウインドウが開きます。
- ② [ON/OFF]スイッチをクリックして、DTMF機能を“ON”にします。
- ③ [Remote]スイッチをクリックして、リモート機能を“ON”にします。  
DTMFコードを受信すると、表示部にDTMFコードを表示します。

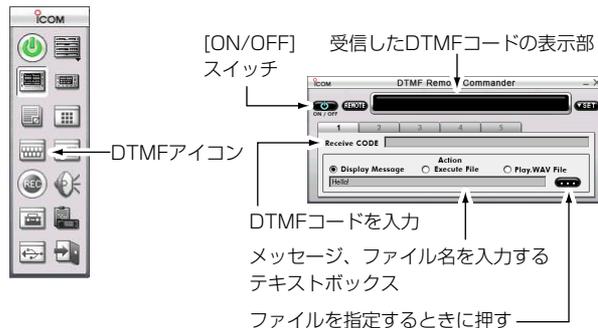
[SET] ボタンをクリックすると、[DTMF Remote Commander]設定ウインドウを表示します。

- Receive Code : DTMFコードの設定

受信したDTMFコードと[Receive Code]に設定したコードが一致したとき、実行する内容を次の3項目から選択できます。

- Display Message : テキストボックスに指定した文字列を表示する。
- Action Execute File : テキストボックスに指定したファイルを実行する。
- Play.WAV File : テキストボックスに指定したWAVEファイルを再生する。

※ファイルを指定するときは、[...]ボタンをクリックします。



## ■ オーディオコントローラーについて(IC-PCR1500のみ)

IC-PCR1500のスピーカー、パソコンのスピーカーのAFゲイン、ビーブ音、ポケットビーブの呼び出し音が設定できます。  
 ツールバーの[Audio Setting]アイコンをクリックすると、[Audio Setting]ウィンドウが開きます。

### ● AFゲインを設定するとき

IC-PCR1500のスピーカーのAFレベルを設定するときは[Receiver]オプションボタン、パソコンのスピーカーのAFレベルを設定するときは[PC]オプションボタンをクリックし、スクロールバーをクリックしてAFレベルを設定します。

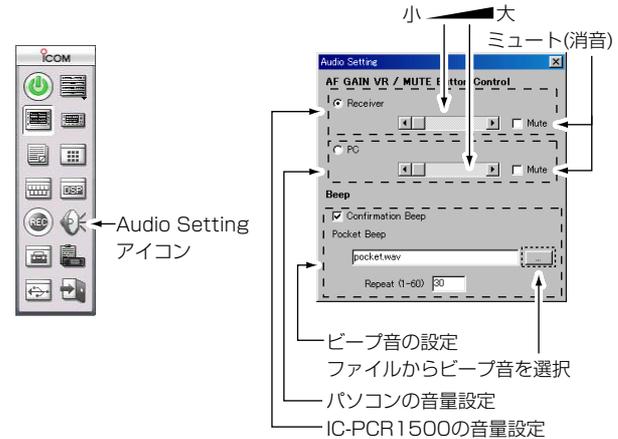
※ [Mute]チェックボックスにチェックを入れると、ミュート(消音)機能が“ON”になります。

### ● ビーブ音を設定するとき

[Confirmation Beep]チェックボックスにチェックを入れると、メモリーライト時、メモリークリア時、操作エラー時にビーブ音をならします

ポケットビーブの呼び出し音を設定する場合、[...]ボタンをクリックして、WAVEファイルを選択してください。

また、[Repeat]ボックスに繰り返しの回数(1~60回、初期設定値30回)を設定できます。



## 10 その他の機能(IC-PCR1500のみ)

### ■ オーディオコントローラーについて(IC-PCR1500のみ) (つづき)

#### ◇ パソコンに接続、内蔵されているスピーカーから音を出すとき

パソコンに接続、内蔵されているスピーカーから音を出すとき、基本ソフト(OS)の仕様上、使用するたびにパソコンのオーディオデバイスの設定が必要です。

△**注意**：パソコンにサウンドボードが搭載されていないと、パソコンから音がでません。詳しくはパソコンの取扱説明書をご参照ください。

① IC-PCR1500コントロールソフトを終了して、電源スイッチを“OFF”にします(「パイロットランプ」が消灯します)。

#### ● Windows 98 SEの場合

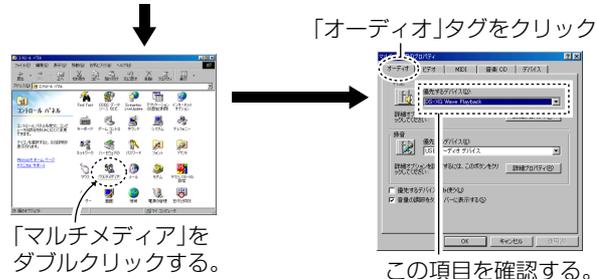
- ② デスクトップの「マイコンピュータ」をダブルクリックして、「コントロールパネル」をダブルクリックします。
- ③ 「マルチメディア」アイコン\*をダブルクリックして、「マルチメディアのプロパティ」を表示します。
- ④ 「オーディオ」タグをクリックして、「再生」内の「優先するデバイス」を紙などに書き写し、プロパティを閉じてください。

#### ● Windows XPの場合

- ② [スタート]ボタンをクリックして、「マイコンピュータ」をクリック、「コントロールパネル」をクリックします。
- ③ 「サウンドとオーディオデバイス」アイコン\*をダブルクリックして、「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」を表示します。
- ④ 「サウンド」タグをクリックして、「サウンド設定」を紙などに書き写し、プロパティを閉じてください。

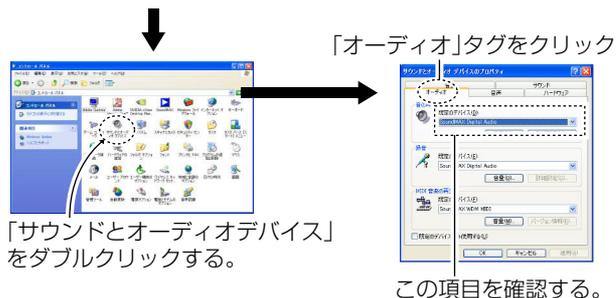
#### ● Windows 98SEの場合

デスクトップの「マイコンピュータ」をダブルクリック、「コントロールパネル」をダブルクリックする。



#### ● Windows XPの場合

[スタート]ボタンをクリックして、「マイコンピュータ」を選択、「コントロールパネル」をクリックする。



● Windows 2000/Meの場合

- ② [スタート]ボタンをクリックして、「設定」をクリック、「コントロールパネル」をクリックします。
- ③ 「サウンドとマルチメディア」アイコン\*をダブルクリックして、「サウンドとマルチメディアのプロパティ」を表示します。
- ④ 「オーディオ」タグをクリックして、「音の再生」内の「優先するデバイス」を紙などに書き写し、プロパティを閉じてください。

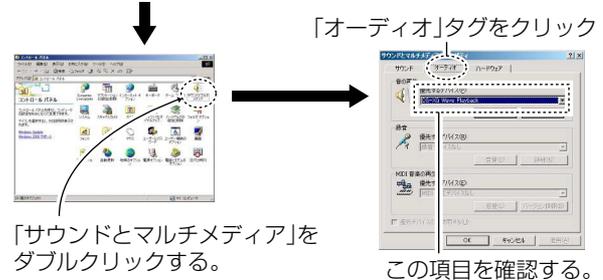
● 以後の手順はWindows 98 SE/XP/2000/Me共通

- ⑤ IC-PCR1500の電源スイッチを“ON”にして、コントロールソフトウェアを起動します。  
※「パイロットランプ」が点灯します。
- ⑥ お使いのパソコンの基本ソフト(OS)に合わせて、手順②～③を繰り返します。
- ⑦ 手順④で紙などに書き写したデバイスを選択して、[OK]ボタンを押してください。
- ⑧ パソコンのスピーカーの音量を変えるときは、前のページをご参考ください。

\*お使いのパソコンによっては、名前などが違うことがあります。詳しくはお使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください。

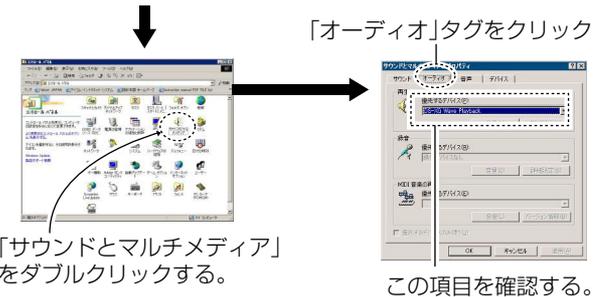
● Windows 2000の場合

[スタート]ボタンをクリックして、「設定」を選択、「コントロールパネル」をクリックする。



● Windows Meの場合

[スタート]ボタンをクリックして、「設定」を選択、「コントロールパネル」をクリックする。



## 10 その他の機能(IC-PCR1500のみ)

### ■ショートカットキーについて(IC-PCR1500のみ)

ショートカットキーとは、パソコンのキーボードから設定や機能選択などをできるようにするためのものです。

ショートカットキーを利用すると、非常に早く簡単に操作できるようになります。

#### ● ショートカットキーの設定

- ① ツールバーの[Setting]アイコンをクリックすると、[Setting]ウィンドウが開きます。
- ② [Short cut]タグをクリックし、ショートカット一覧表を表示します。
- ③ [Category]コンボボックスをクリックして、設定したいショートカットのカテゴリを選択します。
- ④ [Action]コンボボックスをクリックして、ショートカット設定したい機能を選択します。
- ⑤ [Key]テキストボックスに設定するショートカットキーを入力します。  
※一部ショートカット設定できないキーがあります。  
※[Ctrl]、[Shift]、[Alt]キーは、別のキーと組み合わせるとショートカットキーとして動作します。

**[例]「AMモードの選択」を[Ctrl]+[A]キーにショートカット設定するとき。**

- ① [Category]コンボボックスをクリックして、“Mode”を選択します。
- ② [Action]コンボボックスをクリックして、“AM”を選択します。

- ③ [Key]テキストボックスにマウスカーソルを移して、クリックします。

[Ctrl]キーを押しながら[A]キーを押します

- ④ [Add]ボタンをクリックして、リストに追加します。

各ボタンは次のような動作をします。

[Add] : 新しくショートカットキーを追加します。

[Set] : すでに設定したショートカットキーの変更を反映します。

[Delete] : ショートカットを削除します。

[Default] : ショートカット割り当てを初期設定に戻します。

※一度、初期設定すると、元に戻せませんのでご注意ください。

リスト上で項目をダブルクリックすると、使用可(Enable)、使用不可(Disable)を選択できます。



Settingアイコン



ショートカットキーの設定を有効にする

指定したショートカットキーを削除する

初期設定に戻す

ショートカットキーを追加する

## ■ マルチチャンネルモニターについて(IC-PCR1500のみ)

マルチチャンネルモニターとは、「Multi CH Monitor」リストに入力されたチャンネルを順番に受信して、信号の有無などを一覧表示する機能です。複数の聞きたいチャンネルの受信状況が一目でわかり、すばやく受信できるので、気になる周波数を登録しておく便利です。

### ● 「Multi CH Monitor」リストに登録する

- ① ツールバーの「Multi CH Monitor」アイコンをクリックすると、「Multi CH Monitor」スクリーンが開きます。
- ② 「Multi CH Monitor」スクリーン上の「SET」ボタンをクリックすると、「Multi CH Monitor」リストが開きます。
- ③ 「Multi CH Monitor」リストにバンク、名前、周波数などを入力します。

登録や保存のしかたは「メモリーチャンネルエディター」と同じです。詳しくは以下のページを参照してください。

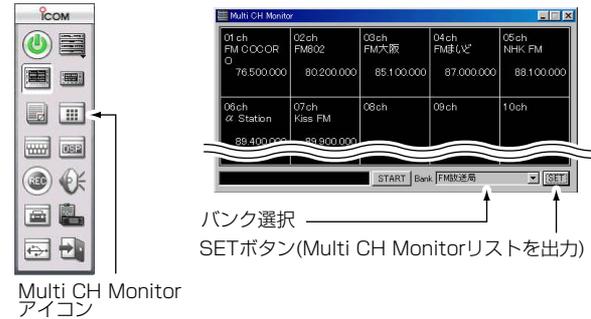
「メモリーチャンネルエディターで編集するには」(P61)

「メモリーチャンネルエディターをバックアップするには」(P64)

「メモリーチャンネルを印刷する」(P64)

「新規ファイルの作成と保存のしかた」(P65)

「ファイルを開くには」(P65)



Multi CH Monitorリスト

CH	Name	Frequency	DUPLX	Mode	Filter	ATT	TS	TONE	TSQJ/Freq	DTCS	DTOS POL	ARITY	On	Freq	Remark
1	FM COCORO	76.500000	OFF	WFM	50k	50k	OFF	88.5	023	Normal	OFF	2230	OFF		
2	FM802	80.200000	OFF	WFM	50k	50k	OFF	88.5	023	Normal	OFF	2230	OFF		
3	FM大阪	85.100000	OFF	WFM	50k	50k	OFF	88.5	023	Normal	OFF	2230	OFF		
4	FMほりぞ	87.000000	OFF	WFM	50k	50k	OFF	88.5	023	Normal	OFF	2230	OFF		
5	NHK FM	88.100000	OFF	WFM	50k	50k	OFF	88.5	023	Normal	OFF	2230	OFF		
6	α Station	89.400000	OFF	WFM	50k	50k	OFF	88.5	023	Normal	OFF	2230	OFF		
7	Kiss FM	89.900000	OFF	WFM	50k	50k	OFF	88.5	023	Normal	OFF	2230	OFF		
8															

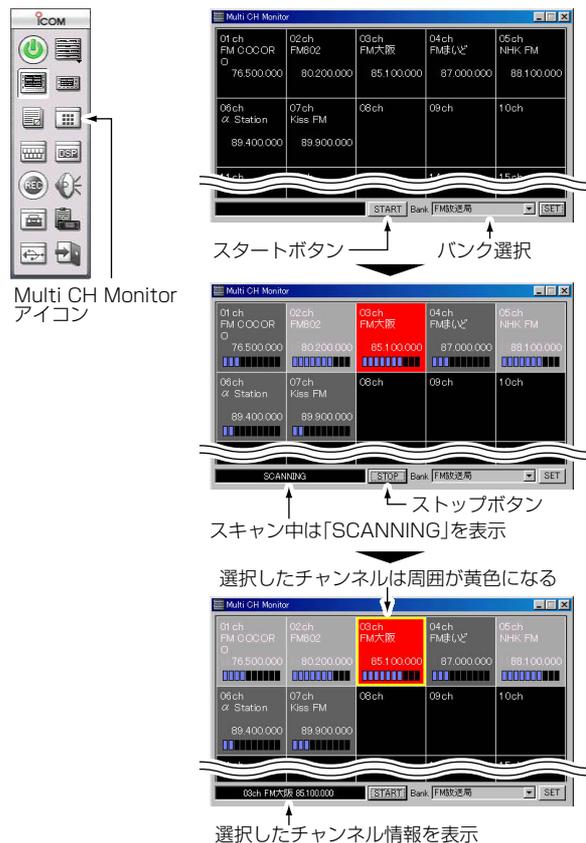
## 10 その他の機能(IC-PCR1500のみ)

### ■ マルチチャンネルモニターについて(IC-PCR1500のみ) (つづき)

#### ● マルチチャンネルモニター機能を使う

※「Multi CH Monitor」リストに登録してから、マルチチャンネルモニター機能をご使用ください。(P124)

- ① ツールバーの「Multi CH Monitor」アイコンをクリックすると、「Multi CH Monitor」スクリーンが開きます。  
登録されているチャンネルには、「Multi CH Monitor」スクリーンにチャンネル番号、チャンネル名、周波数、Sメーターが表示されます。
- ② 「Multi CH Monitor」スクリーンの「Bank」コンボボックスをクリックしてモニターするバンクを選択します。
- ③ 「START」ボタンをクリックすると、登録しているチャンネルのスク্যানがスタートします。  
※スク্যান中はメッセージボックスに“SCANNING”が点滅表示します。また、スピーカーから音が出ません。  
※受信レベルにより、背景色が変わります。
  - 黒 色：登録されていないチャンネル
  - 濃い灰色：SメーターのレベルがS3以下
  - 薄い灰色：SメーターのレベルがS3以上S9以下
  - 赤 色：SメーターのレベルがS9以上
- ④ 聞きたいチャンネルがあれば、「Multi CH Monitor」スクリーンのチャンネル番号をクリックします。  
※クリックした周波数が制御ソフトウェアに転送されます。  
※選択されたチャンネルのまわりが黄色になります。  
※スク্যানが終了します。
- ⑤ スキャンを終了するときには、「STOP」ボタンをクリックします。



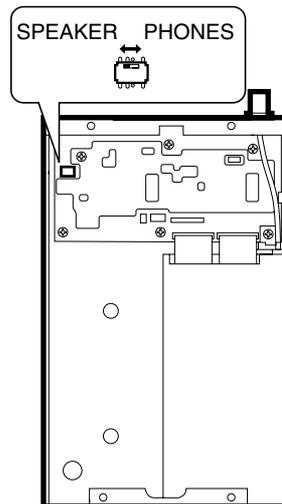
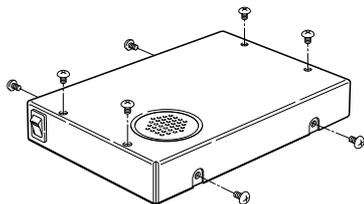
## ■内部スイッチの切り替えについて

本機内部に外部スピーカー端子制御用スイッチがあります。ヘッドホンやイヤホンをご使用になるとき、外部スピーカーをご使用になるときに切り替えます。

### △ご注意

カバーを外す前に、コントロールソフトや本体の電源を切り、ACアダプターのコードや他の接続コードをはずしてから作業にかかってください。

- ① カバーを取り付けている8本のネジをはずします。(下図を参照ください)。  
※取り付けネジをなくさないようにご注意ください。
- ② スピーカー接続コードなどをはずし、カバーを取りはずします。
- ③ 右図のスイッチを用途に合わせて切り替えます。
  - ヘッドホンやイヤホンをご使用になるとき、[PHONES]に設定する。
  - 外部スピーカーをご使用になるとき、[SPEAKER]に設定する。(初期設定)



## 10 その他の機能(IC-PCR1500のみ)

### ■ 録音機能の使いかた(IC-PCR1500のみ)

IC-PCR1500は録音機能を備えており、パソコンのハードディスクなどに録音したデータを保存できます。

#### ◇ 受信した信号を録音する

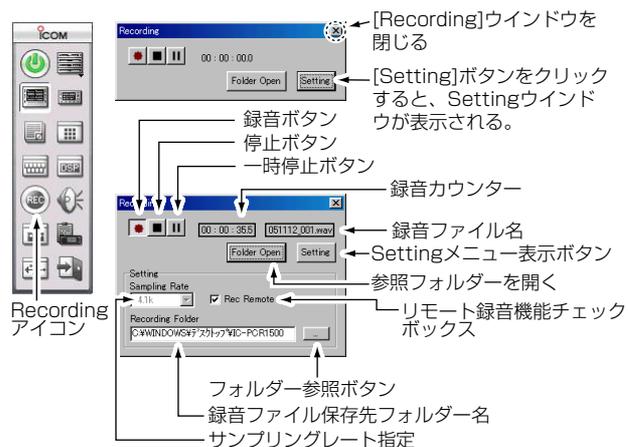
- ① メモリーを呼び出すか、周波数、モードなどを設定して信号を受信します。
- ② ツールバーの[Recording]アイコンをクリックして、「Recording」ウインドウを表示します。
- ③ [Setting]ボタンをクリックして、「Setting」メニューを表示します。
- ④ [...]ボタンをクリックして、「フォルダの参照」ウインドウを表示し、録音先のフォルダを設定します。  
録音先のフォルダを決定してから、[OK]ボタンをクリックします。
- ⑤ 「Recording」ウインドウの[●]ボタンをクリックすると、録音が始まります。  
※ [||]ボタンをクリックすると、録音を一時停止します。
- ⑥ 録音を終了するときには、[■]ボタンをクリックします。

#### ◇ 録音したデータを再生する

IC-PCR1500で録音したデータを再生するときには、パソコンにインストールされている音楽再生ソフトなどをご利用ください。再生ソフトの使用方法はそれぞれの取扱説明書をご参照ください。

#### 【再生ソフトの例】

- Windows® Media Player
- Microsoft® サウンドレコーダー



録音ファイル保存先フォルダが決定したら、  
[OK]ボタンを押す

### ◇ サンプリングレートを指定する

サンプリングレートを変更することで、録音目的に合わせた録音ができます。

サンプリングレートを高くすると、高音質録音ができます。音質が良くなりますが、ファイル容量が大きくなります。

サンプリングレートを低くすると、標準音質、または低音質録音になります。音質は落ちますが、ファイル容量を小さくできます。

- ① メモリーを呼び出すか、周波数、モードなどを設定して信号を受信します。
- ② ツールバーの[Recording]アイコンをクリックして、[Recording]ウインドウを表示します。
- ③ [Setting]ボタンをクリックして、[Setting]メニューを表示します。
- ④ [Sampling Rate]コンボボックスをクリックして、サンプリングレートを選択します。

※数値が大きくなるほどサンプリングレートが高くなり、高音質録音となります。



クリックしてサンプリングレートを指定する。

### ◇ リモート録音機能を使用する

リモート録音機能を使用すると、録音中に信号を受信していない間は一時停止状態となり、信号を受信すると自動的に録音を開始します。

- ① メモリーを呼び出すか、周波数、モードなどを設定して信号を受信します。
- ② ツールバーの[Recording]アイコンをクリックして、[Recording]ウインドウを表示します。
- ③ [Setting]ボタンをクリックして、[Setting]メニューを表示します。
- ④ [Rec Remote]チェックボックスをクリックして、リモート録音機能を“ON”にします。
- ⑤ [Recording]ウインドウの[●]ボタンをクリックすると、録音が始まります。  
※[||]ボタンをクリックすると、録音を一時停止します。
- ⑥ 録音を終了するときには、[■]ボタンをクリックします。



リモート録音機能チェックボックスにチェックを入れる

## 10 その他の機能(IC-PCR1500のみ)

### ■接続しているUSBポートの確認(IC-PCR1500のみ)

IC-PCR1500とパソコンを接続しているUSBポートの選択、確認ができます。

#### ◇ コントロールソフトが起動していないとき

- ① ツールバーの[Port Setting]アイコンをクリックして、[Port Setting]ダイアログボックスを表示します。
- ② [Search]ボタンをクリックすると、接続先のパソコンのUSBポート番号、IC-PCR1500のシリアル番号を表示します。  
※コンボボックスの[▼]ボタンをクリックすると、接続するパソコンのUSBポート番号を選択できます。
- ③ [OK]ボタンをクリックして、接続するパソコンのUSBポート番号を設定します。
- ④ [×]ボタンをクリックして、[Port Setting]ダイアログボックスを閉じます。

#### ◇ コントロールソフトが起動しているとき

- ① ツールバーの[Port Setting]アイコンをクリックして、[Port Setting]ダイアログボックスを表示します。
- ② 接続中のパソコンのUSBポート番号、IC-PCR1500のシリアル番号を表示します。  
※コントロールソフトが起動している間は、USBポート番号を選択できません。
- ③ [OK]ボタンをクリックして、接続するパソコンのUSBポート番号を設定します。
- ④ [×]ボタンをクリックして、[Port Setting]ダイアログボックスを閉じます。



Port Setting  
アイコン

#### ● コントロールソフト停止時

IC-PCR1500のシリアル番号、接続先のパソコンのUSBポート番号を表示します。



ほかに接続しているIC-PCR1500がある場合、クリックすると制御するIC-PCR1500を選択できます。

制御するIC-PCR1500のシリアル番号の確認が終了したら“ON”ボタンを押します。

接続しているIC-PCR1500シリアル番号と接続先のパソコンのUSBポート番号を検索します。

#### ● コントロールソフト起動時

制御中のIC-PCR1500のシリアル番号、接続中のパソコンのUSBポート番号を表示します。



制御中のIC-PCR1500のシリアル番号、接続中のパソコンのUSBポート番号の確認が終了したら“ON”ボタンを押します。

## ■ USBオーディオの機能設定について(IC-PCR1500のみ)

USBオーディオはパソコンの動作速度に影響をもたらす場合があります。パソコンの動作速度が気になる場合、「Port Setting」ダイアログボックスの「USB Audio Enable」チェックボックスで、USBオーディオ出力を“OFF”(初期設定値：“ON”)に設定してください。USBオーディオ出力を“OFF”にすると、一部の機能がご利用できなくなりますが(下表をご覧ください)、USBオーディオ出力が“ON”のときに比べてパソコンの動作が速くなります。

	“ON”のとき	“OFF”のとき
録音機能の使用	使用できます	使用できません
パソコンの音量設定	設定できます	設定できません

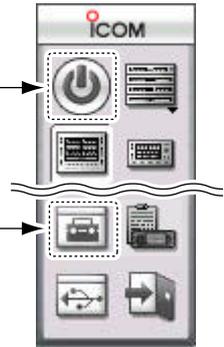
### ◇ USBオーディオ出力を“OFF”にするには

- ① IC-PCR1500コントロールソフトウェアが起動しているときは、ツールバーの[Power]アイコンをクリックして、コントロールソフトウェアの電源を“OFF”にしてください。
- ② ツールバーの[Port Setting]アイコンをクリックして、[Port Setting]ダイアログボックスを表示します。
- ③ [USB Audio Enable]チェックボックスのチェックをはずすと、USBオーディオ出力が“OFF”になります。
- ④ [X]ボタンをクリックして、[Port Setting]ダイアログボックスを閉じます。

※IC-PCR1500コントロールソフトウェアが起動している間は、USBオーディオ出力を切り替えできません。

[Power]アイコンをクリックして、コントロールソフトウェアの電源を“OFF”にします。

[Port Setting]アイコンをクリックして、[Port Setting]ダイアログボックスを表示します。



[USB Audio Enable]チェックボックスのチェックをはずすと、USBオーディオ出力が“OFF”になります。

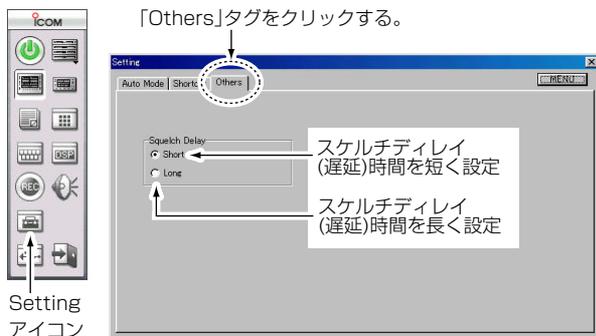
## 10 その他の機能

### ■ スケルチディレイを設定する

受信時のスケルチディレイ(遅延)の制御時間を設定できます。

[多機能/コンボ型/シンプル型]共通

- ① ツールバーの[Setting]アイコンをクリックして、Settingウインドウを表示します。
- ② [Others]タブをクリックして、Squelch Delay設定項目を表示します。
- ③ [Short]をクリックすると、スケルチディレイ(遅延)時間が短くなり、[Long]をクリックすると、スケルチディレイ(遅延)時間が長くなります。



◇ コントローラーによるスケルチディレイの設定のしかた(IC-R1500)

- ① [SET・LOCK]を短く押します。(SETモードを表示します。)
- ② [SET・LOCK]または[S.MW・MW]を短く押して、「スケルチディレイの設定」項目を選択します。



- ③ [DIAL]を回して、設定内容を選択します。
  - Sqt - L : スケルチディレイ時間が長くなります。(初期設定値)
  - Sqt - S : スケルチディレイ時間が短くなります。
- ④ [SET・LOCK]、[S.MW・MW]、[PWR]以外のボタンを短く押すと、SETモードを解除して周波数表示に戻ります。

### ■ ビープ音について(IC-R1500のみ)

キーを操作したときに、その操作が有効か無効かを下記のようにビープ音で知らせる機能です。

#### ● ビープ音の種類

- “ピッ” : 短く押すキー操作が正しいとき
- “ピッ、ピー” : 長く押すキー操作が正しいとき
- “ブッ” : キー操作が無効のとき
- “ピッ、ピビ” : メモリー書き込み操作が正しいとき

※ SETモードの「ビープ(操作音)の設定」項目(☞P57)で、ビープ音の“ON(鳴る)/OFF(鳴らない)”が設定できます。

## ■キーロック機能の使いかた(IC-R1500のみ)

不用意にツマミやキーに触れても、周波数や運用状態が変わらないようにする機能です。

- [SET・LOCK]を長く(約1秒)押すごとに、ロック機能が“ON/OFF”します。  
ロック中は、ディスプレイのメモリー表示部にロック表示“L”を点灯します。

※ いずれの状態においても、[MONI・T/T-SCAN](モニター機能のみ)、[SET・LOCK](ロック機能のみ)、[PWR]キーと[SQL]、[VOL]ツマミはロックしません。

## ■オートパワーオフ機能の使いかた(IC-R1500のみ)

このタイマーは、電源の切り忘れを防止するための機能です。運用を終了し、何も操作しない状態が設定したタイマー時間まで続くと、“ピー”音が5回鳴って電源が自動的に切れます。

◇ SETモードの「オートパワーオフ機能の設定」項目(☞P136)で時間を設定することができます。

- 30(30分)/1H(1時間)/2H(2時間)の指定時間がすぎると、電源が自動的に切れます。  
タイマーを1度セットすると、電源を入れるたびにタイマーが動作します。

※ 使用しないときは、“OFF”にしておきます。

## ■クローニングについて

同梱のCDでUSBドライバー、IC-PCR1500コントロールソフトウェアをインストールすると、クローニングソフトウェアが利用できます。

IC-R1500のメモリーデータなどをパソコンにコピーしたり、コピーしたデータをIC-R1500にクローニングできます。また、IC-PCR1500のデータをIC-R1500用に変換、その逆の変換もできます。

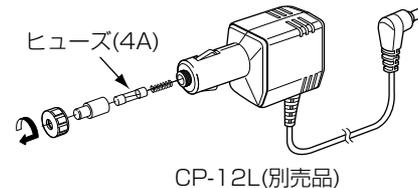
詳しくは別紙をご覧ください。

※クローニング機能はIC-R1500のみご使用いただけます。

## ■CP-12L(別売品)のヒューズ交換のしかた

別売品のCP-12Lのヒューズを交換するときは、下図のようにしてヒューズで交換してください。

ヒューズ容量：4A



## 10 その他の機能(IC-R1500のみ)

### ■リセット操作について(IC-R1500のみ)

静電気などによる外部要因で、CPUが誤動作してディスプレイの表示がおかしくなったときは、オールリセット操作をしてください。

#### ● オールリセット機能

すべての操作モードが初期設定値に戻りますので、運用に必要な情報をセットしなおしてご使用ください。プリセットされたメモリーデータもすべて消去されます。

メモリーデータを工場出荷時のプリセット状態に戻すときは、68ページをご覧ください。

運用モード、VFO周波数、バンド、受信モード、チューニングステップ(TS)、M-CH、メモリーバンク、SETモードなど

#### ● パーシャルリセット機能

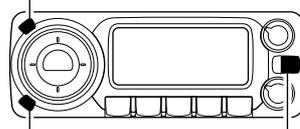
運用モード、VFO周波数、バンド、受信モード、SETモードなどを初期設定値(工場出荷時の状態)に戻します。

メモリー関係(M-CH、メモリーバンクなど)の内容は保持されます。

#### ◇ オールリセットの操作

- ① [PWR]を押して、いったん電源を切ります。
- ② [S.MW・MW]と[SET・LOCK]を同時に押しながら[PWR]を押して、電源を入れます。
- ③ 表示部に“CLEAR”を表示したあと、ビープ音が鳴り初期表示になります。

[SET・LOCK]



[S.MW・MW]

[PWR]



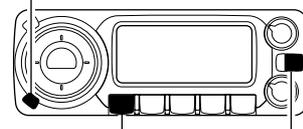
↓ CLEARを表示したあと  
初期設定表示になる



#### ◇ パーシャルリセットの操作

- ① [PWR]を押して、いったん電源を切ります。
- ② [S.MW・MW]と[V/MHz・SCAN]を同時に押しながら[PWR]を長く(約1秒)押し、電源を入れます。

[S.MW・MW]



[V/MHz・SCAN]

[PWR]

初期設定表示になる



## ■SETモードの設定のしかた

SETモードは、初期設定されている運用条件を、運用する状況やお好みの使いかたに応じて変更するモードです。

### ◇SETモードの操作

- ① [SET・LOCK]を短く押します。  
(SETモードを表示します。)



- ② [SET・LOCK]または[S.MW・MW]を短く押すごとに、設定項目が切り替わります。(次ページ参照)



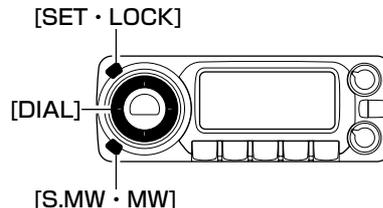
- ③ [DIAL]を回して、設定内容を選択します。



※ 続けてSETモードを設定するときは、③と④を繰り返し操作してください。

- ④ [SET・LOCK]、[S.MW・MW]、[PWR]以外のボタンを短く押すと、SETモードを解除して周波数表示に戻ります。

### ●SETモードで使用する操作キー



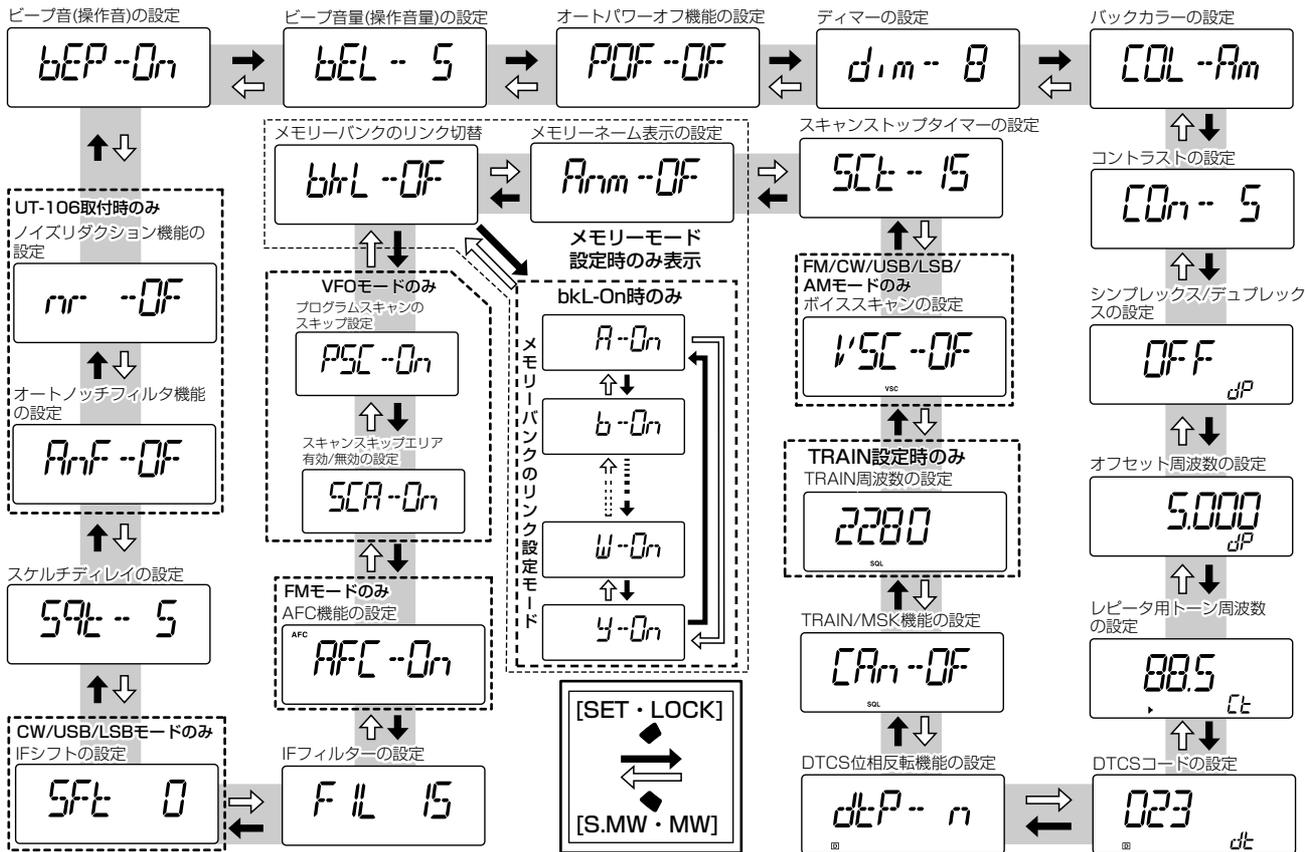
### ◇メモリーバンクのリンク設定モードについて

メモリーバンクのリンクを設定するとき、次の手順でメモリーバンクのリンク設定モードにしてください。

- ① SETモードでメモリーバンクのリンク設定を“ON”(bkL - On)にします。
- ② [SET・LOCK]または[S.MW・MW]を長く(約1秒)押すと、メモリーバンクのリンク設定モードに切り替わります。
- ③ [DIAL]を回して、リンクの“ON/OFF”を設定します。
- ④ [SET・LOCK]または[S.MW・MW]を短く押すと、リンクするバンクを選択できます。
- ⑤ [PWR]、[SET・LOCK]、[S.MW・MW]以外のボタンを短く押すと、メモリーバンクのリンク設定モードを解除して、SETモードに戻ります。

# 11 SETモードの設定(IC-R1500のみ)

## ◇ SETモードの設定項目一覧



<p><b>■ SETモードの項目について</b></p> <p>◇ <b>ビープ音(操作音)の設定</b></p> <p>キー操作が正しく行われたかどうかを知らせるビープ音を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>bEP - On</b> : ビープ音を鳴らします。 (初期設定値)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">bEP - On</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>bEP - OF</b> : ビープ音を鳴らしません。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>△<b>ご注意</b></p> <p>「bEP - OF」に設定しても、ポケットビープ動作時、電源ON/OFF時にはビープ音が鳴ります。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">bEP - OF</div>	<p>◇ <b>オートパワーオフ機能の設定</b></p> <p>自動的に電源を“OFF”にするオートパワーオフ機能を設定します。待ち受け状態(何も操作しない状態)が一定時間(下記の設定時間)続くと、自動的に電源を切ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>POF - OF</b> : オートパワーオフ機能を無効にします。(初期設定値)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">POF - OF</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>POF - 30</b> : 30分後に電源を切ります。</li> <li>● <b>POF - 1H</b> : 1時間後に電源を切ります。</li> <li>● <b>POF - 2H</b> : 2時間後に電源を切ります。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">POF - 2H</div> <p>※ オートパワーオフ機能を設定すると、ディスプレイに  表示が点灯します。</p>
<p>◇ <b>ビープ音(操作音)の音量設定</b></p> <p>ビープ音の音量を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>bEL - 5</b> : 1(小さい)～9(大きい)の中から選択します。 (初期設定値 : bEL - 5)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">bEL - 5</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">bEL - 9</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>△<b>ご注意</b></p> <p>ビープ音の音量を変えると、ポケットビープの呼び出し音、電源ON/OFF時のビープ音、各機能/項目の操作時のビープ音も変わります。特にビープ音を大きくしているときはご注意ください。</p> </div>	<p>◇ <b>ディマーの設定</b></p> <p>ディスプレイの明るさを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>dim - 8</b> : dim - 1(暗い)～dim - 8(明るい)の中から選択します。 (初期設定値 : dim - 8)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">dim - 8</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">dim - 5</div>

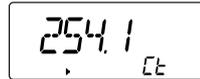
## 11 SETモードの設定(IC-R1500のみ)

<p>◇ バックカラーの設定</p> <p>ディスプレイのバックカラーを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● COL - Am : ディスプレイのバックカラーを橙色にします。 (初期設定値)</li></ul> <p>COL --Am</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● COL - yE : ディスプレイのバックカラーを黄色にします。</li></ul> <p>COL --Gr</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● COL - Gr : ディスプレイのバックカラーを緑色にします。</li></ul>	<p>◇ シンプレックス/デュプレックスの設定</p> <p>シンプレックス/デュプレックスを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● OFF : シンプレックスモードにします。 (初期設定値)</li></ul> <p>OFF<sub>dP</sub></p> <ul style="list-style-type: none"><li>● dUP- : デュプレックスモード(マイナス方向にシフト)にします。</li></ul> <p>dUP--<sub>dP</sub></p> <ul style="list-style-type: none"><li>● dUP+ : デュプレックスモード(プラス方向にシフト)にします。</li></ul>
<p>◇ コントラストの設定</p> <p>ディスプレイのコントラストを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● CO<sub>n</sub> - 5 : CO<sub>n</sub> - 1(薄い)~CO<sub>n</sub> - 9(濃い)の中から選択します。 (初期設定値: CO<sub>n</sub> - 5)</li></ul> <p>CO<sub>n</sub> -- 5</p> <p>CO<sub>n</sub> -- 9</p>	<p>◇ オフセット周波数の設定</p> <p>デュプレックスモード時のオフセット周波数を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 5.000 : 0.000~1000.000MHzの中から選択します。 (初期設定値はバンドによって異なります。)</li></ul> <p>5.000<sub>dP</sub></p> <p>1000.000<sub>dP</sub></p>

◇ トーンスケルチ用トーン周波数の設定

トーンスケルチ、ポケットビープで使用するトーン周波数を設定します。

- **88.5** : 67.0~254.1Hz(51波)の中から選択します。  
(初期設定値 : 88.5Hz)



67.0	88.5	118.8	159.8	186.2	225.7
69.3	91.5	123.0	162.2	189.9	229.1
71.0	94.8	127.3	165.5	192.8	233.6
71.9	97.4	131.8	167.9	196.6	241.8
74.4	100.0	136.5	171.3	199.5	250.3
77.0	103.5	141.3	173.8	203.5	254.1
79.7	107.2	146.2	177.3	206.5	(単位 : Hz)
82.5	110.9	151.4	179.9	210.7	
85.4	114.8	156.7	183.5	218.1	

◇ DTCSコードの設定

コードスケルチ、DTCSビープで使用するコードを設定します。

- **023** : 023~754(104波)の中から選択します。  
(初期設定値 : 023)



023	051	114	143	174	245	266	332	411	452	506	612	703
025	053	115	145	205	246	271	343	412	454	516	624	712
026	054	116	152	212	251	274	346	413	455	523	627	723
031	065	122	155	223	252	306	351	423	462	526	631	731
032	071	125	156	225	255	311	356	431	464	532	632	732
036	072	131	162	226	261	315	364	432	465	546	654	734
043	073	132	165	243	263	325	365	445	466	565	662	743
047	074	134	172	244	265	331	371	446	503	606	664	754

◇ DTCS極性反転機能の設定

受信側でコードの検出の極性を設定します。

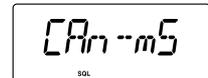
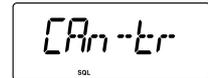
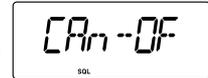
- dtP - n : 反転しません。(初期設定値)
- dtP - r : 反転します。



◇ TRAIN/MSK機能の設定

TRAIN(空線キャンセラー)とMSK制御信号の検出機能を選択します。

- CAn - OF : TRAIN/MSK機能ともに“OFF”にします。(初期設定値)
- CAn - tr : 鉄道無線で通話を行っていない周波数で聞こえる空線信号を検出することができます。
- CAn - mS : MCA無線で聞こえるMSK制御信号を検出することができます。



## 11 SETモードの設定(IC-R1500のみ)

### ◇ TRAIN周波数の設定

空線信号の周波数を可変することができます。

- **2280** : 300～3000Hzの範囲を、10Hzステップで設定できます。  
(初期設定値：2280Hz)

2280  
SQL

※ この項目は、TRAIN/MSK機能(SQL表示点灯)を設定したときに、「CAN-TR」モードにしなければ表示されません。

### ◇ VSC(ボイススケルチコントロール)機能の設定

VSC(ボイススケルチコントロール)機能の“ON/OFF”を設定します。

- **VSC - OF** : AFC(自動周波数制御)機能を“OFF”にする。(初期設定値)
- **VSC - On** : AFC(自動周波数制御)機能を“ON”にする。

VSC --OF  
VSC

VSC --On  
VSC

### ◇ スキャンストップタイマーの設定

スキャン動作中に信号を受信して一時停止したあと、再スタートするまでの条件を設定します。

Sct -- 15

- スキャンストップタイマーの条件を下表の中から選択します。  
(初期設定値：SCT - 15)

SCP -- 2

表示	動作内容
Sct - 5	一時停止してから5秒後に再スタートします。
Sct - 10	一時停止してから10秒後に再スタートします。
Sct - 15	一時停止してから15秒後に再スタートします。
SCP - 2	信号を受信しているあいだは一時停止し、信号が無くなると約2秒後に再スタートします。

### ◇ メモリーネーム表示の設定

M-CHに付けたメモリーネームの表示機能を設定します。

- **Anm - OF** : メモリーネームを表示しない。(初期設定値)
- **Anm - On** : 周波数表示部にメモリーネームを表示します。

Anm --OF

Anm --On

※ この項目は、メモリーモードのときにSETモードにしなければ表示されません。

## ◇メモリーバンクのリンク設定

メモリーバンクのリンク機能を設定します。  
リンク機能によりバンクスキャン選択時、編集しているすべてのメモリーバンクをスキャンします。

- **bkL - OF** :メモリーバンクをリンクしません。(初期設定値)
- **bkL - On** :メモリーバンクをリンクします。

※この項目は、メモリーモードのときにSETモードにしなければ表示されません。

## ◇各バンクのリンクを設定する(メモリーバンクリンク設定モード)

※各バンクのリンクを設定するには、メモリーバンクのリンク設定モード(☞P134)にしてください。

- ① **bkL - On(リンクする)**を選択したときは、[SET・LOCK]または[S.MW・MW]を短く押して、リンクするバンクを選択します。
- ② [DIAL]を回して、リンクの“ON/OFF”を選択します。
  - **A - On/OFF** :バンク“**A**”のリンクを選択します。
  - **b - On/OFF** :バンク“**B**”のリンクを選択します。
  - **C - On/OFF** :バンク“**C**”のリンクを選択します。
  - **d - On/OFF** :バンク“**D**”のリンクを選択します。
  - **E - On/OFF** :バンク“**E**”のリンクを選択します。
  - **F - On/OFF** :バンク“**F**”のリンクを選択します。

●各バンクのリンクを設定する(メモリーバンクリンク設定モード)(つづき)

- **G - On/OFF** :バンク“**G**”のリンクを選択します。
- **H - On/OFF** :バンク“**H**”のリンクを選択します。
- **J - On/OFF** :バンク“**J**”のリンクを選択します。
- **k - On/OFF** :バンク“**K**”のリンクを選択します。
- **L - On/OFF** :バンク“**L**”のリンクを選択します。
- **m - On/OFF** :バンク“**M**”のリンクを選択します。
- **n - On/OFF** :バンク“**N**”のリンクを選択します。
- **o - On/OFF** :バンク“**O**”のリンクを選択します。
- **P - On/OFF** :バンク“**P**”のリンクを選択します。
- **q - On/OFF** :バンク“**Q**”のリンクを選択します。
- **r - On/OFF** :バンク“**R**”のリンクを選択します。
- **t - On/OFF** :バンク“**T**”のリンクを選択します。
- **U - On/OFF** :バンク“**U**”のリンクを選択します。
- **W - On/OFF** :バンク“**W**”のリンクを選択します。
- **y - On/OFF** :バンク“**Y**”のリンクを選択します。

## ◇プログラムスキャンスキップの設定

VFOスキャン、プログラムスキャン時に“**P<sub>SKIP</sub>**”が指定された周波数をスキップするかしないかを設定します。

- **PSC - OF** :“**P<sub>SKIP</sub>**”が指定された周波数をスキップします。(初期設定値)
- **PSC - On** :“**P<sub>SKIP</sub>**”が指定された周波数をスキップしません。

## 11 SETモードの設定(IC-R1500のみ)

<p>◇ スキャンスキップエリアの有効/無効の設定</p> <p>クローニングソフトウェアで、スキャンスキップエリアをクローニングしたとき、スキャン時にクローニングした内容を有効にするか無効にするかを設定します。</p> <p>※この項目は、クローニングソフトウェアでスキャンスキップエリアをクローニングしたときだけ表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● SCA - On : スキャン時にクローニングした内容を有効にします。</li><li>● SCA - OF : スキャン時にクローニングした内容を無効にします。</li></ul>	<p>◇ IFフィルター通過帯域幅の設定</p> <p>IFフィルターの通過帯域幅を設定します。設定しているモードによって、選択できる通過帯域幅が異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● FIL 3 : 3kHz、6kHz、15kHz、50kHz、230kHzの中から通過帯域幅を選択します。 (初期設定値：設定モードによって異なります。)</li></ul>
<p>◇ AFC(自動周波数制御)機能の設定</p> <p>AFC(自動周波数制御)機能の“ON/OFF”を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● AFC - OF : AFC(自動周波数制御)機能を“OFF”にする。(初期設定値)</li><li>● AFC - On : AFC(自動周波数制御)機能を“ON”にする。</li></ul>	<p>◇ IFシフト機能の設定</p> <p>IFフィルターの通過帯域幅を上側、または下側に移動し、近接波からの混信を除去します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● SFt 0 : -25~+25の範囲で設定できます。 (初期設定値：SFt 0)</li></ul>

SCA-On

SCA-OF

FIL 15

AFC AFC-OF

AFC AFC-On

SFt 0

SFt +25

## ◇ スケルチディレイの設定

受信時のスケルチディレイ(遅延)制御時間を設定します。

- Sqt - L : スケルチディレイ(遅延)時間が長くなります。  
(初期設定値)

- Sqt - S : スケルチディレイ(遅延)時間が短くなります。

## ◇ NR(Noise Reduction)機能の設定

受信したアナログ信号をデジタル処理し、ノイズ成分と信号成分を分離して信号成分だけを取り出します。

- nr - OF : AFC(自動周波数制御)機能を“OFF”にする。  
(初期設定値)

- nr - 0 : 0~15の範囲でノイズ除去レベルが設定できます。

## ◇ ANF(Automatic Notch Filter)機能の設定

SSB、FM、AMモード受信中、音声信号にビート信号やCWまたはRTTYによる混信を受けると、混信信号を自動判別して減衰します。

- AnF - OF : ANF(オートノッチ)機能を“OFF”にする。(初期設定値)

- AnF - On : ANF(オートノッチ)機能を“ON”にする。

# 12 UT-106(別売品DSPユニット)について

## ■ UT-106の取り付け

別売品のUT-106はDSP(Digital Signal Processor)によるデジタル信号処理により、受信時のノイズや混信除去などに威力を発揮します。

このユニットを装着すると、次の機能をご使用いただけます。

※ ANF(オートノッチフィルター)機能

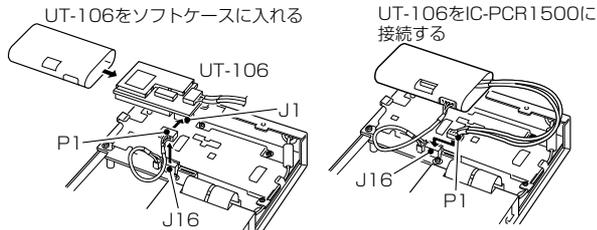
※ NR(ノイズリダクション)機能

### ● UT-106の取り付け方

#### △ご注意

カバーを外す前に、コントロールソフトや本体の電源を切り、ACアダプターのコードや他の接続コードをはずしてから作業にかかってください。

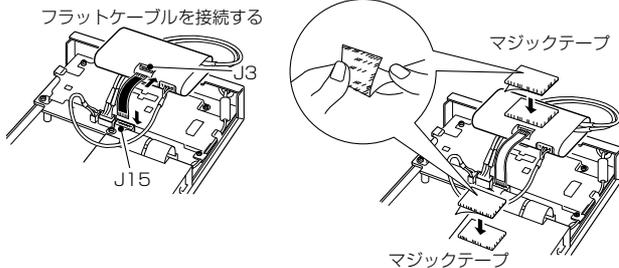
- ① 分解手順(※P126)にしたがって、カバーをはずします。
- ② 付属のソフトケースをUT-106に取り付けます。
- ③ LOGICユニットのJ16に接続しているコネクターP1(4ピン)をはずし、UT-106のJ1に接続します。
- ④ UT-106からの接続コネクターP1(4ピン)をLOGICユニットのJ16に接続します。



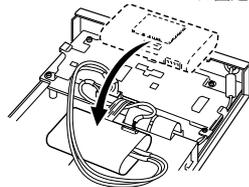
- ⑤ 付属のフラットケーブルをUT-106のJ3、LOGICユニットのJ15にそれぞれ接続します。

※電極(接点側)の向きを確認して接続してください。

- ⑥ 付属のマジックテープの薄紙をはがし、UT-106(ソフトケースに入った状態)の表面、MAINユニット(シールドケース上)にそれぞれ貼り付け、MAINユニットに固定します。



マジックテープでUT-106をIC-PCR1500に固定する

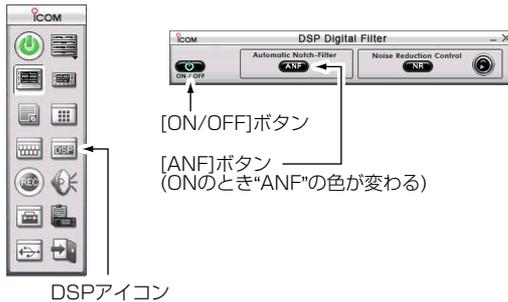


- ⑦ カバーに接続コードを接続し、カバーを元どおりに取り付けます。

## ■ ANF(Automatic Notch Filter)機能について

SSB、FM、AMモード受信中、音声信号にビート信号やCWまたはRTTYによる混信を受けると、混信信号を自動判別して減衰します。

- ① ツールバーの[DSP]アイコンをクリックして、「DSP Digital Filter」ウインドウを表示します。
- ② [ON/OFF]ボタンをクリックして、DSP機能が“ON”になると、ボタン内の色が変わります。  
※もう一度クリックすると、“OFF”になります。
- ③ [ANF]ボタンをクリックすることにより、DSPのANF機能を“ON/OFF”します。  
※“ON”のときは、ボタン内の色が変わります。



### ◇ コントローラーによるANF機能の設定(IC-R1500)

- ① [SET・LOCK]を短く押してSETモードにします。  
(SETモードを表示します。)
- ② [SET・LOCK]または[S.MW・MW]をして、「ANF(Automatic Noise Filter)機能の設定」を選択します。
- ③ [DIAL]を回すと、ANF機能が“ON/OFF”します。



- ④ [SET・LOCK]、[S.MW・MW]、[PWR]以外のボタンを短く押すと、SETモードを解除します。  
※“ON”のときは、表示部に“DSP”が表示されます。



## 12 UT-106(別売品DSPユニット)について

### ■NR(Noise Reduction)機能について

受信したアナログ信号をデジタル処理し、ノイズ成分と信号成分を分離して信号成分だけを取り出します。

- ① ツールバーの[DSP]アイコンをクリックして、「DSP Digital Filter」ウインドウを表示します。
- ② [ON/OFF]ボタンをクリックして、DSP機能を“ON”になり、ボタン内の色が変わります。  
※もう一度クリックすると、“OFF”になります。
- ③ [NR]ボタンをクリックすることにより、DSPのNR機能を“ON/OFF”します。  
※“ON”のときは、ボタン内の色が変わります。
- ④ NR機能“ON”のときに、[Noise Reduction Control]ツマミを右クリックすると、ノイズ除去レベルが高くなり、左クリックでノイズ除去レベルが低くなります。  
ノイズが最も減衰し、受信信号がひずまないように調整します。



### ◇コントローラーによるNR機能の設定(IC-R1500)

- ① [SET・LOCK]を短く押してSETモードにします。(SETモードを表示します。)
- ② [SET・LOCK]または[S.MW・MW]をして、「NR(Noise Reduction)機能の設定」を選択します。
- ③ [DIAL]を回すと、NR機能が“ON/OFF”します。  
※0～15の範囲でノイズ除去レベルが設定できます。



- ④ [SET・LOCK]、[S.MW・MW]、[PWR]以外のボタンを短く押すと、SETモードを解除します。  
※“ON”のときは、表示部に“DSP”が表示されます。



■ テレビ放送(音声)周波数一覧 単位：MHz

CH番号	周波数	CH番号	周波数	CH番号	周波数
VHF 1CH	95.75	UHF 22CH	529.75	UHF 43CH	655.75
2CH	101.75	23CH	535.75	44CH	661.75
3CH	107.75	24CH	541.75	45CH	667.75
4CH	175.75	25CH	547.75	46CH	673.75
5CH	181.75	26CH	553.75	47CH	679.75
6CH	187.75	27CH	559.75	48CH	685.75
7CH	193.75	28CH	565.75	49CH	691.75
8CH	197.75	29CH	571.75	50CH	697.75
9CH	203.75	30CH	577.75	51CH	703.75
10CH	209.75	31CH	583.75	52CH	709.75
11CH	215.75	32CH	589.75	53CH	715.75
12CH	221.75	33CH	595.75	54CH	721.75
UHF 13CH	475.75	34CH	601.75	55CH	727.75
14CH	481.75	35CH	607.75	56CH	733.75
15CH	487.75	36CH	613.75	57CH	739.75
16CH	493.75	37CH	619.75	58CH	745.75
17CH	499.75	38CH	625.75	59CH	751.75
18CH	505.75	39CH	631.75	60CH	757.75
19CH	511.75	40CH	637.75	61CH	763.75
20CH	517.75	41CH	643.75	62CH	769.75
21CH	523.75	42CH	649.75		

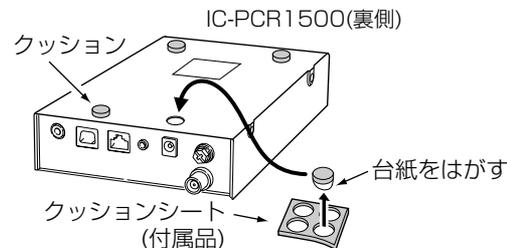
アナログ放送からデジタル放送への移行について

- 本製品は地上デジタル放送(音声)に対応していません。
- 地上デジタル放送は関東、中京、関西の三大広域圏の一部で2003年12月から放送されています。その他の地域でも、2006年末までに放送が開始されます。
- 地上アナログ放送は2011年7月に、BSアナログ放送は2011年内に終了することが、国の方針で決定しています。

■ 付属品の取り付けかた

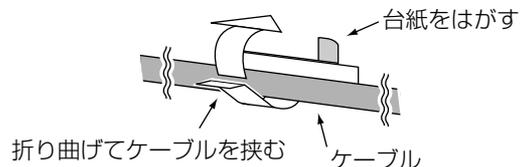
◇ クッションの取り付けかた

クッションは、下記のように本製品の底面に貼り付けます。  
※丸く型抜きされたクッションが4個、粘着面を保護する台紙の上にあります。



◇ ワイヤーステッカーの取り付けかた

ワイヤーステッカーはアンテナケーブルなどを固定するときにお使いになると便利です。粘着面を保護する台紙をはがしてお使いください。



## 13 ご参考に

### ■故障かな?と思ったら

下表にあげた状態は故障ではありませんので、修理に出す前にもう一度点検してください。

それでも異常があるときは、弊社各営業所のサービス係まで、その状態を具体的にご連絡ください。

状 態	原 因	処 置	参照
●電源が入らない	◎ACアダプターが本製品に接続されていない ◎ACアダプターをパソコンなどの電源と連動したコンセントに接続している ◎別売品CP-12Lのヒューズが切れている	●ACアダプターおよびDCプラグの接続を確認する  ●本製品のACアダプターを壁などのコンセントに直接接続する ●CP-12Lのヒューズを交換する	P1  P1 P132
●スピーカーから音が出ない	◎音量が小さくなっている ◎イヤホンを接続している	●[AF GAIN]を調整して、音量を設定しなおす ●[EXT SP]ジャックにプラグが接続されていないかを点検する	P41 P38
●感度が悪く、強い局しか聞こえない	◎アンテナの向きが悪い ◎アッテネーターが“ON”になっている	●アンテナをよく聞こえる方向に向ける ●アッテネーターを“OFF”にする	P1 P52, 53
●キーボードから周波数の設定ができない(IC-PCR1500)	◎キーボードの入力設定が“直接入力”になっていない	●キーボードの入力設定を“直接入力”にする	P47
●プログラムスキャンが動作しない	◎PROGRAM-CHの“Freq Low”と“Freq High”に同じ周波数が書き込まれている ◎スケルチが開いている	●“Freq Low”と“Freq High”に違う周波数を書き込む  ●スケルチを設定する	P79 P90  P41, 42
●メモリスキャンが動作しない	◎M-CHに2CH以上書き込まれていない ◎スケルチが開いていない	●2CH以上をM-CHに書き込む ●スケルチを設定する	P84, 91 P41, 42
●コントロールソフトを起動するとCommunicationエラーが発生する	◎パソコンがIC-PCR1500を認識していない	●本製品の電源を入れて、20秒ほど経過してからコントロールソフトを起動する	P23
●外部電源を使用すると電源が消えることがある	◎外部電源の保護回路により、電源の供給がストップしている	●保護回路内蔵型の外部電源を使用する場合、電流の容量に余裕のある外部電源を使用する。	—

## ■アフターサービスについて

### ●保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

### ●修理を依頼される時

取扱説明書にしたがって、もう一度、本製品とパソコンの設定、「故障かな?と思ったら(※P147)」などを調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

#### 保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

#### 保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

### ●保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

## ◇弊社製品のお問い合わせ先について

●お買い上げいただきました弊社製品の技術サポートなどご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

連絡先：アイコム株式会社 サポートセンター (平日 9:00~12:00、13:00~17:00)

06-6792-4949

電子メール：support\_center@icom.co.jp アイコムホームページ：http://www.icom.co.jp/

●弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、下記の弊社各営業所カスタマーサービス担当にお問い合わせください。

北海道営業所 003-0806 札幌市白石区菊水6条2-2-7 TEL 011-820-3888

東京営業所 103-0007 東京都中央区日本橋浜町3-42-3 TEL 03-5847-0722  
カスタマーサービス TEL 03-5847-0724

広島営業所 733-0842 広島市西区井口3-1-1 TEL 082-501-4321

九州営業所 815-0032 福岡市南区塩原4-5-48 TEL 092-541-0211

仙台営業所 983-0857 仙台市宮城野区東十番丁54-1 TEL 022-298-6211

名古屋営業所 468-0066 名古屋市天白区元八事3-249 TEL 052-832-2525

大阪営業所 547-0004 大阪市平野区加美鞍作1-6-19 TEL 06-6793-0331

四国営業所 760-0071 高松市藤塚町3-19-43 TEL 087-835-3723

# 14 定格と別売品について

## ■ 定 格

### ◇ 一般仕様

- 受信周波数範囲：0.010 ~ 252.899999MHz  
255.100 ~ 261.899999MHz  
266.100 ~ 270.899999MHz  
275.100 ~ 379.899999MHz  
382.100 ~ 411.899999MHz  
415.100 ~ 809.899999MHz  
834.100 ~ 859.899999MHz  
889.100 ~ 914.899999MHz  
960.100 ~ 3299.999999MHz

(一部周波数を除きます。ただし、動作保証周波数範囲は0.49500~3000.000MHz以内)

- 電 波 型 式：FM、AM、USB/LSB、CW、WFM
- 使 用 温 度 範 囲：(本体) 0℃~+60℃  
(コントローラー) -10℃~+60℃
- 周 波 数 安 定 度：±3PPM以下(-10℃~+60℃)
- 周 波 数 分 解 能：1Hz\*1、10Hz、20Hz、50Hz、  
100Hz、500Hz、1kHz、2.5kHz、  
5kHz、6.25kHz、8.33kHz、9kHz、  
10kHz、12.5kHz、15kHz、20kHz、  
25kHz、30kHz、50kHz、100kHz、  
125kHz、150kHz、200kHz、  
500kHz、1MHz、10MHz\*1、ユーザー  
設定\*1、オート周波数ステップ\*2  
\*1IC-PCR1500のみ設定できます。  
\*2IC-R1500のみ設定できます。

- 電 源 電 圧：DC 12.0V±15%
- 接 地 方 式：マイナス接地
- アンテナインピーダンス：50Ω 不平衡(BNC型)

### ● 受 信 消 費 電 流：

[電源ON時]	最大出力時	1.2A以下
	受信待ち受け時	0.65A(typical)
[電源OFF時]	PC(USB端子VBAS-ON時)	0.55A(typical)
	PC(USB端子VBAS-OFF時)、 コントローラー使用時	0.015A(typical)

### ● 外 形 寸 法：

(本体)	146(W)×41(H)×206(D)mm
(コントローラー)	111(W)×40(H)×26.5(D)mm (突起物を除く)

- 重 量：約1.2kg(本体)  
約0.2kg(コントローラー)

### ◇ 受信部

- 受 信 方 式：トリプルスーパーヘテロダイ  
+ダウンコンバータ
- 中 間 周 波 数：1st IF ; 266.700MHz  
2nd IF ; 10.700MHz  
3rd IF ; 450kHz(WFMを除く)
- 選 択 度：

SSB/CW/AM	2.8kHz以上/-6dB (typical)
SSB/CW/AM/FM	6.0kHz以上/-6dB (typical)
AM/FM	15kHz以上/-6dB (typical)
AM/FM/WFM	50kHz以上/-6dB (typical)
WFM	230kHz以上/-6dB (typical)

- 低 周 波 出 力：0.5W以上(8Ω負荷、10%歪率時)
- 低周波負荷インピーダンス：8Ω
- IFシフト可変範囲：±1.2kHz以上

■ 定 格 (つづき)

● 受 信 感 度 :

項目名	受信周波数範囲(MHz)	受信感度	SQL感度*1
SSB/CW 10dB S/N BW=2.8kHz	0.495~ 1.799999	14dB $\mu$	37dB $\mu$
	1.8~ 14.999999	-6dB $\mu$	17dB $\mu$
	15~ 49.999999	-6dB $\mu$	17dB $\mu$
	50~ 699.999999	-8dB $\mu$	15dB $\mu$
	700~1300.000000	-6dB $\mu$	17dB $\mu$
AM 10dB S/N BW=6.0kHz	0.495~ 1.799999	28dB $\mu$	25dB $\mu$
	1.8~ 14.999999	8dB $\mu$	-1dB $\mu$
	15~ 49.999999	8dB $\mu$	-1dB $\mu$
	50~ 299.999999	6dB $\mu$	-3dB $\mu$
	300~ 699.999999	6dB $\mu$	-3dB $\mu$
700~1300.000000	8dB $\mu$	-1dB $\mu$	
FM 12dB SINAD BW=15kHz (1kHz 3.5kHz DEV)	28~ 29.999999	-4dB $\mu$	-4dB $\mu$
	30~ 49.999999	-4dB $\mu$	-4dB $\mu$
	50~ 239.999999	-6dB $\mu$	-6dB $\mu$
	240~ 279.999999	-6dB $\mu$	-6dB $\mu$
	280~ 299.999999	-6dB $\mu$	-6dB $\mu$
	300~ 699.999999	-6dB $\mu$	-6dB $\mu$
	700~ 1300.000000	-4dB $\mu$	-4dB $\mu$
	1300*2~ 2299.999999	15dB $\mu$	15dB $\mu$
	2300~ 3000.000000	25dB $\mu$	25dB $\mu$
WFM 12dB SINAD BW=230kHz (1kHz 52.5kHz DEV)	50~ 699.999999	3dB $\mu$	15dB $\mu$
	700~ 1300.000000	5dB $\mu$	17dB $\mu$
	1300*2~ 2299.999999	25dB $\mu$	37dB $\mu$
2300~ 3000.000000	35dB $\mu$	47dB $\mu$	

\*1スレッシュホールドで測定したとき

\*21300.000001MHzを表します。

※測定値は、JAJA(日本アマチュア無線機器工業会)で定めた測定法によります。

● 付属のACアダプター(AD-113)は0℃~+45℃が動作保証となりますので、動作保証範囲内でご使用ください。

■ 別売品一覧

- UT-106 DSPユニット
- OPC-441 スピーカー延長ケーブル(5m)
- OPC-1156 IC-R1500用コントローラー延長セパレートケーブル(3.5m)
- CP-12L シガレットライターケーブル
- OPC-254L 電源供給ケーブル
- SP-10 外部スピーカー
- AD-113 ACアダプター(補修品)

SP-10  
外部スピーカー



\*※定格、外観、仕様などは、改良のため予告なしに変更することがあります。

高品質がテーマです。